

548  
27



\* 0034102000 \*

2

0034102-000

548-27

解放群書

解放社

第38編

昭和4

AGC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権  
第67条の規定に基づき、平成12年3月2  
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの







牙 葡 葡 · 牙 班 西 · 利 太 伊

# 南 歐 社 會 運 動 史

— 延 島 英 —

東 京 解 放 社 發 行



53.



世界社會運動史全集二十冊中

延島英一著

伊  
太  
利  
西  
班  
牙  
葡  
萄  
牙

社會運動史全

解放社





548-27

## 序

本書の著者は、第一に著者が伊太利語、西班牙語、葡萄牙語に就て皆目無知であることを白状しなければならぬ。故に著者は、茲に伊太利、西班牙、葡萄牙の社會運動史を書くに當つても、全然それ等の國の夫々の原語で書いた文獻を参照することは出来なかつた。唯だ儘かに著者の極めて貧弱な英吉利語及び佛蘭西語の知識を通じて、英佛語で書かれた其の社會主義及び社會運動に關する書籍を読み、それによつて此の三ヶ國の社會運動史は編述されたのである。

しかし、これ等の國々の社會主義及び社會運動に關する文獻は、英佛語に於いても決して豊富にあるとはいはれない。或る一定の時期を限つては相當いゝものもないではないが、その運動の初發から今日に至るまでの歴史を相當詳しく、且つ系統的に書いたものは、先づ皆無といつていゝのではないかと思ふ。もつとも伊太利の社會主義に就いては、ミヘルス Robert Michels の近業があるさうであるが、あいにくそれは獨逸語（少くとも日本に輸入されてゐるものは）で書かれてあるので、著者は彼の他の著述、例へば『政黨の研究』とか『ブルジュワとプロレタリア』



等の如くには、それを利用し裨益を受けることは出来なかつた。故に此の渺たる伊太利、西班牙、葡萄牙の社會運動史には、割合に多くの勞力が費やされてゐるのである。即ち一冊、乃至は四五冊の本を机上に並べて、それ等を参照しつゝ書いたものではなくて、或る一時期、或る一學說、或る一運動を夫々研究した多くの著述を参照し、それ等から或ひは多くの、或ひは少々の材料を集めて來て、それを著者自身が系統をたて、配列して書き上げたものである。著者が此の小著のために六十餘種類の書籍を参照したといつたら、或ひは讀者は驚かれるかも知れないが、しかしそれは事實なのである。だがかほどに努力しても、原語を知らない悲しさ、隔靴搔痒の感深くして、満足なもの、出来ないのは遺憾千萬である。さりながらこれ等の國々の社會運動に就いて、斯程長年月に亘り、斯程系統的に書いたものは、未だ日本語に於いて（英佛語に於いてもと考へてゐる）ないから、此の書が多少は日本の社會運動を益するであらうと、小さな自負と満足を感じてゐる次第である。

著 者 識

目 次

伊太利篇

緒 言	三
若干の先驅者	六
マツジニ	七
インタアナショナル	九
合法的労働黨	三二
社會主義労働黨	三八
國王暗殺	四二
大總同盟罷業	五三
サンデイカリズムの勃興	六二
サンデイカリストの敗北	六八



ネオ・マルキシズム	七五
トリポリ戦争前	八四
一九三―一四年	九〇
六月の總同盟罷業	九八
市町會選舉	一〇八
歐洲大戰	一一〇
ボルシェヴィキ	一二五
ムツソリニ	一三八
ファシヨ運動	一四〇
ファシズムの理論	一四七
ファシズムの實際	一五三
其の後の社會運動	一五八

### 西班牙篇 『附、葡萄牙篇』

緒言	一六三
ムンツの運動	一六九
インタアナシヨナル	一七二
政府の壓迫	一八二
ポオル・ラファルグの策動	一八五
カントナリストの叛亂	一九一
王政復舊	一九六
インタアナシヨナルの復活	一九八
黒手團	二〇四
サンデイカリズム	二一〇
フランシスコ・フェレル	二一五







緒言

我々が今日見る伊太利王國は極めて近代の發生である。一八六一年、サルディニア王ヴィクトル・エマヌエル二世は今日の伊太利の大部分を統一し、伊太利王位に即いた。其の後數次に亘つて、伊太利領を奪還して今日に至つたのである。伊太利は昔から多くの都市に分れてゐたが、國人は割合に統一されて居り、約四千万の人口中、外國人は三十五万人を超えない。大體農業國で、大都市少なく、教育振はず、國人の約七割は無教育であるが、一方カトリック教は此の農民の間に大勢力を有してゐる。しかし乍ら歴史的にも文化的にも、北部と南部との間には多くの相違があり、これが伊太利國民生活に重大なる反映を投じてゐる。

『如何なる觀點から考察するにせよ、現代の伊太利の事情を研究せんとする時は、先づ第一に伊太利の歴史と文化の中に於て遭遇する一切の矛盾に對して鍵を我々に與ふる、本質的な、根本的な一つの事實を辨へて置かねばならぬ。それは北部と南部との間に於ける歴史的不均衡、水準の



恒久的不平衡である。此の不均衡と不平衡とは伊太利全體を苦しめて來たのであり、又尙ほ永い間苦しめるであらう。

『其の廣袤を通じて、事實に於て此の大半島は一個の統一體を構成し得るには、餘りに相違せる人種的、歴史的、心理的狀態を示してゐるのである。』

『北部にはエネルギイの巨大なる貯藏所であるポオの平原がある。それは未だ可能なる一切の利用をされて居らぬ。そして將來伊太利は此の平原に『白い石炭』の驚くべき富を負ふであらう。集約農法に依つて耕され、よく働き且つ自負心に富む人々に依つて住まはれ、此の平原は無数の工場を有し、生命に溢れてゐる。』

『伊太利の他の一端（南部）には、反對に非常に豊饒な且つ産物に富むところの、だが大地主の過失の爲めに大部分耕されない儘でゐるか、乃至は牧畜に抛棄されてゐるカラブリアとシシリヤの土地が廣がつてゐる。頻繁なる地震の損害を蒙つてゐる此れ等の土地には、よく働く質素な、だが無精で、失望した數世紀終ることなき政治的及び經濟的奴隸狀態に依つて愚かにされた人々が居る。新伊太利は此れ等の人々に唯だ最も破廉恥な議會的腐敗と信用無き財政制度とを與へる』

爲めに、すべての教育及びすべての安寧を拒絶することに依つて、彼等に何等の信頼をも起させなかつた。其處では他國への移住といふことが一つの永久的性質を帯びた。農村は益々荒廢するに至つた。南方伊太利の諸州は、進歩の點に於ては其の餘の諸州に比して一世紀遅れてゐる。……『此の不均衡の結果は常に多數であり且つ重大であつた。産業生活が非常な發達をなした、従つて有力な且つ恐るべきプロレタリア運動の存在する北部に比して、南方諸州は哀しむべき黙從を代表してゐる。パンリカタに於ては原始的な、かて、加へて非常に制限された農業しか知られてゐない。シシリヤに於ては、大地主の土地(Latifondi)は非常に下手に管理されて居り、土地は謂はゞ抛棄されてゐる。何處でも資本主義以前の生産形式だ！ ナポリは住民百万以上の中心地であるが、其處には一切の資本主義的及び工業的運動が缺けてゐる。其處で復興の若干の徴候が見え始めたのは極めて最近のことである。』

『カラブリアの山だらけの三州も亦近代生活の熱病的運動の全く外に立つてゐる。……』

『故に伊太利の最南端はシシリヤ及びサルディニヤと共に、若干の著述家が現代に於ける『未開の伊太利 (Italia barbara contemporanea)』と呼ぶものを代表してゐるのである。それは之等の地』



方が道路、鐵道、橋梁を奪ひ去られてゐるといふことを意味してゐるのである。堤防も無ければ又運河もない。其處では通信機關も往々缺けてゐる。かゝる状態に對する自然の且つ正當な反動として、犯罪が特別な且つ獨特な形態の下に、國外移住の有利な増加に依つて漸次減少中とは云へ、あらゆるところに於て榮えてゐるのである。シシリヤとカラブリアにはマフィア(Mafia)があり、ナポリ人の間にはカモオラ(Camorra)があり、サルデーニヤには強盜團がある。J. Lanzillo: Le mouvement ouvrier en Italie.)

北部に於ては農民は散在して居り、南部に於ては村落をなして住んでゐる。

### 若干の先驅者

古代より航海術發達し、世界の知識を集めてゐた伊太利には昔より社會政策の思想を抱けるものが少なくない。ローマ時代の運動は刺愛するとして、我々はドニ(Doni)及びカンパネラ(Campagna)に教言を費したい。ドニは一五〇三年フイレンツェに生れた。一五五二年ヴェニスに於

て *I Mondi* を翌年 *I Inferni* を出版した。彼は兩書に於て共產國家の理想を展開し、妻女の共有を主張した。此の書は佛蘭西語に譯され大いに世の注目を惹いた。カンパネラは一八六二年カラブリアのステニイアノに生れた。一六〇〇年より一六二九年迄ナポリの牢獄に幽閉されてゐた間に『太陽の都』を表した。自然科学者を首腦とする共產國家で妻女を共有にするものである。

### マツジニ

マツジニ Giuseppe Mazzini は伊太利統一の元勳であるが、近代に於ける伊太利の社會運動は彼を其の先驅者に有してゐる。彼は一八〇八年ジエノアに生れ、長ずるや自由主義に基づく新聞を發行して政府の彈壓を蒙つた。其の頃カルボナリ黨(共和主義の秘密結社)に加はつてタスカナに赴いたところ、裏切られて一八三〇年サヴォナ要塞監獄に投ぜられた。六ヶ月の後證據不充分で放免されるや、遁れてマルセイユに至つたが、同地に於て自己の一生の使命なるものを自覺して、有名な青年伊太利黨 *La Giovine Italia* を組織した。青年伊太利黨の目的は、伊太利を内



外の壓制者から解放し、共和政府の下に其の統一を成就するにあつた。黨のモットオは『神と民衆』(Dio e Popolo)であつて、其の旗は片側に『統一』と『獨立』、片側に『自由、平等、人道』と記したものを採用した。彼はそれより瑞西、英國等を轉々としながら革命遠征軍を組織し、伊太利の統一と共和政府樹立の爲め、一八七二年死するまで所志を枉けず戦つた。一八四〇年労働者團體を組織し『民衆の使命』(Apostolato Popolare)なる週刊新聞を發行して『人間の義務』といふ論文を掲げ一種の社會主義を主張した。伊太利の共同組合の中には彼の名に於て發祥したものが少なくない。一八六一年フイレンツェに於て彼の名に於て『職人友愛會』(Fratellanza Artigiana)が起されたが、これは政治的猜疑の下に間もなく破壊された。しかし一八七一年、ローマに於て彼の指導の下に成立した『友愛同盟會』(Patto di Fratellanza)は十二年存続し、長く伊太利の共同組合運動に影響を及ぼした。彼はロンドン滞在中、國際労働者同盟 Association internationale des travailleurs の創立に際會し、これに加盟したが、彼の愛國主義と有神論はマルクス等の容るゝ所とならなかつたので、遂にこれを脱會した。茲に於て伊太利に於ける初期の労働運動にはマツジニ派とバクニン派(インタアナショナル)との間の明白なる對立が生じたのである。

### インタアナショナル

一八六三年マツジニ派に屬した労働團體の数は四五三、加盟人員十一万一千六百八人に達した。そしてインタアナショナルをはじめて伊太利に紹介したのは、此の派のジウセツベ・モンタネリ Giuseppe Montanelli 及びニコロ・サルヴォイ Nicolò Salvoy であつて、それは一八六四年のことであつた。當時バクニン Michel Bakounine は同國ナポリに滞在中(一八六三—一八六七年)であつたが、彼はマルクスの懇篤なる招請にも拘はらずインタアナショナルには加はらず、獨かに社會民主々義同盟を組織してゐたのであつた。此の團體は久しからずして社會主義的革命的社會主義同盟と改稱したが、これこそ後年有名なる社會主義的民主々義同盟 L'Alliance de la Démocratie socialiste の前身をなしたものである。此の團體にはフアネリ Giuseppe Fanelli 及びフリシア Saverio Friscia チュチ Aberto Tucci の三人の伊太利人が加盟してゐたことは確實である。殊にフアネリは唯だに伊太利に於ける最初のバクニニストであるのみならず、又西班牙に始めてバ



クニニスムを輸入したる人であつて、實に國際労働運動に於て忘るゝべからざる人物である。彼等は一八六五年ナポリに於て『自由と正義』Libertà e Giustizia を發行したが、六七年にはジェノアとミラノに、六八年にはカタナに彼等の團體を作つた。六九年バクニン一派が平和及自由同盟 Ligue de la Paix et de la Liberté より脱退し、社會主義的民主々義同盟を構成し、それより多少の迂餘曲折を経て遂にインタアナショナルに加盟するや、彼等はナポリに伊太利支部の中央事務所を置き、伊太利聯合會を作らんと企てた。彼等は茲に於て當然マツジニ派と抗争するに至つたのである。

しからは當時伊太利に於ける一般の空氣は如何であつたか？ 此の頃より漸くインタアナショナルに加はらんとしてゐた、そして伊太利無政府主義運動の爾來中心人物となつて來たマラテスタ Errico Malatesta は、有名な無政府主義史家ネットラウ Max Nettlau の『バクニンと伊太利に於けるインタアナショナル、一八六四年乃至一八七二年 Bakunin e l'Internazionale in Italia, dal 1864 al 1872』の序文に於て次の如く述べてゐる。(佛譯より抜萃)

『バクニンが伊太利に來た時、重大な危機が國を、特に山師的や獵官者の利己心からではなく、

理想と一般的幸福に對する眞面目な愛に依つて鼓舞されて政治界に關係してゐた精銳を動搖させてゐた。獨立を目的とした闘争が結局その推戴に終つてしまつたサボイ家の新王國は、一切を棄て一切を措いて運動を敢行し、支持して來た人々の希求に絶對に添ふものでなかつた。

『長年の間勇敢なる人々が、極度の獻身を以つて伊太利の土地を分割してゐる奥太利、法王、ブルボン家及び其の他王侯の壓制から伊太利を解放する爲めに戦つて來た。陰謀に、大逆に、一揆に迫害と直面したのは伊太利青年の精華であつた。虐殺、懲役、死刑に依つて不斷に人數を減ぜられ乍ら、彼等は無限に新しく、且つ亦勇敢なる戰闘者として甦生してゐたのであつた。』

『之れ等の人々の希求は、其の後に活躍した我々にとつては不充分であり、曖昧であり、神秘的であり、往々にして相矛盾して見えたけれども、確かに其の希求は高尚であり、無私且つ人道的であつた。概して彼等は伊太利を外國人から、又伊太利の壓制者及び僧侶の支配から解放して統一的な乃至は聯邦的な共和國を建設しやうと思つた。共和國といふことに依つて彼等は万人に對して自由と正義と安寧と教育を保證する民衆の政府を意味したのである。古典的な傳説とマツジニの理論は、彼等に伊太利が他の諸國に對して優秀であるといふ、又神か、自然か、或ひは又歴



史かに依つて伊太利が全人類の教育者及び指導者となるべく宿命づけられてゐるといふ、バカバカしい自惚れを與へた。しかし乍ら彼等の神秘的な愛國主義は決して他の國民を支配しやうといふ欲望を許容しなかつた。反對に若し彼等が國民の解放と偉大とを其の誓ひに依つて招き、其の行動に依つて促進したならば、それは伊太利國民が其の文明の使命を成就することが出来、且つあらゆる被壓迫國民を解放することに助力出来る爲めであつた。そして伊太利の愛國者は、自由の叫びの上る世界のあらゆる部分へ戦ひに、且つ其の血を流しに駆けつけたのであつた。

『しかし乍ら多くの獻身にも拘はらず、又非常に高尚なる意圖にも拘はらず、伊太利の大義は永い間見込のない大義に見え、それを擁護するものは自分の利益の爲めに地位を求めすることに反對する理想に燃えた夢想者の間にしかなかつた。……貧乏、無知、迷信深い大衆は何時もの如く彼等を利用することを知り且つ利用出来る者の中に温和な、だが餘り確かでない手段として愚圖々々に陥つてゐた。

『其の上、反抗兒の不屈不撓と増大する其の人数及び歐羅巴の政界に於ける都合好き事情が、サヴォイ家の宮臣をして國民的希求をサルディニヤ・ピエモンテ王國の鞏固化と擴大に利用する好

機だと判断せしめた時、「國民運動の」使徒や英雄の間に商人や利用者が交り、外交的駆引が革命的衝動を窒息せしめた。

『統一にも、眞實の獨立にも到達はしなかつた。……國民が自分自身を自ら支配する権利さへ、制限選舉に依る、そして國王の至上權と國王の任命する上院とに依つて轡を嵌められた衆議院の許可でお茶を濁されてしまつた。地方地方及び自治體の一切の自治を拒絶されて、全伊太利はピエモンテの官僚的軍閥的種族の覇權の下に歸屬せしめられた。人權は常に警官の爲めに脅かされ公共教育は閑却され、全く僧侶の手に委ねられてしまつた。多くの約束を受けた大衆（プロレタリアと小ブルジュワジイ）の經濟的狀態は生産と消費に對する課税の増加に依つて一般的に悪化され、若干の地方に於ては全く悲惨なる狀態を呈した。そこで一般的な不平が起つたが、此の不平が騒々しい集團的抗議の形をとつて爆發した時、官憲は伊太利王朝の政府組織の一特質として常に残るであらうところの、彼の武装なき群衆の虐殺を以つて秩序を恢復した。當然其處には戰場に臨んだことなくして鹵獲品の分前には與らうといふ無數の事後即製の愛國者、又古い闘士で種々なる理由で、稀には名譽ある理由で、この新しい制度に迎合し、これから利益を得やうとす



るものが多數生れたのである。しかし乍ら最も眞面目な又最も熱烈なる人々はこれに對して不満に堪えなかつたのである。國民的運動に年齢の關係から加はらなかつたが、しかしその熱狂時代の空氣を呼吸して來た、そして年長者を凌駕せんとする新しい青年が彼等と共にあつた。彼等は再び革命を始め、それを完成する好機を促してゐた。

「かゝる精神的状態に臨んで、バクニンの如き人物は、其の身に纏はる歐羅巴の大革命家といふ評判、其の思想の豊富と近代性、其の血氣及び其の人格から迸り出る力とを以つて、彼に近づいた人々に甚だ強い印象を残したに相違ない。けれども彼は廣汎なる運動を起すことは出来なかつた。周囲の愛國的及びブルジュワ的先入主の爲めと、それから意識は進展したにも拘はらず尙ほ宣誓によつて舊い分派の束縛を殆んど脱してゐなかつた理由とにより、眞の民衆的な運動を起すことは出来なかつた。これに加ふるに彼が外國人であるといふこと、伊太利語に餘り堪能でなかつたこと、それから常に何時追放されるかも知らぬ恐れがあつたといつたやうな困難を數へなければならぬ。

『事實に於て彼は極めて迅速に重要なる人々をして好意を持たせることに成功した。これらの人

々は最初の接觸から彼の思想の中に彼等を苦しめてゐた疑問の解決を見たと思つたのであるが、しかしそれは大衆の間に手掛りを持つことは出来なかつた。』

以上の如く、獨立と統一の運動に失望したる人々は必然にバクニンの思想に共鳴を感じたが、其の大勢力となつたのは一八七一年以降、即ちカフイエロ Carlo Cafiero、マラテスタ、コスタ Andrea Costa 等が運動の中心となつてからのことであつた。

一八七〇年、政府はインタアナショナルの存在と發達に驚愕し、これを解散した。するとナポリのパラディノ Carmelo Paladino はマラテスタとカフイエロの助力を得て、密かにナポリ支部を復興したのであつた。カフイエロは貴族の出身であつて、初めは外交官となる目的を以つて佛英に學んだ。ところが倫敦に於いてマルクスとエンゲルスに會ひ、其の感化を受けて社會主義者となり、伊太利に歸つてインタアナショナルの運動を始めたのであつた。其の年の十二月、ポロニヤに於いて純粹の労働者團體である労働者同盟 *Il fascio operai* が創立されたが、此の運動の中からコスタが出て來たのである。此の同盟はインタアナショナルに屬してゐたが漸次勢力を得て、諸處に於いてマツジニ派の労働團體と衝突するに至つた。



ところがインタアナショナルの勢力を伸ばし、マツジニ派に打撃を與ふるに非常に都合のいゝ形勢が此處に捲き起された。それはガリバルディ Galibaldi のインタアナショナルに示した好意である。マツジニもガリバルディも共に共和主義であり、世に此の二人とカヴォール Cavour を併稱して、伊太利統一の三傑といふ。ガリバルディは、しかしながら無神論に對しても、國際主義に對しても、又集産主義に對しても、要するにインタアナショナルに對してマツジニよりも餘程進んだ意見を持つてゐた。尤も彼はマツジニ程彼の共和主義に對して忠實ではなかつたけれども。彼はパリのコムン運動に對しても非常な同情を示したことを忘れてはならない。

復興のインタアナショナルは、ガリバルディの此の好意を利用することを忘れなかつた。インタアナショナルのそれらの團體はいづれもガリバルディを名譽會長に推戴した。ガリバルディも此の青年達の運動を支持した。彼は一八七一年十一月十四日附のトリヴュルジオに宛てた書翰の中に、彼の有名な言葉『インタアナショナルは未來の太陽である』L'Internazionale è il sole dell' avvenire といふことを宣言した。彼は又マツジニとの和解を不可能だといつて憚らなかつた。此の老英雄の態度はマツジニ派の間に混亂と動搖を惹き起し、インタアナショナル運動に干

釣の重みを加へた。

しかし伊太利のインタアナショナルは、其の時は未だバクニン派の運動ではなかつた。カフイエロは倫敦のエンゲルスと頻りに書信を往復して、運動上の氣脈を通じてゐた。彼はバクニン派、正確に云へばジュラ聯合會の主張に就いては殆んど知らなかつた。唯だインタアナショナルの内部に二潮流があるといふことだけ位しか知らなかつた。

一八七二年三月十七日、ポロニヤに初め起された労働者同盟は、其の發展に應ずる爲めにポロニヤに大會を開いた。これには十三の都市に散在する團體の代表者が集會した。そこではインタアナショナル内の二潮流のいづれに屬すべきか、倫敦の指令を受くべきか、それともベルン（ジュラ）の統制に服すべきか、乃至は兩者より獨立してあるべきかといふ問題が議せられた。これはマルクス、エンゲルスがカフイエロを通じて決定を強ひたのであるとも言はれてゐる。バクニンの知己も相當大會には居たが、しかし大多數はジュラ聯合は瑞西の一地方團體であつて、他の團體に指令したり、それを統制するなどといふものを知らなかつた。それで次の如き決議を可決したが、それは其の無知にも拘はらず、明らかにバクニン主義の精神を示してゐるも



のであつた。即ち

『本大會は倫敦の總務委員會の中にも、ベルンのジュラの總務委員會の中にも、唯だ通信と統計の單なる事務局以上のものを認めない。本大會はポロニヤの委員會に此の二つの總務委員會と連絡を開始すること、並びにそれを各支部に通知することを委任する。』

バクニンはバラディノ等と連絡してゐたが、此の頃からカフイエロも書翰を以つて意見の交換を始めた。バクニンが同年四月七日附マドリッドのモラ Francesco Mora に宛てたる手紙は這般の事情を示してゐる。

『此の頃伊太利に於いてインタナショナル及び我が大切な同盟（社會主義的民主主義同盟のこと）が素晴らしい發達を遂げたことは勿論君も知つてゐるだらう。今日まで其處に缺けてゐたもの、それは本能ではなくて、組織と思想とであつたのだ。今此の兩者が出来たから、現在のところ伊太利は西班牙に次いで最も革命的な國である。伊太利には他の國には缺けてゐるものがあるが、それは熱心な、エネルギーな……青年である。彼等は其のブルジュワ的な出生にも拘はらず、他の諸國に於けるそのやうに道徳的にも知識的にも萎微してゐない。今日では彼等は我々

のプログラム、同盟の一切のプログラムを奉じて、夢中になつて革命的社會主義の中に突進して來てゐる。我々の『天才』、我々の有力な反對者マツジニは死んだ。マツジニ派はすっかり混亂してしまひ、而してガリバルデイは次第々々に其の名を奉ずる此の青年達に引きづられてゐる。しかし此の青年達はガリバルデイよりも無限に前方へ進み、駈けてゐるのだ。』

此の年五月、カフイエロは瑞西に來り、バクニンと會見し、ジュラ聯合を視察した。彼は彼の思想がジュラ聯合のそれと一致するのを發見した。彼は直ちにエンゲルスに手紙を出して一切の關係を斷絶した。そしてジュラ聯合の主張が伊太利のインタナショナル會員に傳播するにつれ彼等はポロニヤ大會の決議が不充分であつたことに氣がついた。そして八月四日リミニに大會を開いて、來るべきインタナショナルのヘーグ大會に對する方針を審議した。大會は倫敦の總務委員會と斷絶することを決定し、且つインタナショナル伊太利聯合會を設立し、そしてヘーグ大會には参加しないことに決定した。ヘーグに於てマルクスが勝利を得た原因の一は此處にもあつたのである。

ジュラ聯合のギリヨオム James Guillaume、シトウイツゲヘル Adhémar Schwitzguébel 等が



ヘエグに於てマルクスに破れて歸り、サン・テミエにバクニン派の大會を開いた時、伊太利聯合は代表者を送つてこれに参加した。代表者の中にはフアネリもゐたが、彼は其の後の實際運動には餘り關係しなかつたやうである(一八七七年一月死)。リミニの大會より一八七九年まで、即ち伊太利に於けるインタアナショナルの死滅までは、カフイエロ、バクニン、マラテスタ、コスタ等が中心となつて益んに武装一揆をなした時代であつた。

インタアナショナルは政府の壓迫にも撓まず、徐々に發達した。一八七四年に至ると國內の形勢が不穩になつて來た。此れに就いてマラテスタは次の如く云つてゐる。

『一八八四年の春、貨銀の低下と消費物の法外な騰貴の結果、甚だ活潑な騷擾が伊太利の諸處に於いて起つた。多くの地方に於いて商店が襲撃され、掠奪された。インタアナショナルは此の民衆の行動を全然排斥するか、乃至はそれとの一致を宣言しなければならぬ必要に迫られた。そして此の後者が取られたのであつた。インタアナショナルはそれより外に行動のし様がなかつた。何んとなれば第一にインタアナショナルが民衆のなした此の行動を排斥するならば、それは革命の實際上のすべての味方を失ふこととなるに違ひないからである。第二に革命といふものは

言葉よりも遙かに事實の中に存するものであり、且つ民衆の自發的運動の起る度毎に、勞働者が其の權利と其の品位の名に於いて起ち上る度毎に、其の起つた運動との一致連帶を自から宣言することは、すべての革命的社會主義者の義務でなければならぬからである。』

此の形勢に應ずる爲めに、伊太利の無政府主義者は七四年の一月表面的なインタアナショナル以外に社會革命伊太利委員會 *Comitato italiano per la Rivoluzione sociale* を組織し、其の機關として『報告書』 *Bollettino dei C.I.R.S.* を發行した。其の第一號には『××的思想の平和的プロバガンダの時代は過ぎた。それは××とバリケードの響のある、嚴肅なプロバガンダに代られなければならない』といふことが主張された。

コスタは窃かに伊太利に歸り、ロマニヤに潜伏した。『報告書』は彼の編輯に成るものであつた。マラテスタは其の以前逮捕されてゐたが、一月釋放されるや中部伊太利に潜入して、コスタと連絡を取りつゝ準備を始めた。

マツジニは頑強な共和主義者であつた。彼は死すとも伊太利國王に叩頭しなかつた。彼が死んでもマツジニ派には此の精神が残つてゐた。そこでコスタはガリバルデイを仲介として、一揆に



對する提携方を申し込んだ。コスタはバクニンに對しても伊太利に来ることを懇懇した。ガリバルデイはバクニンとの提携には初め反對したが、遂に澁々乍ら承知した。七月三十一日バクニンはボロニヤに潜入し、コスタと會見して打ち合せた。マツジニ派は中々意見が纏まらなかつた。青年はインタアナショナルとの提携に賛成であつたが、年長者は行き掛りを捨てるのを欲しなかつた。そこで彼等は八月二日リミニの近傍リファイに於て會合し、意見を闘かはせたが、警官の探知するところとなつて、大部分は其處で捕縛された。

コスタの身邊も嗅ぎつけられた。彼は八月五日捕縛された。しかし事は七日―八日、即ち八日の午前二時、ボロニヤ市街に於て擧げられる筈であつた。バクニンは其の近所に潜伏して、同志の迎に來るのを待つて居た。しかし二時になつても集會者が少く、其の上諸處に於て逮捕あり、警戒嚴重到底事を擧げ得ないので解散してしまつた。バクニンはいくら待つても迎は來ず、騷擾の起つた形跡もないので、運動の失敗を覺り、朝四時頃將に自殺せんとしたところへ、一同志が來て未だ事は全く絶望でないと告げて、他の隱家に彼を移した。八日にはボロニヤ、イモラ、及びロマニヤ、マルケスの全地方、フイレンツエ、ローマに於て同志が逮捕された。尙ほ逮捕は全

伊太利に及ばんとしたので、バクニンははうばうの態で瑞西へ遁入した。

マラテスタは此れと殆んど同時にブイラに於て事を擧げた。彼は銃器一箱をトレントより、カステル・デ・モンテの小村落に輸入して來た。事件は彼自身に語らせやう。

『數百人の左袒者がカステル・デル・モンテに集まることを約束した。私は其處へ行つた。しかし其處には、其處に集まらうと誓つたすべての人の中、我々六人しか居なかつた。來なけりや來ないでいゝと、武器の箱を開けた。それは舊式の活塞の鐵砲で一パイであつた。別に仕方もないからそれで武装し、伊太利の軍隊に對して宣戰を布告した。我々は農民を引き入れやうと數日間田舎を歩き廻つたが、何の反響も見なかつた。第二日目に我々は八人の憲兵と遭遇した。彼等は我々に向つて發砲し、我々が非常に多數であると想像した。それより三日を経て後、我々は兵士に取り巻かれてゐることを覺つた。もはや爲すべきことは一つしか残つてゐなかつた。我々は鐵砲を埋藏し、そして解散することに決定した。私は乾草の車の中にかくれ、そして危險地域を脱出することに成功した。』彼はそれよりナポリに至り、其處から更に瑞西に逃れんとしたが、ベサロの停車場に於て敢なく捕縛されてしまつた。



此の運動の失敗は直ちに政府をして攻勢を執らしめた。一八七五年政府はインタアナショナルを解散した。するとインタアナショナルは、社會研究會などといふ變装の下に其の運動を繼續した。瑞西に居たカフイエロが歸國して運動を指導した。一八七六年三月十五日ボロニヤ事件の最初の公判が開かれた。三月十八日にはパリのコミユン記念運動がローマに於て行はれた。

六月の初旬、陪審官は證據不充分的件を以つて、インタアナショナルの暴動關係者を放免した。そこでローマで大示威運動が行はれんとしたが、政府はこれを禁止し、マラテスタ等を逮捕して同市より追放した。

インタアナショナルはスイレンツェに事務所を設置し、七月一日附を以つて、全國大會開催の檄を發した。此の檄に應じて諸地方に地方大會が開かれ、再組織運動が進行した。そして十月二十日にスイレンツェに於て全國大會が開かれる筈になつた。ところがピクピクもの、政府は又かとばかりに其の前日、即ち十九日に本部員コスタ、ネッタ、グラシ、の三名を捕縛し、大會の場所と代表の宿舎に宛てられたところに警官と軍隊とを配置した。そこで集つた代表達は深夜豪雨の中を窈かにスイレンツェから二十キロ離れたトシの村落に向つて出發した。政府

はこれを探知し、其の後を追跡したので、彼等は途中から道路より遙かに離れた森林中に入り、其處で大會を開き、翌二十日は更に別の森林へ移つて會合を續けたのであつた。此の大會に於いてはマラテスタとカフイエロが瑞西ベルンに開かるべきインタアナショナルの大會への代表に任命された。

此の劇的な大會に於て、更に又世界に於て初めて無政府主義的共產主義 *Communisme anar-chiste* が宣言せられたことを知るならば、更に興味が深からう。無政府主義的共產主義といふ言葉は其の少し以前からバクニン派のインタアナショナルの會員の間に於て用ひられ始めたのであるが、團體として宣言したのは此の大會を以つて嚆矢とするのである。曰く

『伊太利聯合會は、万人が万人の必要を充す爲めに共同一致することは、連帶一致の原則に照應する生産及び消費の唯一の規繩であるを以つて、労働の所産の集團的所有を以つて、集産主義的プログラムの必然の補足と考へるものである。』

ベルンの大會に於ては、マラテスタはド・ペペ *De Pepe* 及びギリヨムを向ふに廻して労働組合問題で大討論をした。しかしこれはインタアナショナル篇に譲る。



カフイエロは其の數年前、巨万の遺産を得たので、これを運動に提供し、インタナショナルの運動を助けて來た。しかして此の年の末頃より大規模の暴動を計畫し、ロマニア、エミリア、トスカナ、マルケス及びオンブリアの諸地方に多くの同志を作つた。彼は此れに全財産を蕩盡し出来るだけの金子を作つたが、愈々決行する間際になつて、此の計畫に中途から参加して來た元ガリバルディ麾下の一人サルヴァトレ・ファリナが裏切つたことが發見された。政府はも早や此の計畫を熟知してゐた。そこで全然事を抛棄するか、左もなくば一部分で事を擧げるかするより外に仕方はなくなつた。そしてベネント地方の一村落に會合して準備中、それさえも憲兵に探知せられ、全く無準備の中に事を擧げるのを餘儀なくされた。其の暴動の模様には、ラヴレイの描寫があるから左に採録して見る。Emile de Lavelaye: Le socialisme contemporain.

『一八七七年四月上旬、何處から來たか誰も知らない三十人ばかりの人々が、サン・ルボのベネントの村落の彼等が借り受けた家に於いて毎晩會合してゐた。四月六日の夜、同家を監視してゐた憲兵が射撃され、中二名は重傷を負ふた。此の武動の後で此の徒黨は其處に隣るレテイノの村落に向つて進んだ。赤と黒との旗がその先頭に立つてゐた。彼等は町役場の建物を占領した。』

參事會員等は責任解除證を要求した。彼等は次の如き解除證を渡した。『下記署名の者は、武装を以つて社會革命の名に於てレテイノの町役場を占領せしことを宣言す。署名』。彼等は土地臺帳と戸籍簿を持つて行つて、其處に立つてゐる十字架の下でそれを焼き拂つてしまつた。百姓達は群れをなして馳せ集つた。一揆の一人(カフイエロなり)は大演説をやつた。彼は此の運動は一般的運動であること、それから民衆は解放されたと説明した。國王は追はれた。社會的共和國が公布せられたと説明した。皆大喝采をした。女達は即刻土地を分割することにかゝる様に願つた。彼等の領袖は『お前さん達は武器を持つてゐる。お前さん達は自由なのだ。だからお前さん達の間で土地は分けなさい』と答へた。牧師であり同時に町の參事會員であるフォルテイニは、十字架の臺石の上に上つて、此の平等を打ち樹てる爲めに來た人々は、天に在します主の眞の使徒であり、福音書も亦此のことを望み給ふと演説した。彼は自ら一揆の案内人となり『社會革命萬歳!』を唱へながら、餘り遠くないガロの村落に彼等を導いた。

ガロの牧師タンプリニは彼等を迎へにやつて來て、彼等を其の教區民に紹介して云つた。『何もこわがることはない。此の方々は勇敢な方々である。此の方々は政府を變更し、臺帳を焼いてゐる』



るのである』と。群衆は有頂天になつたらしい。一揆は群衆に國民軍の小銃を分配した。廣場に運ばれた臺帳類は一つの大きな火焰と化した。水車場では彼等は粉挽人に非常に嫌はれてゐた課税計量機を破壊した。熱狂は頂點に達した。助祭は赤い革帯を締めた首領を抱擁した。女達は嬉しさの題り泣き濡れてゐる。もう税も、小作料もないのだ。皆な平等だ、全體的解放なのだ。だが彼等は間もなく軍隊が彼等に向つて進軍して來てゐるのを知つた。一揆はメテサの森の中に身をかくした。しかし天然は百姓遠程寛大ではなかつた。雪があらゆるものを被ふてしまつた。寒氣は凜烈になつた。解放者は餓死に迫つた。彼等は捕虜となり、一八七八年八月、カプアの重罪裁判所の法廷に引き出された。一揆の指導者はイモラ伯G……、法學博士C……、化學者M……であつた。起訴された三十七名の中には前記の二人の牧師も數へられた。』

ラヴレイは此の事件を描寫するに際して、何故か一揆の氏名を語ることを避けてゐるが、ギリヨームの記するところによると此の三名は、カフイエロ、マラテスタ及びセカレリ Cesare Cacciarelliである。此の事件は歐羅巴の社會主義者の間に非常な論争を捲き起し、マルクス派は獨逸に於ける其の機關紙上に於いてこれを公然攻撃し、バクニン派はこれに應酬して盛んに論戰した。

しかし乍ら此の事件に對する伊太利の輿論は同情的であつた。フンベルト王が父王の後を嗣いで伊太利王位に登り、大赦令を發するや、陪審官は直ちに被告全部をこれによつて放免した。

しかし乍ら、一八七七年に於けるインタアナシヨナルのフイレンツエ大會が政府によつて解散されたこと、並びに此の一揆の失敗したことは伊太利に於けるインタアナシヨナルの運動に致命傷を與へたのである。これに加ふるにバツサナンテの爲した大逆事件は政府をして極端なる壓迫政策をとらしめ、マラテスタの如きも國外に亡命するのやむなきに至つた。こゝに於いてインタアナシヨナルより離れんとするもの、乃至は運動方針を變更せんとするものが漸く現はれて來た。一八七六年ロンバルデイ地方のインタアナシヨナルの會員は北部伊太利聯合會を組織し、フイレンツエよりナポリに移つたバクニン派とは別な行動をとることを開始した。彼等は合法的手段をとることを欲し、マルクス派と連絡を取つた。そして一八七七年二月大會を開いて彼等の態度を明らかにした。其の運動の機關は『平民』Plebèであつた。しかし此の革命的傳統の國に於いてインタアナシヨナルの精神を壓倒するにはより以上の巨腕を必要とした。そして其の巨腕はアンドレア・コスタによつて供給された。彼の變節に就いては次章以下に叙述する。



其の前に、伊太利のインタナショナルの主張は如何なるものであつたかをヨリ詳しく瞥見するの興味あることである。

一八七八年六月、リミニの聯合會の發した宣言には次の如き一節がある。

『特權的な所有があればある程、集産主義、即ち土地及び一切の勞働手段の共有、萬人に對するパン、富、教育、正義、自由は不可能である。土地はそれを耕す人に、機械はそれを使用する人に、家屋はそれに住む人に！』

同年八月、プイラのインタナショナルの會員は大會を開いたが、それに於て發した宣言に曰く

『我々の目的とするところは、萬人に對して其の一切の機能の完全なる發達によつて、最も完全なる便益を保證せんとするにある。婦人は男子の伴侶であつて、奴隸や快樂の手段であつてはならない。戀愛は自由であつて法律や典禮に叛かなければならない。各人は各人が最も自己に適した職業を選択し得る爲めに、全體的な教育を受けなければならない。個人の、グループの、組合の、又コミユンの自由なる聯合は人類の總聯合を形成する。革命は一日の中に社會の表面を變化

せんと欲する陰謀ではない。それは現在の組織を自由なる結合に依つて代置せんとする永續的、道徳的、知識的な一個の鬭争の謂ひである。』

モンテネロ、アンチニヤニ、アルデンザ、サンジャコボのインタナショナルの共同宣言に曰く、

『××は自由の否定である。何となれば何人が支配するにせよ萬人が、隸從するからである。強權は一物をも創造せず、而して一切を壊敗する。一切の××は、民主的なものでさえも專制主義の手段である。最良な××は自らを無用なるに至らしめたそれである。政治的制度を變更することは、何の役にも立たない。或る人が足にトゲを立てた。彼は靴を代へることに依つて樂になれると思つたが、益々痛むばかりである。彼が取り去らなければならぬのはトゲである。自由なるコミユンに於ける自由なる人間、そして人類世界の中には聯合されたるコミユン以外の何ものもないこと、それこそ我等の未來である！』



## 合法的労働黨

一八七七年より約十年間は伊太利に於て自由主義者が政權を握つたる時代であるが、インタアナショナルに對しては相變らず彈壓政策が續けられた。七八年パッサナンテ Passanante が國王暗殺を企むや、政府は益々インタアナショナルを迫害し、嚴重なるスパイ制度を以つてこれを追究した。茲に於てコスタは一八七九年變節し、合法的社會運動に方向を轉換するに至つた。彼は一八八〇年ロマニヤとエミリオの社會主義者をポロニヤに會合せしめ、合法的労働黨を創立したが、其の精神は漸進的であり、合法的であり、バクニンのインタアナショナルのそれとは全然異つたものであつた。それに於ては革命といふことは、も早手段ではなくして目的となつてしまつた。革命は進化の終極として、『經濟的發達の連鎖の最後の環』として考へらるゝに至つた。此の議會的社會主義の細叙に入る前に、茲に若干コスタの先驅者に就いて述べて見やう。

伊太利に於いて労働黨乃至社會黨らしき最初の代議士は一八七〇——七四年のジウセツベ・フ

エラリ、フリシア、ファネリ等であらう。インタアナショナルを始めて伊太利に紹介したマツジニ派のモンタネリ（ピサ大學刑罰法教授）も一八六一年より六四年迄下院に議席を占めてゐた。フェラリはロシニヨシの弟子、社會平等の主義を奉じ、はじめは國際共和國を理想とし國際革命を唱道したが、伊太利王國成るに及んでヴィクトル・エマヌエル二世の懐柔するところとなり、後には上院議員に任ぜられた。しかし彼は議會に於ては政府のインタアナショナル解散を難じ、大いに突撃した。フリシアとファネリは共にバクニンの社會主義的民主主義同盟の會員であり、殊に後者は西班牙にまでバクニン主義の種を植えた人である。彼等が如何なる意味に於いて代議士になつたか、筆者には今のところ解らない。コンペル・モレル Compère-Morel: Grand Dictionnaire Socialiste に依れば彼等は議會に於ては民主黨の代議士たるに止まり、何等社會主義的行動はとらなかつたといつてゐる。

一八七三—七五年頃ヴィアニ Gnocci Viani は其の著書の中に於いて、議會的社會主義を主張したといふが、インタアナショナル全盛當時のこととして何人もこれを顧るものは無かつたといふ。一八七六年頃からミラノ方面の『平民』を中心とするインタアナショナルの一派はバクニン主義



に反対して来たといふが、これとても確固たるものではなかつたやうだ。

扱てコスタの此の運動は一八八二年の選挙法改正に依つて比較的有利に展開した。同年政府は各所に勃發する不平を緩和する目的を以つて選挙法を改正し、選挙資格の低下、並びに一定の教育を受けたものに選挙資格を與ふることによつて、選挙権を擴張したのである。此の選挙にはコスタは民主黨の助力の下にイモラより選出され、かのインタアナショナルの基礎たりし有名な労働者同盟もアントニオ・マフィを立候補せしめて、之を議會に送つた。しかしマフィは當選するや否や民主黨と妥協し、社會主義を否認した。カステラザ Luigi Castellanza は此の選挙法の下にグロセツトの補缺選挙に於いて、不平分子の支持により、曖昧な旗色の下に選出されたが、彼は社會主義に背かなかつた。しかし間もなく下らぬ理由により失格した。一八八四年、元ガリバルディ派たりしドクトル・ムシニ Luigi Musini が、ボルゴ・サン・ドニノより選出されコスタと共に労働黨の代議士は二人となつた。

此の労働黨 Partito del Lavoratori は一八八三年コスタの指導し來つた伊太利民主々義聯合會と合併し、同八四年にはロンバルディ労働者聯合會を吸収し、次第に勢力を張り、一八八五年に

は遂にこれはミラノに於てアナキストと共同大會を開いた。翌年には全國に亘つて百三十三の支部が設けられたが、政府はこれに危険を感じ種々彈壓を加へ、殊に北部に於ては多くの支部は閉鎖され、其の基金、旗幟、圖書等はすべて沒收された。しかし同年の總選挙にはコスタ、ムシニ以外に新たにマンチュアよりモネタ Alcibiade Moneta が當選し、労働黨議員は三人となつた。

コスタの方向轉換は、斯くの如く伊太利の社會運動を一變せしめたが、しかし舊インタアナショナルの會員はすべて彼の指導に従つた譯ではない。一八八三年、コスタの舊同志にして、パッサンテ事件後國外に放浪してゐたマラテスタは倫敦より歸國し、フイレンツエを本據として『社會問題』La questione sociale を發行し、メルリノ Francesco Saverio Merlino 等と共に飽迄無政府主義的共產主義による舊インタアナショナルを復活せんと企てた。彼は大規模の定期遊説を試み、コスタ一派の行動を假借なく攻撃し、革命主義の旗を高く掲げて改良主義を排斥せんとした。しかし此の意圖は遂に實現することが出来なかつた。何故ならば政府は此のマラテスタ一派の運動に最も危険を感じ、一網打盡的に逮捕し投獄したからである。かくてマラテスタは同八五年空しく南米に渡らざるを得ざる運命に陥つた。無政府主義運動は政府の彈壓と、それから殊に内部



的紛争の爲めに漸く萎微するの情を呈し、議會的社會黨が次第に有力になつて來たのである。

しかし乍らインタナショナル運動の傳統は仲々容易には抜き難きものがあつて、此の労働黨も一八九一年のミラノ大會迄は、其の内部より完全に無政府主義者を排斥し、無政府主義的影響を拂拭することは出来なかつたのである。しかし乍ら漸次に舊インタナショナルの精神は薄められて行つた。其の第一の現象は知識階級の問題に於て現れた。

カフイエロ、コスタ等の關係した有名な労働者同盟は純粹の労働者のみの團體であつた。當時に於いては知識階級は知識階級として、即ち労働者に君臨する指導者として運動に加はるといふことはなかつたのである。故に伊太利に於けるインタナショナルの運動は、カフイエロの如き貴族出身、マラテスタ、コスタの如きブルジュワ出身の青年が其の間に數へられたとはいへ、又労働者といふことに奇妙な定義が用ひられた(例へば革命家は資本制度を破壊する労働者であるといふが如き)とはいへ全然本質に於て労働者の運動であつたといつて差し支へない。しかるに茲に一八八二年の選舉法の改正は、一定の教育を受けたものに對しては納税額の制限なく選舉權を與へたのである。折しも成立しつゝあつた議會的社會運動は、勢ひ此の一定の教育ある知識階級

の支持を仰がざるを得ざるに至つた。労働運動に於ける労働者の重要性は勢ひ輕くなり、知識階級の重要性のみが幅を利かすに至つた。議會的戰術は代表者に依頼する戰術であるから、労働組合が單なる日常闘争團體以上のもとなり、労働者の政治的、社會的の直接行動の中心となることを好まない。労働者は直接行動に出でしめてこそ力あれ、これを議會に連れて行つて、典禮と辯論と規則の中に置けば、最も無力なる代議士であらう。議會的駆引は教育を受けた知識階級の最も得意とするところである。

一八八二年の選舉から労働黨に知識階級の人士の加盟するものが多くなつて來た。其の一つの原因は、伊太利には産業が盛んでない爲め、折角大學を出ても適當な就職口がこれ等知識階級に對して無いことにもあるのである。未だ多くのアナキスト分子を包含して居り、インタナショナルの革命的精神の浸潤してゐた此の合法的労働黨内に於ては、此のブルジュワ青年共に對して労働黨は如何なる態度をとるべきかといふことが問題になつた。革命派、舊派はブルジュワ知識階級との一切の提携を排斥し、議會派、新派は反對に若き社會主義運動にとつて尊い手段を失つてはならないと主張する。此の頃より『社會主義と社會問題』 II socialismo e la questione



social 誌上に青年ブルジョワ知識階級が執筆することをはじめたのである。其の中には後來有名な社会主義者となつたものが少なくない。チユラチ Filippo Turati、フランボリ = Camillo Prampolini、ボンラチ Bissolati、アントニオ・ラブリオラ Antonio Labriola (アルチエロ・ラブリオラとは別人) 等は其の尤なるものである。一八八八年のボロニヤ大会に於いては、最も猛烈なる討論の後、知識階級排斥派は敗北した。即ち革命主義に對する議會主義の勝利である。一八九一年の清算は既に後一步のみ。

一八八九年のバリの第二インタナショナルの創立大会にはコスタ、キプリア = Cipriani 他三名の代表者が参加した。

### 社会主義労働黨

一八九〇年の總選舉には五人の労働黨代議士が選ばれた。一八九一年には反動的なクリスピ内閣が倒れ、久々にて自由主義内閣が成立した。社会黨には一賜來復の觀があつた。

當時第二インタナショナルが創立されて間もなかつたが、此れに無政府主義者の加盟を許すか否かといふことが大問題となつてゐた。マルクス派は既に其の革命的性質を失ひ、單なる議會的社會黨に墮落し去らんとする傾向が益々顯著であつた。之に反し無政府主義者等は飽迄其の革命的精神を保持してゐたのみならず、其の手段に於ては却つて昔日に比して遙かに非合法的になりつゝあつた。故に兩者の一致はマルクス、バクニン存生中よりも尙ほ困難であつたのである。

伊太利と西班牙はインタナショナル時代はバクニン派の根據であつたが、少くとも伊太利に於ては、マルクス派は漸次バクニン派を壓して來た。茲に於て一八九一年八月二―三日のミラノに於ける労働黨の大会に於いては、労働黨は自からを無政府黨及び民主黨から確然區別して、愈々清算にとり掛つた。此の事實は同年のブリュッセルに於けるインタナショナルの大会にも其の儘反映した。

翌年には清算の聲益々喧しくなつて來た、一八九二年八月二十四日のジエノア大会に於いてはフランボリニが嚴肅にアナキストの除名を宣言した。そして翌年九月、レッツジョ・エミリア大会に於ては愈々伊太利社会主義労働黨 Partito socialista dei lavoratori italiani が成立した。北部の



プロレタリアは特に此の新黨を最初から應援してゐた。當時の此の派の機關紙は『社會批判』*critica sociale* であつた。

一八九二年の總選舉には議會内の社會主義者は十人に達した。社會主義労働黨所屬の代議士はレッジョ・エミリア大會の決議に従ひ、議會内に社會主義者團を組織したが、これにはブランポリニ、アニイニ、ベロニニ及びフェリ Enrico Ferri しか加盟しなかつた。フェリ教授は總選舉の時にはブルジュワ急進主義者として選出されたのであるが、レッジョ大會以來社會主義を公然標榜するに至つたのである。彼は一八八〇年以後ボロニヤ及びシエナの大學に於て刑法學の教鞭をとり、卓越せる青年學者として令名があつた。當時はピサ大學の教授であつたが、犯罪學に對して非常な貢獻がある。九五年以後大學教授を止め、社會黨の機關『アヴァンチ!』*Avanti!* 紙の主筆として爾來勢力を振つた。

此の院内團には後にデフェリス・フェリも加盟したが、カシリ、メラニ、マフェイ、コラヤニ等は獨立の社會主義者として單獨に行動した。

一八九五年の總選舉には、社會主義議員は十二名に達した。はじめはバルバトオ Barbato、

スタ、ンランポリニ、ベロニニ、デマリニス、デフェリス・フェリ、サルシ、アニイニ、ガリバルデイ・ポスコの十人であつたが、此の中バルバトオとコスタとは夫々二箇の選舉區より同時に選出されたので各々一方を辭職し、兩人の代りにチュラチとバダロニが選出された。當選者は全部院内團に加盟した。

一八九七年には議會内の社會主義者は總員十六名に達した。

かくの如く無政府主義者を除名した議會的社會黨は、力を選舉運動に注いだ結果、漸く議會的政黨として重きをなすに至つた。しかも彼等は議會的政黨になり切ることは出来なかつた。それは彼等が議會的政黨となるを欲しなかつたからではなく、伊太利の當時の政情がそれを不可能ならしめたのである。即ち、自由黨内閣の壽命は極めて短時日に終り、クリスピが再び内閣を組織し、一八九四年には社會主義に對する特別法が布かれ、あらゆる暴壓が其上へ加はつたからである。

レッジョ大會（一八九三年）に於ては、社會黨と政見相近き他の政黨との提携問題が議された時、絶対に提携を排斥する頑強派 *Intransigano* が勝利を占めた。しかし九五年のバルマの大會で















於いて農民の運動は例外的な重要性を獲得した。ジョリツチは議會に於いて資本對労働の爭議に於ける國家の中立を聲明する爲めの演説をなした。彼が彼の有名なる言葉『伊太利の法律を以つてすれば一切の自由は可能である』といふことを發したのは此の時である。戰闘的意氣がプロレタリアの中に浸み透つた。罷業は頻發し、殆んど常にそれは勝つた。そして社會黨は最高の指揮者として此のプロレタリアの闘争を指導したが、其の間それは議會に於いては内閣の死命を扼してゐた。

『ジョリツチは、二ヶ月の間にプロレタリアの給料の總額を約五千万(リラ?)増額させたことを誇ることが出来た。此の額は多分一九〇一—一九〇二年の間に三倍になつた。農民團體が新しい力を獲得してゐる間に、工業労働者の團體は又非常な飛躍を遂げた。鐵道従業員、石版工、石材工、金屬工等は有力なる團體を形成した。一九〇〇年より一九〇二年迄の間に、印刷工聯合會、硝子工聯合會、製革工聯合會、家具工、紡績工、電車従業員、帽子工、海員等の聯合會が存在した。一九〇一年には土地労働者の大會が開かれ、それは一個の聯合會を組織することを決定した。農業に於ける罷業は約六五〇件起つたが、常に勝利を得た。それに參加した罷業者は二十三万人

に達した。

『此の期間中、社會黨は労働運動に對して最も大なる勢力を振つた。エンリコ・フェリを首領とする革命派は遂に勝利を得、其の戰術を黨並びに日刊機關新聞『アヴァンチ!』に採用せしめた。一九〇二年(?)のボロニヤ大會はチュラチ及びピソラチの政府的改良主義及び院内團全部の戰術に對するフェリの勝利を示した。

『一九〇二年ミラノに於て一の大會が開かれたが、それは労働組合中央書記局 Segretariato Centrale della Resistenza なる名稱をとる連絡上の中心團體を創立することに決定した。

『イモラの社會黨大會は既に職業的及び産業的聯合會に賛成の意を表明した。此の新團體は特に労働運動の統一の任務を負つたものであつた。』

以上の少し長い引用は、本章冒頭に於ても参照したランチロの『伊太利に於ける労働運動』A. Lanzillo: Le Mouvement ouvrier en Italie, traduit par S. Piroddi. から抜萃したものである。以下若干の補足をして見る。

一八九四年佛蘭西リオンに於て、佛國大統領カルノオが伊太利の無政府主義者サントオ Caserio



Santo の爲めに暗殺せらるゝや、伊太利の政府はこれを口實として社會主義労働黨に解散を命じ、社會運動全般に對してあらゆる壓迫を加へた。一八九八年には更にすべての労働組合を閉鎖したりした。かくてプロレタリアの絶望的闘争は、ブレシの行動の中に其の代辯を見出した。政府は益々壓迫せんとしてジエノアの労働組合會議を閉鎖するや、労働者は總同盟罷業を以つてこれに應じ、遂に反動政策は失敗してしまつたのである。

一九〇〇年八月十八日社會黨は羅馬に大會を開いたが、此の大會に於てはトレヴェス Treves、モデイグリア = Modigliani 及びブランポリニ等は便宜主義を社會黨の戰術たらしめんとした。一九〇二年九月六―八日のイモラの大會に於ては此の爲めに重大なる危機が黨内に醸された。改良派はキエサ Chiesa、トレヴェス、チュラチ等を起たしめ、明らかに獨乙の修正派の影響を蒙れる便宜主義を主張した。革命派はリゴラ Rigola、ラブリオラ、フェリ等の中に其の戰士を見出したが、フェリの提出せる動議には次の如き文句があつた。

『今日より以後、我が社會黨は其の經濟的及び政治的の多方面なる行動に於いて、他の一切の階級、或ひは他の如何なる社會層或ひは他の一切の政黨のそれと全然獨立且つ別派の運動方針を追

求するものとす。』

此の正統派と修正派との争ひは、更に他にサンチカリストの一派をも生ぜしめ、三派鼎立、空前の混亂を招く第一歩となつた。一九〇〇年の總選舉には三十人の社會主義者が當選したが、其の一人たるナポリ大學總長デマリニス博士はフンベルト一世の大葬に參列したといふ廉を以つて、同年のローマ大會に於いて、黨規紊亂に問はれ、遂に脱退せざるを得ざるに至つた。

一九〇一年十一月、ボロニヤに於いて土地労働者は第一回の大會を開いたが、これに参加せるものは十五万の農業労働者を包容する七〇四の農業労働組合であつた。此の大會に於いて土地労働者全國聯合會が組織せられたが、決して堅實なるものとは云へなかつた。一九〇二年八月の調査によれば、それは組合數一、二三五、加盟人員は二十二万七千九百九十一人に達した。けれども此の中にはロマニヤを中心とするマツジニ派の組合が相當含まれてゐることを注意しなければならぬ。マツジニ派は此の聯合會が彼等の意に反して飽迄土地の社會化を主張するのを見て、後にこれから脱退した。聯合會は一九〇二年ボレシナに於ける罷業に失敗するや、急速に瓦解してしまつた。一九〇三年には全國聯合會といふものは消滅してしまつた。しかし田園プロレタリア



の運動そのものが失くなつた譯ではない。それは地方々々に於いて共同組合を背景として力強い組合を組織するに至つた。此の組合は單に農業に於ける賃銀労働者のみでなく、自作農、半小作、純小作をも包含してゐるのである。それは唯だ加盟の條件としては階級闘争の承認といふことを課するのみである。一九〇六年には其の組合数は九八二、會員二十二萬一千九百十三人に達した。農業國である伊太利は、其の労働運動に於いて農業労働者を看過することは出来ない。工業労働者の中央書記局は、未だ餘り重要な地位を占めなかつた。その重要性の發揮は實に一九〇四年以後の事である。工業労働者は職業的乃至産業的利益を代表する労働組合聯合 (Federazioni Leghe di resistenza) があり、他に各地方に労働組合會議 Camere del Lavoro があつて、中央書記局は此の兩者と連絡をとつてゐるのであつた。一九〇四年には労働組合聯合の数は二十九、労働組合會議は七十七あり、會員は二十萬を越えた。

此の大變動中に無政府主義者は如何なる行動をなしたか。社會黨と袂別した無政府主義者の中には労働組合内に入り、後のサンデイカリスム運動の種を蒔いたものも少なくあるまいと思はれる。しかし伊太利の無政府主義運動に就ては、ネットトラウも『伊太利の運動の歴史を嚴肅に取り

扱つたもの、又その参考書類といふべき本は何もない』Max Nettlau: La Bibliographie de l'anarchie. とつてゐる。マラテスタは一八八五年南米に追放された後、八九年ニツサに來り、『同盟』L'associazione を發行したが間もなく倫敦に退却した。それから彼は九七年迄同地に在つたが、同年伊太利に於ける形勢を察して歸國し、アンコナに居つて『アジテーション』Agitazione を發行したが、フアブリ Luigi Fabbrì 等と共に政府の非常な追窮を受け、再び倫敦へ亡命しなければならなくなつた。此の時彼の逮捕の報が英國に傳はるや、クロボトキン Peter Kropotkin チェルケゾフ V. Tcherkesoff、ネットトラウ、カアペンタア Edward Carpenter 等が中心となつてマラテスタ釋放の大運動を起した。

## 大總同盟罷業

我々は一九〇四年の形勢に就いて、ランチロの語るところを尙暫く述べて見やう。

「一九〇四年九月九日、サルデイニヤのブジュエリュに於て鑛夫と官憲との間に闘争が起つた。



二人の労働者が其の場で殺され、尙數人の者が負傷した。一九〇二—〇四年代の無数の血なまぐさいエピソードの一つが其處にも起つたのだ。前にも云つた如く、既に同じ様な闘争は、或は政策から、或ひは偶然から幾度も生じ、惹起されてゐたのだ。ベラ、カンデラ、ジアラタナ、トオレ・アニュンジアタ、セリニョラ、これ等は此の時代の團體の歴史に於ける同じ様な血なまぐさい段階なのだ。

『ブエリエリユの事件が知れるや否や、一つの抗議文が『アヴァンチ！』紙上に載せられた。此の新聞は當時革命派に依つて指導せられてゐたのだ。此の文章の筆者は、使用すべき實際的手段に就いて餘りの確信を示さないながらも、力を力を以つて排撃する瞬間が來たのではないかと自から問ふた。

『何人と雖も數日後に起るに違ひなかつた大規模な示威運動を豫見することは出来なかつた。

『九月十五日、更に新たな闘争がシシリヤのカステルゾに起つた。軍隊は發砲した。二人の労働者が即死した。其の翌日、リギユリヤのセストリ・ポネンテに於て又二人の労働者が警官の爲めに殺された。

『總同盟罷業は公告せられた。

『それはミラノとジエノアに於いて同時に公告せられた。ところで此の二つの都會は、産業の點からすれば伊太利に於ける最も重要な都會である。ミラノとジエノアの生活が麻痺せられた時、全王國は同じ麻痺に襲はれたのであつた。

『罷業は恐るべき重大性を帯びた。すべての労働は停止せられた。パンもなければ、電燈もない。電車は至るところで止つてゐた。公共事業も運轉されなかつた。ミラノの労働組合會議の配慮によつて、『罷業報告』が發行された。此の都會の市長の宣言は非常に冷眼視された。其の所以は彼が其の中に仕事の取り上げを仄めかしたからであつた。罷業は尙多くの都市を獲得し、農業中心地迄擴大した。即ちチューリン、ボロニヤ、ローマ、テルニ、フィレンツエ、ヴェニス、パルマ、マンチュア等にも罷業が起つた。ミラノに於ける罷業者の大集會には八萬の罷業者が出席した。

『暴力行爲の中で、特に重大性を帯びたものがチューリンに於て行はれた。リギユリヤに於ては戒嚴令が布告せられた。軍艦が港々へ碇泊した。政府は氣の狂へる如き態度を示した。

『此の時期の間に、農村罷業は非常に數を増した。マンチュア州に於て罷業者の數は十六萬に達



した。ロマニヤとエミリヤに於ては罷業は總體的になつた。

『此の運動は三日に亘り、非常に大規模なものであつた。その細い描寫を以つて運動の跡を此處に辿ることは、其の範圍を考慮して見て我々にとつては不可能である。けれども如何なるプロレタリア運動と雖も、政治的性質を持ち乍ら、斯くまで革命的、斯く迄サンデイカリスト的效果を持つたものは、外國に於てさへ無かつたといふことは確言し得るのである。

『事實に於て、此の運動は非常に大なる反射を持つた。ジョリツチは狂亂して、チューリン市長に宛て、彼の自由に對する非常な愛を確言した。又更に新に勞資間の鬭争に於ける政府の中立を約束した電報を發した。ジョリツチは又警官を處罰することを約束した。その前に、沈靜することを彼は勸告した。

『運動の始まつた日に皇后は皇太子を出生した。例によつて急いで國旗が掲げられ始めたところたけり立つた群衆は無理にすべての國旗を取り去らせた。

『社會黨は罷業の結果を豫見する時間を有しなかつたので、此の罷業には賛成の態度を示した。チユラチ其の人さへ、全然此の運動に賛成だと自から宣言した。勿論後になつて彼はそれを否認

しなければならなかつたことは事實であるが、彼は其の瞬間に彼の切札を見せ、自から自分を殺すべく餘りに賢明であつたのだ。』

此の總罷業が終るや否や、狡猾なるジョリツチは議會を解散し、彼の地位をヨリ鞏固ならしめんと試みた。實際此の總同盟罷業に當面した伊太利のブルジュワジイの驚愕は非常なものであつた。彼等は始めてプロレタリアの力を知つたのである。しかし此れはブルジュワジイのみでなく議會派社會黨にとつても意外極まる椿事であつたのだ。社會黨内に於ける動搖に就いては後に語る。

ジョリツチは其の總選舉に於ける題目に『非革命、非反動』といふ無意味極まる言葉を選んだ。けれども此の言葉は長い間の軍閥政治の桎梏から漸く免れ、今又此處にプロレタリア革命に當面したブルジュワジイ、中流人士、商人等の心を捕へたものと見え、政府黨は大勝を得た。社會黨は解散の時三十四人の代議士を有してゐたのが、二十八人に減じた。政府はも早や社會黨のキヤステイング・ヴォートに煩はさるゝ必要なく、右派の結成によつて支持されることとなつた。つまり社會黨は政府に對する壓力を失つたのである。しかしこれを以つて社會黨の勢力失墜とは見る



ことは出来ない。何故ならば、第一に選挙資格に制限があつて、眞の社会党の勢力を構成してゐるものが投票に加はつてゐないこと、第二に議員数は減じたが投票数は激増してゐることがあるからである。今試みに一九〇〇年の選挙の数字と比較して見れば左の如くである。

當選者數

社会党得票總數

一九〇〇年

三〇

一七五、〇〇〇

一九〇四年

二八

三二〇、〇〇〇

故に政府側も、社会党側も、孰れも此の總同盟罷業が自己に有利に展開したと主張したのであつた。

一方翻つて、此の總同盟罷業が社会党内部に如何なる影響を與へたかを見てみよう。

總同盟罷業といふことはバクニン派の運動の特徴であつた。マルクスの政党的組織と議會行動に對して、バクニンは力強く労働階級の經濟的組織と經濟的行動の優越性、その社会主義的合目的性を主張したことは人の知るところである。しかるに無政府主義者を排斥してしまつた社会党の指導下にある労働組合が、其の利益を擁護し、其の主張を貫徹する爲めに、未曾有の總同盟

罷業を敢行したことは極めて皮肉である。これは労働者が自身の力を自覺し始めた前徴である。

伊太利の労働者は、其の指導者の爲めに長い間無政府主義と隔絶させられて來た爲に、此の自覺に適應した理論を直ちに求めることは出来なかつた。しかし乍ら此の傾向に適合する爲めに黨の指導者（知識階級）の急進的な分子によつて、當時漸くアルプス山脈の彼方に勢力を張つて來た革命的サンデイカリズムの理論が輸入された。

茲に注目しなければならないことは、伊太利の社会運動に於ける知識階級の位置である。ミヘルスは伊太利の社会主義運動程知識階級が指導者として勢力を振つてゐるところはないといつてゐる。Robert Michels: *La prolétariat et la bourgeoisie.*

伊太利にサンデイカリズムを輸入したものは、やはり此の知識階級の指導者であつて、彼等は其の知識階級的立場から、それを『理論』として、マルクス説を修正した新マルクス説として受け容れたのである。彼等の祖師はそこで當然ジョルジュ・ソレル George Sorel となつた。尙ほサンデイカリズムに就いては後に詳しく述べるが、一九〇二年、ソレルの『労働組合の社会主義的未來』 *L'avenir socialiste des syndicats* が伊譯され、其の後レオネ・サバティニ Sabatini



デ・アンブリス De Ambris 等に依つて、『労働組合』 Il Sindacato operaio が發行されたが、此れが伊太利に於けるサンデイカリスト運動の濫觴となつた。

兎に角理論的には何であれ、事實に於て此の一九〇四年の總罷業は、労働運動に於ける絶對的指導者としての社會黨の無力の表現であつた。殊に政治的行動——議會主義に對する從來の觀念の顛覆であつた。從來は社會主義運動は政黨の運動であつたが、今やそれは労働組合の運動とならんとした。今迄は組合は黨の機關に過ぎなかつたが、黨の政治的行動——ジオリツチ内閣牽制の如き——とは全然別に社會主義運動は存在し得ることが明らかになつた。茲に於て社會黨内には從來の改良派と革命派以外に、新たにサンデイカリスト派が生じた。從來の改良派、革命派は共に議會主義であり、國家主義であり、『政治的、經濟的宿命論者』であるが、新たなるサンデイカリスト派は非議會主義的であり、非國家主義であり、革命的行動論者であつた。

一九〇四年のポロニヤ大會に於ては此の三派は盛んに戦つた。改良派は即ちベルンシュタイン説であり、革命派はカウツキイの態度を奉ずるものであり、サンデイカリスト派は其の攻撃の論據をソレルに求めた事は討論によつて明白である。改良派のチュラチはサンデイカリストはアナ

アキストだ。故に我々はこれと提携して行くことは出来ぬと宣言し、改良は他の階級との提携及び政府の助力を得て始めて實現するものだといひ、進歩改革は徐々に行はれるものだと主張した。

サンデイカリスト派はアルチュロ・ラブリオラ Arturo Labriola をして其の主張を述べしめた。彼はナポリ大學の經濟學の教授で、ブルドオンの學說に通曉し、ソレルの影響を受けてマルクスの階級闘争説とブルドオンの無政府主義の折衷を圖り、伊太利の労働運動の新理論たらしめんとしたのである。彼は先づ社會主義は非國家主義であると定義し、故に權力に關係してはならぬと論じた後、『ブルジュワ制度の下に於ては、一切の改良主義的活動は部分的に労働者に有益であつても、常に不完全であり、又資本制生産の根本機構を毫も變化せしむるものではない』と大いに改良派を弾劾した。彼の云ふところは『階級闘争の徹底的徹底』といふことで盡きると思ふ。

此の兩者の中間にフェリの『全體主義』 Integralismo といはるゝ革命派が介在した。此の派は議會行動と直接行動の併用、政治運動と經濟運動の同價評價を主張し、最高の目的、最大の理想より目を離すことなく、しかも些々たる日常の改良の一切に價値を認めるのであつた。

此のポロニヤ大會は此の三個の相對立する主張を其の中に包含しながら、何も決することなく



唯だ黨の協力一致が必要だといふことを滿場一致宣言したるのみで解散した。實に一九〇四年の總罷業は伊太利社會主義史に一時代を劃したものであつた。

### サンデイカリズムの勃興

一九〇四年以後、總同盟罷業は伊太利に於て殆んど年中行事となつた。我々は其の後の形勢に就いて、又サンデイカリスト、ランチロのスケツチを辿ることを便宜とする。

『社會黨の凋落が始まつたのは、一九〇四年の總同盟罷業及び同年行はれた總選舉の後のことである。深刻なる利害と感情の敵對關係が、階級として組織された黨のプロレタリアを分裂せしめた。黨は夫々異つた政治的意見を持つ、あらゆる方向から出て來た人々の單なる集團に過ぎなかつたのだ。更に重大なる葛藤が、黨の政治屋と政治の外に生活するプロレタリアとを喧嘩せしめた。此のことは、伊太利のプロレタリアの上に振はれた議會派の勢力を考察する時、最も重大なる事實である。此の葛藤は解決しなければならぬ。けれどもプロレタリアは自分が最も堅固な綱

によつて結び付けられてゐる政治家なしに過し得るには、餘りに未だ自覺してゐなかつた。一方政治家達はプロレタリアを蔑視するには、餘りに自分達の政治的力の基礎である人氣や勢力に執着し過ぎてゐた。そこで彼等は策畧を用ひなければならぬ。……そして茲に改良主義は實現した。政治家が伊太利の労働運動を馴致し、壊敗し、變質せしめ、自分等の目的にそれを利用し様とするに當つては、必ず此の改良主義を以つてするのである。此の目的とは個人的見地に對應するものであるか、それとも政治的見地に對應するものであるか？ 我々はそれを知らない。我々の確言し得ることは、唯だ改良主義者の間には、殊に伊太利に於いて、民主的制度が其の背後に常に牽き連れてゐる特別な政治的盜賊の正常な代表達、かなり卑賤な連中が取り入つてゐるといふことである。

『伊太利は最も落伍者の割合の多い國である。ところが社會黨が徵募兵の大多數を發見するのは此の連中の間である。伊太利の不平家、渴望家、獵官者のすべては、社會主義者として生活を營むことが出來るといふ希望の下に、社會黨に雲集襲來するのである。當然これ等の人々はブルジョワジイの敵に變装してゐた。彼等の心理、彼等の出生、彼等の爲した學問、又その當然の結



果であるところの無知は、彼等を彼等自身の階級から遠ざけた。彼等の怨恨は恐るべきものである。彼等は他人の成功を強く嫉妬する。そして彼等は彼等の野心を満足させ様としない、そして彼等が渴望してゐた地位を吝んだ所の國家が癩に障つて堪らないのである。彼等の要求は労働階級のそれと非常に違ふので、黨は結局労働階級の最悪の敵對者となつてしまつた。彼等は彼等の力と彼等の古い勢力を、我々が裏切りと非難するに躊躇しない目的に利用してゐる。今日迄のプロレタリアの歴史及び今日の労働者の生活は此の點に關して充分な徵證を我々に供給してゐる。

「一九〇五年は非常な變動のあつた年であつた。鐵道従業員が全國に亘つて有力なるアジテーションをなしたが、其の間第二回の總同盟罷業が五月に勃發した。鐵道従業員の抗議運動は國家に依る鐵道の買収が惹き起した論議に關係があつた。近視的保護主義の一現象の爲めに、此の買収は革命派をも包含する社會黨員より非常な支持を受けた。すべての人が私人的擄取に反對だと聲明したが、其の後塵を黨も拜した。その上此の計畫は改良派によつて非常な熱狂を以つて迎へられた。彼等はこれを以つて社會主義の方へ進められた一歩だと考へたのであつた。

「國家による擄取は災禍であつたし、今も尙災禍である。

「現在伊太利鐵道従業員組合 *Il sindacato ferroviari italiani* の名の下に知られてゐる、そして全線路網に亘つてあらゆる職務の人々を包含してゐる鐵道従業員の團體は、階級闘争の主義を承認することに依つて、古い共同組合的、相互主義的精神の團體から生れ出たものである。

「一九〇五年に於ては、此の鐵道従業員の組合は二つの大きな部門に分れてゐた。即ちリスカトオと組合聯合會とであつた。しかし乍ら統一委員會がアジテーションを指導した。だが統一は一九〇七年迄實現せられなかつた。

「此のアジテーションは唯だ單に其の範圍の廣きに於てのみならず、罷業の權利を廢止せんとする内閣の法律案に對する効果に於いて非常に重要なものであつた。鐵道従業員は其の第一の武器としてオブストリクシヨニスム *Obstructionisme* に、即ち法規の正確、嚴酷、文字通りの適用に訴へたのであつた。それは非常な成功であつた。法律の嚴格なる適用は輸送を妨碍した。數日後ジョリツチ内閣は倒壊し、ジョリツチの配下であるフォルティスが内閣を組織した。此の二月に行はれたオブストリクシヨニスムに引き續いて四月には總同盟罷業が行はれた。それは五日に亘り、此れも亦殆んど完全に輸送を癱瘓せしめた。



「此の罷業は議會に於いて鐵道従業員を取締る法律案が審議せられてゐる間に起つたものであることは注意しなければならぬ。故にそれはブルジュワジイを恐怖せしむることが問題であつたのである。何となれば此の値を拂つてのみプロレタリアは争ひに勝ち得るからである。」

「鐵道従業員はこれに就ては、プロレタリアの連帯一致に信頼した。だが政治上の理由が勝つて労働階級に對して此の罷業に關係しない様にといふ勸告が發せられた。即ち最初の四日間、労働者に對して用意して、そして……靜肅である様に勸告してゐた労働組合中央書記局は、五日目に罷業を中止する様にといふ電報を發した。だがそれだけが全部ではない。其の後同一の目的を持つた一宣言が中央書記局に依つて、社會黨院内團との一致の下に作られてゐることが判明した。

結果は豫見するに難くない。罷業委員會は闘争を中止する爲めに辭職しなければならなかつた……

「……數ヶ月の後ローマに於て開かれた鐵道従業員の大會に於ては、社會黨代議士の叛逆に對して長い討議が費やされた。社會黨代議士は公然裏切りを以つて非難された。」

「多くの労働者の虐殺を原因とする新たな總同盟罷業が、鐵道従業員のアジテーションの一ヶ月

後に勃發した。數々の暴力行爲が多くの場合に於て行はれた。ブルジュワジイは武裝的抵抗の新組織に訴へた。ポロニヤ及び其の他の都市に於いて義勇兵の戦闘隊が組織せられた。議會に於いては最も反動的な演説が行はれ、そして社會黨院内團は何よりも先づ自分達の利益を憂慮して、再び此のプロレタリアの闘争を否認した。」

一九〇四年六月改良派は、フェリの革命派に對する左祖の爲め黨に於ける指導的地位を失ひ『前衛』Avanguardia 一派がそれに代つた。しかし『アヴァンチ！』紙の主筆レオネは其の以前より『社會的變遷』Il divenire sociale を發行して、ソレル、ラガルド流のサンデイカリズムを鼓吹してゐた。此のイル・デイヴェニレ・ソシアル紙は佛蘭西で廢刊になつた前記新マルクス主義者の機關雜誌 Le devenir social (ル・ドヴニル・ソシアル) の伊太利語に於ける復活であつたのだ。此のレオネ一派と『前衛』一派とは一致する筈がない。レオネ等は遂に『アヴァンチ！』を去り、フェリが代つて主筆となつた。レオネ等は間もなくローマに『行動』Azione といふ日刊新聞を起したが餘り長命ではなかつた。革命派は他にナポリに『プロバガンダ』を機關紙として有し、改良派及びサンデイカリストと對抗した。黨の指導的地位を追はれた改良派のチュラチ、キエサ、ピ



ソラチ、プランポリニ、ボノミ Bonomi 等はミラノを本據とし、『社會批判』Critica sociale の外に三個の日刊新聞、即ちミラノの『時事』Tempo、ジェノアの『労働』Lavoro 及びレッジオ・エミリアの『正義』Giustizia によつて自説の擁護に努めたのであつた。

サンデイカリストは斯くて漸く勢力を擴大し、一九〇四年六月モデナに於て大會を開いた。しかし其の内部にも種々なる意見の相違のあつたことを忘れてはならぬ。同年十一月二十六日のボロニヤに於ける大會に於いては、八時間労働問題を中心として非常な意見の間隔が見られた。即ち部分的闘争を運動の目的に加ふべきや否やといふことが大問題となつたのであつた。

### サンデイカリストの敗北

一九〇五年ジェノアに開かれた労働組合中央書記局の大會に於ては、當然サンデイカリストは幹部に對して猛烈な攻撃を開始した。そして一部分サンデイカリストの主張が勝つた。此の大會に於てはプロレタリアの闘争に於ける總同盟罷業の効用が決定的に承認されたのであつた。更に

又中央書記局の組織がプロレタリア運動の實勢に適應してゐないこともサンデイカリストによつて指摘せられた。各地にある労働組合會議と全国的な職業的乃至産業的労働組合聯合とは屢々意見の齟齬を來たしてゐた。後者は常に職業的利益に固執して、前者の活動に妨碍を與へたのであつた。中央書記局の再組織といふことに於てもサンデイカリストの意見が勝を占めた。

翌年、即ち一九〇六年九月、ミラノに労働組合の大會が開かれたが、其の際中央書記局は解體され、労働總聯合 Confederazione generale del lavoro が成立した。それは佛蘭西の労働總聯合 Confédération Générale du travail を模範としたものであつて、恰かもサンデイカリストの主張が容れられた様であつたが、實は然らず、幹部はすべて改良派に獨占され、此の總聯合の使命は『プロレタリアの闘争を指導するにある』と宣言せられ、規律と服従の組織を設立するに終つた。そして此れの前頭には元アナキストの政治家リゴラ Rinaldo Rigola が立ち、極端にサンデイカリストを排斥するに至つた。

同年十月七—十一日ローマに於て開かれた社會黨の大會に於ても、サンデイカリストは徹底的に敗北した。此の大會に於ては改良派ははじめ自説を主張して譲らず、フェリ派とサンデイカリ



スト派と茲に三個の決議案が提出された。しかるに愈々投票となるや、改良派は擧げてフェリ案に合流し、其の結果五千三百七十四票對二千六百九十四票を以つてサンデイカリストは徹底的に撃破された。フェリ派と改良派との間には本質的な差異がないことは、此の大會に於て明らかにされたのであつた。

此の年總同盟罷業又行はれ、社會黨代議士は此の罷業、労働組合問題の紛争に關連して殆んど全部辭職したが、再び選出され、サンデイカリストは遂に社會黨を去つた。しかしサンデイカリストは労働總聯合内には止まり、幹部攻撃を止めなかつた。一九〇七年十一月三―四日のバルマに於ける總聯合大會に於ては、サンデイカリスト側に投票するもの、組合數に於て四十二、人員に於て二十万を數へた。

此の年の十月、又官憲による労働者殺害があり、北部伊太利に於ては總同盟罷業が宣言せられた。革命的精神に浸潤され、漸くサンデイカリスト側に傾かんとしてゐた伊太利鐵道従業員組合は、直ちに此の總罷業に参加することを決議した。

ところが第一に『アヴァンチー』のフェリがこれに反對した。彼は「國家は自殺するを得ず」

といふ聲明を發したが、これは鐵道従業員を處罰すべしといふことを意味したものであつた。そして二日の後には労働總聯合が罷業反對の宣言を發した。社會黨も同じ態度に出でた。總聯合の罷業反對宣言が出て二時間経つと、五百人の鐵道従業員組合幹部は捕縛され、或ひは免職、或ひは褫官された。斯くて總同盟罷業の危険は社會黨と労働總聯合の盡力により未前に鎮壓され、「國家は自殺せず』して済んだのであつた！

此の年の五月一日に起つたバルマの農業労働者争議もサンデイカリズム運動史に重要な位置を占むるものである。伊太利の農業労働者は前にも述べた如く、労働運動に於て重要な分子となつて來たが、共同組合と密接に關係してゐて、争議は頻繁に行つたが、全然改良派の指揮下にあつた。故に農民組合を稱して『政治家の家畜』などと評するものも革命派中には尠くなかつた。しかるに地主、雇主側は飽迄労働者の組織を破壊せんと志し、鞏固な團結を作り、充分準備の上立入禁止を食はせたのであつた。改良派は其の指導者たる義務から、初めは労働者を熱心に支持したが、争議が三ヶ月に亘つて未だ解決を見ないので、これを見棄てゝしまつた。そこで此の争議の責任はバルマ労働組合會議書記長であつたサンデイカリスト、アルセステ・デアンプリスの双



肩にかゝつて来た。政府は當初二ヶ月は、何等干渉しなかつたが、漸次勞資の敵對が深刻になるにつれ、雇主側の組織した武裝御用團に種々便宜と保護を與へた。七月二十一日此の武裝團と罷業團の大衝突が起り、流血事が起るや、政府は軍隊を出動せしめ、總同盟罷業を宣言したバルマの勞働組合會議事務所を占領してしまつた。そして幹部を捕縛し始めた。社會黨は議會に於いてジョリツチの聲明に満足の意を表して何等抗議をしなかつた。のみならず、其の新聞に於いてデアンプリスの悪口を書き立て、罷業者の『暴行』を批難した。そしてサンデイカリスト派の幹部捕縛に乘じ、總聯合と社會黨と農民組合の幹部等は、窃かにバルマに於て會合して罷業の終熄を宣言した。

しかし罷業は終熄しなかつた。其處で十五日の後、此の幹部等は再び會合し、罷業者に對する一切の給與を停止することを決定し、無理矢理に此のサンデイカリストの『巢窟』を破壊するに努めた。

遂に勞働者は敗北した。六千人の勞働者が移住を餘儀なくされ、三千人の子女が其の家庭を離れねばならなかつた。デアンプリスはブラジルに亡命しなければならなかつた。

此れ等の事實は益々革命的勞働者をして議會派社會主義と改良的勞働運動を唾棄せしむるに至つた。各都市の勞働組合會議でサンデイカリスムの傾向を帯びる者は漸く多くなつて来た。我々はこれよりサンデイカリスト運動を述ぶる前に、議會派社會黨及び改良的總聯合流の勞働組合といふものが、如何なるものであつたかを見て見やう。我々はエミリアの勞働組合會議に關するパグリアリ教授の記述を引用する。Prof. Pagliari: L'organisation ouvrière en Europe.

『勞働組合會議の活動は特に共同組合の領域に發揮せられて居り、それに加盟してゐる團體をして商業的且つ工業的運動の中に進ましむるを目的としてゐる。それは其處で競争場裡に於いて個人的投機と闘ひ、勞働團體を商業的及び工業的大企業組織に變化せしむる爲めである。』

そして一九〇七年にはエミリアに工業的並びに農業的共同組合が百七十五存在したといふ。此れが勞働組合の描寫と思へやうか。しかも改良派によれば、かゝる運動がプロレタリアにとつて一切の隷屬の終結を表すと主張せられたのである。も早や抵抗や闘争の勞働組合は重要でなく、和衷協同の共同組合が重要なのである。故に改良派の指導の下に多くのこれ等の共同組合は公共事業を引き受けた。そして伊太利の共同組合王たるルザツチの内閣組織は改良派の非常な歓迎を



蒙つたのであつた。アルチュロ・ラブリオラがローマ大會に於て斷乎として此のエミリアに於ける運動を排斥したのは當然であつた。

一九〇八年フイレンツエの社會黨大會に於ては、鬭争の通常的手段としての總同盟罷業、永久的な且つ宗派的な政府反對的態度、民衆に何等物質的利益を齎らさぬ單なる否定的態度等を排斥し、プロの利益となる改良の爲めに積極的な仕事をするのは何等社會主義の目的に反するものではないといふチュラチの主張が、二万九千二百七票對一万八千二百五十二票を以つて勝利を得た。其の結果フェリに代つてモルガリ Morgali が『アヴァンチー』の主筆となり、ピソラチが院内團の筆頭の位置に就いた。斯くて社會黨は益々改良主義に傾いて行つた。

其の一ヶ月以前モデナに開かれた労働總聯合の大會に於ても、リゴラ一派が大勝した。リゴラ曰く。

『マルクスがプロレタリアは鬭争に於いて失ふものは、自からを繋ぐ鎖以外に何もものもないと主張し得た時代は既に過ぎた。プロレタリアは今日に於ては守るべき若干のものを持つてゐる。故に無反省な且つ時機に適しないアジテーションに加はることは出来ない』と。

そして此の大會は罷業統制権をも含むあらゆる統制権を幹部の手中に握つた。そして總同盟罷業に関する論議は向ふ十年間延期！ することをも決定した。

サンデイカリストは一九〇九年四月、ボロニヤにサンデイカリスト労働組合大會を開いて對策を議した。これには革命的な労働組合會議や伊太利鐵道従業員組合等も參加した。此の大會に於いてはサンデイカリストは一齊に労働總聯合に加盟して『中から叩く』ことが決定せられた。

我々は此の機會に目を轉じて伊太利サンデイカリスムの理論的方面を考察して見よう。

### ネオ・マルキシズム

前述の如く、當時の伊太利のサンデイカリスムはネオ・マルキシズムである。伊太利のプロレタリアは其の覺醒に當つて、古い無政府主義とは長い間隔絶されて居つた上に、それ自身自からの覺醒に適應する理論を樹立するの暇を持たなかつた。それで理論的には黨の知識階級の左翼分子の輸入した學說で満足しなければならなかつた。此の理論家の尤なるものは、即ちアルチュロ・ラブ



リオラとエリコ・レオネであつた。ラブリオラとレオネの間には大した相違はないから、我々は前者の『社會革命と社會改良』*La révolution sociale et la réforme sociale* 及び彼が一九〇七年四月三日、パリに於てなした講演『伊太利に於けるサンディカリスムと社會主義』*Le syndicalisme et le socialisme en Italie* より諸處抜萃して見る。

『社會主義は危機に際會してゐる。その運命は民主主義の運命に結びつけられてゐるかの如く見え、又それは民主的制度の内部に於てのみ生存し得るかの如く見える。普通選舉とか、議會運動とか、官權に對する壓力とか、全市民の感情の表現であると考へらるゝ輿論のアジテーションとか、それから最後には國家の征服とかいふ様なことは、社會主義行動の最も正統なる表現であるかの如く見える。

『だが實際に於ては、社會主義はデモクラシーに由來するものではない。精々云へることは、此の兩者は孰れも其の發生が同じ一つの歴史的状态の中に覓められるといふこと、此の同じ一つの歴史的状态が此の二者をして同時に發生せしめたといふ位なものである。デモクラシーは國家の内部に於ける全市民の共通且つ連帶的な行動を其の目的とする。社會主義は工場内部と經濟的

敵對關係の領域の上に、其處から外へ射出し且つ國家を攻圍する爲めに、生産者の團體の區別された且つ獨立した行動を目的とする。

『社會黨は當然市民を除外しない。そして國家を經濟的に優越せるものゝ利害を代表すべく運命づけられた機關と歴史的に考へるといふことは、毫も其の行動をしてヨリ輕跳に、ヨリ非敵對にせしむるを妨げなかつた。しかるに其の上社會黨が、時々労働者を決して生産者としてではなく市民としてしか見ない問題に關係する爲めに、生産の範圍を拋棄したといふ意味に於て社會主義は益々デモクラティックになつた。それは唯だヨリ溫和な、ヨリ愛想のよい社會主義の代表者には、デモクラティックな行動の方が、其の特別な領域を工場とし、其の機關を工場の代位たる労働組合とするところの、正常に云つての階級の行動よりも遙かに迅速だと思はれたといふことから起つたに過ぎない。社會黨は他の政黨と同様に、議會の鬭争と選舉の膳立に全然忙殺された。そして經濟的鬭争を其の選舉の形勢を有利にする範圍に於てしか戦はないデモクラティックな政黨となつてしまつた。あの様に無趣味に、あの様に冷淡に經濟的に見える共同組合のものさへ、黨の選舉といふ車の單なる車輪としか考へられなかつた。社會主義は一個の社會民主主義に、即ち



カール・マルクスと呼ばれる無味乾燥な經濟學者の甘い哄笑を屢々招かないでは置かなかつた一つの現象になつてしまつた。

『社會主義は、運動としては……若干の政治家に奉仕する單なる議會的機關になつてしまつた。教義としては、それはスペンサー及びオギュスト・コントの連帶主義の一變種、公認科學者の既に充分道化染みた實證主義への道化した一附録、乃至はマルクスの如き思想的巨人でさえも筆をすべらし得る二重の意味を有する文句に對する、重箱の隅を楊子で突つつく様な没趣味な註解(獨逸の特性)になつてしまつた。』

『我々が眞實高尚なそして自由な空氣の中で再び呼吸を始めたのは、實にジョルジュ・ソレルのおかげである。伊太利人の、並びにささやかな經濟學研究者の資格に於いて、此のことは私が宣言せずには居られないと感ずることである。』

『幸にも、そしてそれは何時でも起ることだが、事實が人間の誤謬を訂正することを引き受けた。社會主義が議會主義になり始めて以來、社會主義の選舉に於ける成功と社會主義の眞實の進歩との間には、何等の相互關係がないことが毎日ヨリ顯著な證據によつて分つた。議會制度の存する

すべての國に於て、社會黨は議會に議席を占めた。數ヶの國に於ては、彼等はいくつかの大臣の椅子を奪つたか、乃至は彼等の投票に依つて内閣を支持したかして、政府の直接責任を負擔した。彼等が或る内閣の多數派に加盟の出来るところ乃至は入閣の出来るところでは、彼等はそれを爲すことにバカバカしい渴望を示し、彼等の反對者が彼等の意圖の忠實性を信じなければ非常な憤怒を示したのであつた。

『其處で二つの定理が一切の其の明證の中に明らかになつた。其の定理は既にサンデイカリズムが社會主義教義の一般的條件から歸納したものであつた。即ち』

一、政黨は本質的に政治的且つデモクラティックなものであつて階級とは別なものである。

二、社會主義の發達は議會的又デモクラティックな方途と違ふ他の方途によつて成される。

『……妥協の精神と政治屋的態度とはチュラチとかピソラチとかの個人的勢力の結果ではない。黨は全然政治的機關であるが爲めに、必然に妥協に、取引に傾かなければならない。我々は社會主義が其の階級精神を保存することは、唯だ其の階級的團體に閉ぢ籠るといふ條件に於てのみ可能であることを理解した。我々は黨といふものの中に、或る種の決定せられた必要事に有益な、』



しかしプロレタリアの革命的希求を具象化する能力のない階級闘争の補助的な、從屬的な一機關以外に何物をも見なくなつた。黨の利害は階級のそれとは一致しないが故に、我々は或る一定の時機に黨が如何にして階級それ自體の發達の障礙物となり得るかを理解した。我々は階級闘争をその最も一般的な且つ最も革命的な意義にとつて、職業上の自治的集團（サンデイカ）の中に確認し、そして社會黨に階級闘争の議會的及びモクラテイツクな若干の利害の代表を委する必要を見た。（伊太利に於けるサンデイカリズムと社會主義）

此の一節は、後に伊太利のサンデイカリスト及びラブリオラの議會的行動を述べる時に重要な關係があるから記憶して置いて貰ひたい。

『階級闘争の發達は、他の一切の階級より區別されたる階級としての階級闘争の自治的組織の芽生を藏してゐる。扱て、階級闘争の自治的組織といふことは、我々にとつてはそれ自體で充分な一個の階級闘争、換言すれば自分等の以外に生産と交換の指針及び社會的行動の原則を求めざる要のない一個の階級闘争を意味する。我々の理想である自治的工場は、階級闘争を社會の他の部分から分離せしめ、階級闘争を階級闘争自身の運命の支配者にする階級闘争の事實そのものに由來する

ものである。故に我々が建設してゐるのは一つの『未來の都市』ではない。だが我々は今日より自から實現しつゝある一個の運動の最後の結果を豫見して満足してゐる。素より如何にして此の理想が實現せられるかといふことを知るか、知らないかといふことは我々には餘り關係がない。

『サンデイカリズムに於ては、財産の集中、貧窮の増大、破壊的危機の終結か否かといふ問題に就てのビザンティン式論争の存する餘地はない。我々は、資本制工場の存するところ、其處にはサンデイカリズム及び支配者なき工場の可能性が存するといふに止める。だが我々は次のことを附加へる。即ち此の理想は、唯だ階級闘争が今日迄ブルジュワ階級によつて成し就けられた機能を擔當するに足るだけ道德的にも知識的にも有力になつた時、又資本制工場を保護するところの、そして國家と呼ぶるところの力の組織を顛覆するに足る程物質的に有力になつた時にのみ到達し得るものである、といふことを。（伊太利に於けるサンデイカリズムと社會主義）

『生産の社會化は、資本主義組織の機構のおかけに依つて既に實現してゐる。我々は資本主義的方法に對して新しい生産方法（都市とか國家とかの）を代置する必要はなく、唯だ分配の新方法を代置する必要があるのみである。生産の方法は資本主義社會に於ける其の儘が残る。我々の關



心するところは唯だ所有に對する權利の再分配のみである。

『資本主義は實際に於いては一つの産業的組織を生み出したのではなく、唯だ種々なる生産的要素（土地、資本、労働）を非常に異つた方法に於いて結合したものである。過度の一律性程人に嫌厭を催さしむるものはない。』

『我々は或る職業の労働組合が産業の單一部門に於ける全労働者を包含し得るといふこと、一律の基礎の上に全労働者に代つて全資本家と契約を結び得るといふこと、そして共通基金の中に全利益を蓄積して其の全成員に平等に分配すること、例へば子供の數、其の人の健康の状態、乃至は其の人の肉體力等々に比例して分配し得るといふことを想像することが出来る。そして此の労働組合——國家の中に於ける國家——は種々なる方法に依つて其の成員の保險を實行することに依つて、彼等を國家の統制、即ち彼等自身の意志の外にある力の統制から脱却せしめる。此の過程は更に推し廣めることが出来る。我々は此の發展の或る一點に於いて、労働組合が一定の利子を拂つて資本家の資本を借り受け、區別されたハッキリした勘定をつけ乍ら、一緒か乃至は數箇の共同團體を通じて働き乍ら、それを共同的に使用し得るといふことを想像することが出来る。』

そして最後に種々なる労働組合の聯合會が資本の使用に對して一切の利子を拒絶することが出来る程強大になり、補償なくして自分自身それを所有することが出来る。其の時革命は完成するのである。資本家階級は生きる爲めには働かなければならなくなる。労働組合は獨占に反對するが故に萬人に對して開放されてあるが、それは喜んで昨日迄の資本家を歓迎し、そして論議の餘地なき彼等の指導的及び經營的能力を利用する様になる。』（社會革命と社會改良）

彼が如何なる意味に於ても自由聯合主義者ではなく、マルクス主義者であり乍ら、單に社會黨の政治偏重に對して經濟の重視を主張したに過ぎないことは以上に依つて明らかである。一九〇四年以後自己の力に自覺して來た労働者達は、一時斯かる理論で満足しなければならぬ程、それ程社會主義一般に對して無知にさせられてゐたのだ。故に伊太利のサンデイカリスム運動に於ては労働組合運動の『補助的機關』としてサンデイカリスト『黨』が存在し、代議士を選出したのであつた。最初のサンデイカリスト代議士としてモランゴニ Morangoni が選出された。



## トリポリ戦争

一九〇九年の總選舉に於ては社會黨は四十の議席を占めた。しかし爲そのものは口に美辭麗句を唱へながら益々改良的になつて行つた。

ところが一九〇九年、西班牙の自由教育家フェレルの銃殺（西班牙の條参照）に關連して、社會黨代議士及び労働總聯合幹部の膽を冷させた事件が起つた。即ち伊太利全土に亘る抗議的總同盟罷業の勃發である。

はじめ社會黨の代議士は、この事件に對する民衆の憤激を利用して、政局を有利に打開する心算であつた。ところが労働者の『無反省な行爲』は彼等の計畫をすっかり打ち壊してしまつた。彼等は濫面を作つて民衆の憤激の逆りを眺めてゐるより仕方がなかつた。

此の事件に於てサンディカリストが非常な活動をなしたことは勿論である。しかし事件が靜まると再び保守的幹部の統制は堅固になつた。『内より叩く』戰術は遅々として効果が上らなかつた。

伊太利のプロレタリアの此の無氣力な状態は帝國主義者に非常な安易を與へた。此處に於いて彼等の帝國主義的政策はトリポリ遠征となつて現はれた。すると此の戦争を支持すべきや否やといふ、プロレタリアの見地から見れば愚にもつかぬことが社會黨内の大問題となつた。ビソラチ、ボノミ、カプリニ Cabrini、ポドレッツカ Podrecca 等は直ちに政府に賛意を表した。此の年三月、アルバ Alba が皇帝を狙撃した。其の時ビソラチ等は惶惶として御見舞に參内したので、革命派の彼等に對する攻撃は猛烈を極め、此の攻撃者の間に後のファシスト、ムソリニ Benito Mussolini が一段頭角を現はしてゐた。そこで社會黨は一九二二年七月ボロニヤに大會を開いて、態度を決しなければならなかつた。

大會に於てはビソラチ、ボノミ、カプリニ、ポドレッツカ等四名の除名案が提出された。そして一万二千五百五十六票對九千八百八十三票を以つて除名が可決された。そしてトリポリ戦争反對の宣言が發表された。しかしボノミ一派と行動を共にする社會黨代議士は此の四名以外に十二名に達し、彼等は別に社會主義改良黨を組織した。此のトリポリ戦争に對しては、ネオ・マルキシスト、ラブリオラも『我々は單に土耳其に對して戰つてゐるのではない。弱小國をして一指をだに



觸れしめず、鐵の如き制覇を批議する一言をだも發せしめない財閥的歐洲の陰謀と威嚇と黄金と軍隊とに對しても戰つてゐることは明らかである』と主張して、政府のトリポリ遠征を支持した。此のころより彼はサンデイカリスト運動から身を引き、寧ろ愛國的社會主義者となり出したことは、彼の佛蘭西の先生ソレルと著しく似てゐる。即ちネオ・マルキシズムの當然の破綻である。以下便宜に従つて除名派を本黨と稱し、被除名派を改良黨と稱することとする。本黨は茲數年來はじめて革命派が指導權を握るに至つた。本黨はレルダ Lerda によつて提出せられた次の決議案を可決し、其の態度を明かにした。

『本大會は、政治的選舉に於ける黨の適當なるプログラム及び戰術に關する討論の後、

『先づ第一に階級闘争を以つて再び一切の社會主義的行動の理論的基礎及び實際的指針として承認し、而して

『社會黨は其の本質的に革命的な性質により、教育とアジテーションの黨である外なく、斷じて政府黨となり得ないことを考慮し、且つ黨の論理的首尾一貫と闘争的効力の爲めには、大會に於いて選ばれたる執行委員會に大會の決定の解釋及び執行を訓令することに依つて、地方的自治の

組織を廢止することが絶對的に必要なることを公告し、而して

『社會黨の政府参加を承認したるもの、又は新社會民主主義（政治的、經濟的問題に於いて階級的協調を求むるところの）の觀念に賛成して現在の軍事的・植民的遠征に賛成したるものが黨内に殘留することは、社會主義の原則、手段及び最後の目的と兩立し難きことを宣言し、而して

『政府の計畫に對する一切の支持は社會主義の根本的理論及びプロレタリアの利害に反することを宣言し、且つ黨の爲めに代議士をも含む全黨員に向つて大會の決定を嚴重に遵守することを強制する權利を要求し、而して

『黨の反王政的態度を再確認することによつて、來らんとする政治的選舉に於いては、支配階級と隸屬階級との利害の一致を許さざる階級闘争の理論及び實踐の論理的且つ必然的歸結として、非妥協的手段 *il metodo intransigente* が遵奉されなければならないことを主張し、従つて來るべき選舉に於いては、執行委員會に支部に他黨の候補者選出に關する許可を與ふる權限を許しつゝ、あらゆる選舉區に於て少くとも五年間正式に黨員たりし人物より成る黨自身の候補を擁立することを決定し、而して



『純粹の社會主義的原則に基づく選舉宣傳を具體化する。しかし乍ら黨の候補は、黨の經濟的團體のプロレタリアが希望し要求する改良のプログラムの實現に議會内で努力することを誓ふものである。』

右の決議を一讀すると、態度は確かに幾分革命的になつて來たが、それと共に中央集權を非常に主張してゐることを注意しなければならない。

改良黨が其の一致したる態度を發表したのは、翌年の總選舉の後の十二月の大會に於てであるが、對照の便宜上こゝに掲げて置く。これはボノミの起草にかゝるといはれてゐる。

『改良は勞働階級の政治的及び經濟的力、並びにそれに對立する力に關連して形作りなればならない。我が黨はプロレタリアのインタナショナルに加盟し、連帶一致の感情の中に民衆を教育する任務を負ふけれども、しかし乍ら世界の列強に於ける勞働階級の運動の成功が一般的な、同時的な軍備撤去を可能ならしめるであらうと希望して居乍らも、國民全體の防衛の爲めに、國際生活の現状を無視することはしないのである。我々は民主的諸政黨に對して何等の偏見を持たない。我々が此れ等の諸政黨と隔絶してゐるべきか、乃至は提携政策を執るべきかは、夫々の

プログラムが同様であるか否かといふことにかゝつてゐるのである。共通なる反對、乃至は政府の公認された處置の支持に於ける一致は、事情に従つて締結され或ひは廢棄されなければならぬ。そして勤勞階級の中には、賃銀生活者の部類には入らない、寧ろ小勞働階級の所有者のタイプに近いものも抱括されるといふことは明白なことである。』

勞働總聯合を内より叩くことに失敗したサンデイカリストは、一九二二年十一月二十三—二十五日、モデナに於て大會を開いた。參加した組合は農業、組合數三百、交通及公共事業、組合數百、建築業（家具を含む）組合數、百五十、金屬産業、組合數二十五、衣服業、組合數三十、食糧産業、組合數二十、鑛山、組合數十、其他の組合十であつた。そして勞働總聯合より脱退してサンデイカリストの總聯合を作るべきや否やに就て大論戰が行はれ、結局四万二千百十四票對二万八千百五十二票を以つて新たにサンデイカリスムに基づく勞働總聯合を組織することとなつた。これに反對する主力は鐵道従業員組合であつて、これは改良派勞働總聯合内に留ることとなり、此の大會から脱退した。此の際成立したのが伊太利勞働組合同盟會 *Unione Sindacale Italiana* であつた。事務所はパルマに置かれた。大會の發した宣言に曰く、



『我々はそれによつてブルジュワジイが毎日に其の利潤の大部分を抛棄せざるを餘儀なくされる  
ところの部分的ストライキ、ボイコット、サボタージュを労働組合にとつての一時的手段として  
認めるものである。が、生産のすべての部門のすべての労働者の總同盟罷業こそ、ブルジュワ階  
級の決定的收奪を齎らす唯一の途である。』

斯様にして伊太利の社會主義に於ける三派は夫々自から一黨を結成してハツキリした陣營を構  
ふるに至つた。

## 一九一三——一四年

一九一三——一四年は伊太利の社會運動にとつては相當興味ある年である。先づ殆んど普通選挙  
に近い改正選挙法で總選挙が行はれ、社會黨は其の議席を一躍二倍にした。社會黨本黨は革命派  
の指導の下に社會黨としては最大限の革命的アジテーションを行つた。マラテスタが歸國してア  
ンコナに居を構へ、伊太利労働組合同盟のサンデイカリストはラブリオラ一派のネオ・マルキシス

ムの理論的指導を離れて、漸くアナルコ・サンデイカリスムの傾向顯著ならんとした。そして一九  
一四年六月には暫く忘れられて居た總同盟罷業が行はれたが、それは無政府主義者、サンデイカ  
リスト、革命派、共和黨の一致的な指導の下に、從來の總同盟罷業に比して遙かに革命的性質を  
帯びたものであつた。それから大戦が勃發し、非戦運動の時代となつた。此の非戦運動者の眞唯  
中からムツソリニが戦争参加を主張して現れて來た。我々は順を追ふて叙して行かうと思ふ。

伊太利の統一といふことは主に都市ブルジュワジイの事業であつて、加特力教の勢力の強い田  
舎に於いてはこれを冷眼視するものが多かつた。そこで伊太利の選挙法は都市を重視し、農村を  
排斥する選挙法であつた。教育の有無に資格の制限を置く舊選挙法では、無教育者の多い農村に  
は全然選挙権を與へないに等しかつた。一九一三年の選挙法はこれに改正を加へて、普通教育を  
受けた男子はすべて二十一才以上、受けざるものはすべて三十才以上を以つて有権者となしたの  
である。更に陸海軍人たりしものには教育の有無を問はずこれに選挙権を與へたのであつた。

一九一三年の初夏、總選挙の行はれることが確定するや、本黨の革命派は『選挙の期間中は何よ  
りも先づ初めて有権者となつた數百万のプロレタリアを偽瞞しない爲めに、又は彼等が偽瞞され



ない爲めに、彼等の前に社會黨の全行動に於ける議會的行動の價値を説明し乍ら、社會主義の方  
法並びに目的に於ける全プログラムの展開にそれを使用することを決定した。

此れは黨の樞軸に居た革命派の掛聲だけで、實際は左様に行はれなかつたことは後に示すが、  
兎に角それ迄とは少し違つた意氣込で掛つたことは事實の様である。一九一二年の大會に於いて  
決定した様に、成るべく自黨候補をあらゆる選舉區から擁立することに努めたが、その不可能  
なところでは改良黨の候補者を支持することになつた。又トリポリ戦争に反對した自由主義者ピ  
ンキア、非戦論者カエタニ公爵の如きをも援助した。しかしナポリから立候補したサンデイカリ  
ストで、前にトリポリ戦争を支持したラブリオラを支持すべきや否やは、執行委員會の大激論と  
なつたが、少數の差にて支持に決した。選舉の結果は次の如くであつた。

	當選者	黨候補者總得票數
本 黨	五一	九六〇、〇〇〇
改良 黨	一三三	二〇〇、〇〇〇
サンデイカリスト	二	—

本黨、改良黨の總得票數は總投票數の二割五分に達した。サンデイカリスト『黨』の當選者は  
デアンプリスとアルカ Arca であるが、其の他のキョチ Cicotti、アルトベリ Altobelli、ヴィニヤ  
Vigna、ラブリオラの四名の當選者はいづれの黨派にも屬せず居た。

しかし本黨の代議士連が本部の訓令通りに運動して成功したのでないことは、一九一四年のア  
ンコナの大會に於けるフリーメイソン問題及び自治體選舉に對する對策問題で明白である。先づ  
フリーメイソンの問題から述べて見ると、同大會に於てムツソリニはフリーメイソンと社會黨の  
兩者に籍を置いてゐる代議士の處分を要求して曰く、

『例へ黨が此の行動によつて多くの會員を失つたとしても、それは心配の原因とはならない。社  
會主義はプロレタリアが人類の大多數者であるといふことの限りに於いて、人類の問題なのであ  
る。フリーメイソンの支部内に於ける社會主義者は、恰度動物が穴藏の中に於いて其の毛皮を變  
へる様に必ず變化するものである。(大喝采)』

伊太利はフリーメイソンの盛んな國である。フリーメイソンの應援なくしては當選出来ない代  
議士も社會主義者の中に多數あつたので、此れは相當問題になつたが、結局大會は次の決議を可



決した。

『本大會はメイスン結社に席を置いてゐる同志諸君に右結社と一切の關係を斷絶することを勸告し、而して

『社會主義者にとつてはメイスン結社に加盟し、其の中に留ることは調和し難い行爲であることを宣言し、黨支部に對して、此處に設定せる規約に其の將來の行動を適合せしめざる同志を除名することを勸告する。』

此の決議の結果、レイモンドオ、セナツベ、ルツチ、サンヅリの四代議士、及びナポリ、トオレ・アヌンジアタ、カセルタ、リヴァロコ、レギユレ、ピアセンザに於ける二十支部、及びサン・レモ、ヴォルトリ、リア、クレヴァリの諸支部は大會の決議を遵奉しないで除名された。しかし乍ら一九一三年の總選舉に於て當選した五十一名の代議士中、十四名迄はフリーメイソンの會員なのであつて、他の十名は前記四名程除名を賭して迄争ふ考へは（選舉地盤の關係上？）無かつたに過ぎない。此の事實によつて、我々は『革命的』議會派社會黨が其の美辭麗句を離れて實質的に觀察して見た時、如何なるものであるかを知ることが出来るのである。

此の一九一四年の大會に於ては尙ほ軍國主義に關する決議案が可決された。此れは伊太利社會黨の大戦に對する態度、及び其の後のインタナショナルに對する態度を知る上に非常な參考となるから左に全文を譯出して置く。

『本大會は社會主義と軍國主義間の敵對關係はプロレタリアと資本主義的ブルジュワジイとの間に存する敵對關係の自然的歸結なることを確言し、

『又軍國主義はプロレタリア強壓と資本主義制度擁護の組織である以外に、此の社會的進化の時期に於て新たに擄取すべき植民地を求むるか、乃至は軍事的費用の増加と公債の増加との間の周知の平行關係に従つて容易な、且つ利得のある國債に投資せんことを求めるところの資本主義の立場に合致するものであることを確言し、又

『プロレタリアは、殊に伊太利の如き資本稀少なる國に於ては、それ自身に對しても、又軍國主義が招く資本主義的消費に對しても、それが或ひは生活費を昂騰せしむる課税の形に於て表現せらるゝか、乃至は生産的投資、即ち工業及び商業に振り向けられた資本を減少せしめ、そして經濟的危機、即ち勞働者に對する就職口の缺乏、及びその移住を惹起する形式の中に表現せらるゝ



かの孰れにせよ、共に致命的利害を有することを確言し、而して

『本大會は國內的問題としては、愛國的ブルジョワジイの國民的挑發組織に對して決然として労働者の國際主義の共通利害を對立せしめつゝ、プロバガンダと大衆の、殊に青年の教育の擴大を提議すると同時に、

『又社會黨院内團に對して再び軍事公債に對して最も猛烈な反對を續行する義務を委ね、且つ組織労働者の積極的な且つ直接の行動に依つて彼等を助くるに努むると同時に、

『ウインの國際大會に國際社會主義事務所に特別な職分を與ふる目的を以つて、右社會主義事務所再組織の特別要求をなすことを決定するものである。』

『其の職分とは

A、大労働組合國際聯合所屬團體全部を國際的觀念——平和と非軍國主義——の側に獲得する爲め、又戰爭を不可能ならしむる一切の實際的手段に對して訓練する爲めに、特別なプロバガンダを行ふこと、

B、非軍國主義運動が、或ひは他の一國の爲めに或る一國を弱めはしないかといふあらゆる危惧

を一掃する爲めと、世界に對して戰爭と軍國主義に反對する組織プロレタリアの積極的な、堂々たる、決定的な同盟の生々とした觀念を與へる爲めに、種々なる國々に於けるプロレタリアの非軍國主義運動の同一的性質を知らせる爲めに、國際通信（ブルジョワのものにせよ社會黨のものにせよ）を通じて相互通信の迅速なる組織を實現すること、即ちそれである。』

此の提案は大戦の爲めに妨げられて提出することは出来なかつたが、第二インターナショナル内に在つて伊太利社會黨が、終始反軍國主義的立場をとつて來たことは認めなければならぬと思ふ。

無政府主義者はマラテスタの大赦による歸朝をアンコナに迎へ、一九一三年六月より『意志』Volontàを同地に發行した。一九一四年二月には、ローマに於て全伊太利の無政府主義者が大會を開いた。議會派社會黨の裏切り、及び主戰派社會主義者の態度は労働者に非常な反感を與へ、其の結果無政府主義の運動も進出すべき充分なる分野を得た。マラテスタの言を構へたアンコナは、昔より其の附近にマツジニ派の共和主義の盛んな土地であつたが、無政府主義者は其の反王朝主義、反加特力主義、反軍國主義的態度を支持したので、兩者は甚だ親密になつた。一方サンディカリ



ストは社會黨の議會主義を攻撃して止まず、社會黨革命派も革命的行動を主張したので、共和黨、無政府黨、サンデイカリスト、社會黨革命派の此の四派の運動は、期せずして伊太利に重大なる革命的氣運を捲き起した。

## 六月の總同盟罷業

伊太利未曾有の總同盟罷業が一九一四年六月に勃發した。これは其の參加人員に於てもそれに先行した總同盟罷業に比して遙かに大であつたが、特に其の性質に於いて非常に革命的であつたことを忘れてはならない。これは支配階級を戦慄せしめ、其の一ヶ月後に勃發した歐洲大戰に伊太利をして獨塊側に加擔して参戰することを不可能ならしめたものであつた。今これの叙述に入る前に、當時の勞働團體の勢力を概畧述べて置かう。

改良派の勞働總聯合は一九一四年には約四十万の會員を有してゐたと推察される。社會黨が改良派と革命派に分裂した時、此の勞働總聯合は改良派と同一態度には出なかつたけれども少くと

も革命派にはならなかつた。けれども各都市の勞働組合會議に於ては、革命派がその樞軸となつてゐたところが相當多かつたと思はれる。

伊太利勞働組合同盟（サンデイカリスト）の會員數は恐らく十万に充たなかつたであらうと思はれる。共和黨の組合も十万内外ではなかつたか。兎に角改良的な勞働總聯合以外に會員總計三十五方に達する種々なる獨立の組合があつたのであつた。そして總聯合と此の種々なる組合の會員數約七十万の中三十四万人は農業勞働者であつたことも注意しなければならない。

當時伊太利の人口は約三千六百万人であり、其の中一千二百万人が農業及び工業の勞働者階級に屬するものであつた。前記の諸組合以外に別に加特力教に基く勞働組合があつたが、其の組合員數は七方に達して、尤に一方の雄であつた。其の中四万五千は農業勞働者であつた。

共同組合事業は伊太利に於ては甚だ盛んであつた。其の範圍は公共事業、農工業生産、共同倉庫、購買並びに販賣、建築、銀行等の多方面に亘り、一九一四年には其の數八千四百に達した。そして其の勢力範圍を大別すると、社會黨は主として公共事業共同組合を指導し、加特力は共同組合銀行に勢力あり、憲法主義者は共同倉庫組合に於て活躍してゐたのであつた。



六月の總同盟罷業に於いて、最も活躍したのはマラテスタを中心とするロマニヤのアナキストと共和黨の提携であつた。しかし今筆者は此れに關するアナキストの文献を有してゐないから、社會黨の文献を引用し、記憶を辿つてこれに註を附して行かうと思ふ。先づ當時社會黨革命派の機關新聞であつた『アヴァンチー』の主筆ムツソリニが、白耳義社會黨の機關新聞『ル・プウル』に寄せた報告を引用して見やう。

『伊太利に於ては、六月の第一日曜は憲法發布の記念日である。觀兵式や其他皇室のお祝ひが行はれる。戰鬪的伊太利人——社會主義者、サンデイカリスト、無政府主義者等——は、此の日を軍隊に對する抗議の集會の日に選んだ。政府はこれ等の抗議の集會を禁止する法令を發布した。此れは誰にも判る如く、言論及び集會の自由の大なる破壊である。

『此の運動の重大性は、他に銃砲店の掠奪や、政府は顛覆されたと信じたところの住民すべてを武装せしめたことから起つたのである。教會は焼き拂はれ、鐵道の停車場、町役場、王黨本部等は劫掠せられ、食糧の徴發隊が派遣せられ、そして其の食糧は貧民の間に分配せられた。要するに社會革命の前夜を徴表するしるしが現れた。

『一週間に亘つてロマニヤ地方を構成してゐるトルチとラヴェンナの二州は其の餘の伊太利から遮斷されてゐた。鐵橋は破壊され、共和國の赤旗が都會に於ても村落に於ても高く揚げられ、軍事官憲も政治官憲も其の宮殿や兵營の中に閉ぢ籠つてしまつた。そして武装した農民の非常な數に上る群衆が、新制度の實施を公布しつゝ、都會と田園を横行した。

『伊太利全部に亘つて、官報『ボボロ・ロマノ』を除いては二日間一枚の新聞も出なかつた。

『總同盟罷業に關して社會黨の命令を奉じたプロレタリアの數は二百万と數へられてゐる……

『(此の運動に於ける)死傷者の數は此の運動が如何なるものであつたかを示すのである。死者は次の如くであつた。

チュリン、三名。ミラノ、一名。パルマ、二名。フィレンツエ、三名。ナポリ、四名。アンコナ、三名。ファブリアノ、一名。パリ、三名。

『トリポリ戦争は二十億(リラ)の費用を要した。經濟的骨格の非常に弱い伊太利の如き國民にとつては、かゝる巨額は致命傷を現すものである。其の結果、我々は失業と不平と一般的不安に見舞はれたのである。



『眞實は次の如くである。(アフリカに於ける) 戦争の結果、伊太利は危機切迫した革命的な状態に入った。社会主義者が偉大なる責任を負はなければならない時期が近づきつゝある。』

我々は此の罷業に就いてオルベルグ Oberge が伯林の『ノイエツァイト』七月三十一日號に寄せた、稍や詳細な、だが遙かに黨派的な描寫を抜萃引用して見る。

『此の總同盟罷業は、一九一四年以來警官の暴行に對して宣言せられて來た以前の總同盟罷業と、原則に於ては些しも異るところはない。唯だ相違は運動の大きさに存するのみである。これはより深刻であり、ヨリ包括的であり、ヨリ脅迫的であつた……』

『アンコナに於ける六月七日の流血の惨事は、其の原因を共通とする以外に、殆んど何等の關係を相互に持たない三つの運動を惹き起した。社会黨の執行委員會と労働總聯合は、アンコナの流血の報を聞くや否や、直ちに全國に亘る總同盟罷業を宣言した。しかし此の抗議運動とは別に、そしてそれより二十四時間乃至二十八時間以前に、ロマニヤに勃發した一運動は、アンコナの共和黨と無政府主義者の委員會に率ひられたものであつた。此の運動は全く自發的な運動であつて、……そして電信電話の破壊と罷業期間全般に亘る鐵道事業の中止の爲めに、全國一般の運動とは一

切の關係を絶たれてゐた。ロマニヤの大衆運動が六月八日隣接諸州に溢出した後、そして八日の深更全國に亘つて總同盟罷業が宣言せられた後、伊太利鐵道従業員組合は六月十日の夜總同盟罷業を宣言した。しかしこれは國內の種々なる都會に於いて鐵道輸送を阻碍し、それを混亂せしめた外何ごともし出さなかつた。此の力の示威としては全くの失敗であつた運動は、鐵道従業員組合によつて行はれたものであつた。』

オルベルグは茲で何だ彼だと鐵道従業員組合に向つて下らぬ惡聲を放つてゐるが、必要はないから省くとして、此の總同盟罷業の中に三つの主流があつたことは明らかである。一はアンコナのアナキストと共和主義者、二は社会黨と労働總聯合、三は鐵道従業員組合を含む革命的サンディカリストである。此の中第一は全くロマニヤ地方に於いて全伊太利から遮斷されてしまつた様である。尙オルベルグをして續けさせやう。

『伊太利の労働者の大衆の罷業に對する覺悟は、……一般に知れ亘つた、注意に値する事實である。警官の暴行に對して抗議することになつた時、伊太利のプロレタリアは常に行動に對する準備をしてゐた。けれども、労働總聯合、黨執行委員會、及び社会黨院内團には屢々其の準備がな



かつた。しかるにも拘はらず、罷業は常規となつてしまつた。其處で今でも昔と變はりなく（本黨中の）改良派の指導の下にある労働總聯合は、寧ろ阻止することの出来ない此の運動を支持することは、それに引き連られて行くよりはヨリ害が少くないと認めたのであつた。

『黨の執行委員會は、レツジオ・エミリア大會（一九一二年七月）以來、總同盟罷業に對しては其の間に多少其の價値と適用に異論がないが、兎に角大體これを認める革命派の手中にあつたのであつた。我々は此の總同盟罷業の效果ある處理の主要なる原因を、一九〇四年に於ける同様な深さと力とを獲得した運動に於けると同じく、惨事より未だ三十時間を経過しない中に總同盟罷業の命を與へた黨の執行委員會と労働總聯合の迅速なる行動に覓めるものである。……其の上その以前より總同盟罷業の思想に充たされてゐた大衆は、それに對して内面的に準備されて居り、そして其の大衆の精銳は改良主義者の時代に於けるが如く、大衆に對して有利な政治的情勢を破壊しやしないかどうかといふ心配から起る一切の考慮や、慎重さなどいふものに煩はされなかつた。』

『我々は亦一般的な失業が、……同じく罷業を助けたことを否認しない。』

『若し誰か此の總同盟罷業から戰術上の教訓を得やうと欲するならば、それは次のことである。即ち力の完全なる發達の爲めには、電信電話事業の占領は缺く可らざるものであるといふことである。これは總同盟罷業に就いて熟慮すべき問題である。何となれば此處は於いてはそれは仕事の繼續の問題であつて、それを斷絶することではないからである。此の度も亦政府は罷業者から一切の電信電話を隔絶させてしまつた。黨執行委員會は、まる二十四時間何のニュースにも接しなかつた。一の都會から他の都會へのニュースの皆無といふことは、同時的行動を妨げ、大衆をして運動の範圍の大なることを認知させることが出来なかつた。』

『鐵道罷業に關しては、我々は簡單に濟ませる。此の運動は失敗した。そしてさういふ結果を見るより仕方がないと、前以つて豫見することの出来た條件の下に於て失敗した。それは他の労働階級が既に罷業して二十四時間經過した後、そして此の總同盟罷業は單なる抗議の示威運動の範圍を跳び超えるであらうといふ見込の下に宣言せられた。我々は此の罷業宣言が時局の誤つた判斷に基づく一つの誤謬であることをいふに躊躇しない。其の上サンデイカリストの指導の下にある此の非常に強大なる鐵道従業員組合は、最近に於いては同情罷業の分野に於いて何等これと



いふ名聲を得たことはないのである。……

『ロマニヤに於ける運動は、此れに就いて書かねばならぬ人を、眞偽を判別することの困難な、連絡のない、矛盾した無数の間に彼自身の道を見付け出すといふ困難な運命の下に置くのである。我々は單に此の運動の本質的特徴を示すに止める。……此の地方は何よりも先づ農業的地方である。……此の地方の住民は……六月八日アンコナより、此の地方を除く伊太利全部は既に共和制になつたといふことで、あらゆる場所で共和制を公告することを勧告せられた。此の地方の住民は誰も此のニュースを疑ふ者無く、又如何なる抵抗も試みられなかつた。彼等は國旗の代りに赤旗を掲げることまでした。小都會に於いては憲兵が武装を解除されて兵營内に監禁されたり、地方政府が組織されたり、生活手段が分配されたり、地方税の改良が規定されたりした。此のすべては、其の成功しなかつたお蔭を以つて、後には一つの茶番狂言に終つてしまつた爲めに、此處に詳説する價值はない。唯だ此處に注意する價值のあることは、大衆の幻想に對する感受性、及び彼等をして人に對する一切の暴力行爲と、一切の無益な破壊を行はしめなかつた驚くべき節制である。電信電話が使用されなくされたことや、鐵道が杜絶されたことは、かゝる事件の性質の

しからしむるところであつて、暴行と呼ぶことは出来ない。六月の變はロマニヤとマルケスの住民が、……變革が復讐の酒盛に伴はるゝことなく、又それによつて自分自身は富むことなくとも……熱狂的に共和制の旗を掲げる準備があるといふことを示すものである。

『六月の變に就て云ひ得ることは、それが政治的革命的眞實の特徴を示したといふことである。何となれば此の時機に於ては、政治的權力は住民の一階級から他の階級に移つたからである。共和黨委員會が命令を下しブルジュワジイは服従した。そして穀類を渡し、自動車を譲り、金さえも差し出したが、それは斷られた。……』

『大衆が何等の抵抗も受けずに至るところで國旗を引き下ろし、そこへ赤旗を掲げたことは、王朝にとつて尙以上に意味のあることである。何となればそれはそれは正確に何等の流血事なくして行はれたことであるからであり、又支配階級から何の抵抗をも受けなかつたからである。……』

『我が黨は、ロマニヤに於て表現せられた子供らしい革命的理想主義に對して同情を表すること拒絶することも出来なかつたし、又此の運動を理由として迫害された者共に對して支持を與ふることを拒絶することも出来なかつたけれども、此のロマニヤに於ける運動とは何の關係もなか



つた。それは何世代の間共和制を考へて來た住民の間に於ける共和的運動であつた。其處には一人の社會主義的戰闘者もなく、何等の社會主義的目的もない。我々にとつては、それは現在の社會の抵抗力を考へに入れなかつた試練であつたし、又大した努力を費す價值のない目的を目的としたものであつた。我々は生れ出た革命的精神の故にそれを歡喜することは出来るが、しかしそれを我が黨の活動の果實として誇ることは出来ない。此の教訓は寧ろ我黨に對する重大なる警告である。……』

此の總同盟罷業の結果、六千人の労働者が公判に附され、鐵道従業員にも多數の解雇者が出た。これに對して七月末、鐵道従業員組合は大會を開き、適當の時機に抗議罷業をなすことを決定した。

しかるに突如、伊太利が其の同盟國の一なる獨逸と、英佛露との間に戰端が開かれるに至つた。

## 市町會選舉

大戰に入る前に當時の伊太利の議會の形勢と、六月の總同盟罷業後の市會選舉を畧叙して置かう。

當時の議會内の形勢を見るに、非憲法黨は社會黨（本黨及びサンデイカリスト）と共和黨であつて、前者の議席は五十二、後者は十七であつた。憲法黨は五百八の總議席の中四百十を占めてゐたが、それは次の諸黨派に分屬してゐた。國民黨（右翼）、是々非々黨（中央派）、民主派（左翼）即ちそれであるが、以上の外に此の部類に急進黨と改良派社會黨が入るのであつた。更に全然以上の孰れとも別に、法王の命を奉ずる加特力黨があり、これは二十九の議席を占めて居つた。これが大戰勃發當時の議會の分野である。

七月十二日、伊太利全土に亘つて、自治體の議員選舉が行はれた。既に十四年度の大會に於いて、自治體の選舉には共和黨乃至ブルジュワ左黨と提携の必要ある場所に於いては提携すべしといふ主張が現はれ、猛烈な論争があつたが遂に革命派の非提携説が勝つた。しかしそれはそれで、實際に於てはブルジュワ黨とのプロックは至るところに於て成立したことは忘れてはならぬ。此のコミューン選舉に於て本黨の掲げたプログラムは次の如きものであつた。



一、自治體の自治。二、公立學校制度、學校食堂、學校圖書館の改善。三、食糧に對する稅率低下、市町營屠殺所及び製麵麪所の設立、食糧價格の市町公示制の爲めの政治的アジテーション。四、市町村事業に於ける公共事業の引受。五、廉價且つ健康向の労働者住宅の建設。六、労働階級協議の支持、病院の改善、母性及び子女の保護、大衆の衛生教育。七、労働階級の政策、自治體事業の被使用者及び労働者の團體承認、公共労働の分配に於ける賃銀及び労働者保護の約定、市町労働者媒介所、失業者給與。

別にブルジュワ政黨と提携を拒絶しなければならない程のプログラムが、以上の中に一つもないといふことは眞實である。だが、大體社會黨は兎に角大都市に於ては成功した。

## 歐洲大戰

市町會議員選舉直後、煥洪國皇太子が塞比亞の青年に暗殺せられたのを機會に、歐羅巴に戰雲漲つて來た。伊太利は獨塊と共に所謂三國同盟を結んで居たので、若し獨塊と佛露間に戰端が開

かれるならば、當然獨塊側に立ち、佛蘭西を背面より攻撃するものと思はれた。社會黨も、サンデイカリストも、無政府主義者も、そしてブルジュワ急進主義者も茲に於て猛烈な非戰運動を開始した。時恰かも六月の總同盟罷業の直後で、革命的精神は至る所に浸潤してゐたから、此の非戰運動は甚大なる反響を呼び起した。我々は今茲に兵士の間につた上官抵抗の風潮を詳叙する暇を持たぬ。故に極く簡単にこれを述ぶるならば、一般兵士は皇帝及び軍閥は親獨塊と猜してゐたから、何かのことで出動を命ぜられると其の行先、目的を訊さなければ動かない。そして兵士は集會して『共和國萬歲！』を叫び、軍規は顛廢し、若し政府が無理に獨塊側に參加する様なことがあれば、革命は必至の勢ひとなつたのであつた。

一體伊太利の目の上の瘤は獨塊利であつたし、又あるのである。獨塊利はあらゆる機會を利用して伊太利の統一を妨碍し、統一の成つた後も中々其の伊太利に於ける領土を手離さなかつたのみならず、海に陸に軍威を逞しうして伊太利を壓迫してゐたのであつた。故に伊太利は獨塊利が強大なる間は、枕を高くして眠ることは出來ないのであるが、此の大戦に伊太利が獨塊側として加擔する時は、自からは何等得るところなくして唯だ獨塊利の強大を圖るに過ぎない。そして其



の上佛露が獨塊の爲めに破られて、勢力の均衡に相違が来るならば、塊太利は伊太利に對して益々傍若無人になるのは容易い道理だ。

傳統的な國民的感情を無視した、そして利害上から云つても面白くない此の三國同盟に對するプロレタリアの反對は、六月の總同盟罷業を背景として、非常な勢ひとなつた。形勢切迫せる七月下旬、「アヴァンチ！」は次の如き社説を掲げた。

『そして伊太利は？』

『若し歐羅巴の大火が起つたならば、伊太利は如何なる態度を取るか？ 塊太利に與して佛蘭西に向ふか？』

『我々は國王に依つて、國民の意志に反して非常に急に更新された此の三國同盟の『秘密』協約が何であるかを知らない。だが我々は若し此の協約が伊太利のプロレタリアに、プロレタリアのものでない立場の爲めに一滴の血と雖も流すことを強ふるならば、プロレタリアは此の協約を破毀すると勇敢に宣言するといふことを知つてゐる。』

『若し歐羅巴の火災が起つたとしても、伊太利が若し其の破滅を早め様と欲しないならば、とる

べき態度は一つしかない。絶対の中立即ちそれである。』

社會黨（本黨）は政府の獨塊參加を牽制する爲め、最後の通牒を政府に與へた。若し強いて政府が三國同盟の契約を履行するならば、も早や内亂は避け難い形勢となつた。最後通牒に曰く。

『これは我々自身の問題ではない。伊太利の問題である。』

『我々は貴下に對して保證する。即ち若し伊太利が其の軍隊を動員し、佛蘭西に對する獨逸の直接乃至は間接の支持にそれに進軍することを命ずるならば、其の日に伊太利の民衆を叛亂せしむることに、我々に於いて何等の努力を要しないであらうことを。』

『暴動は全民衆的であり、恐るべきものであらうと思はれる。サランドラ氏よ、貴下はこれを疑はれるか？』

『既に此の全一週間といふもの、現在の秩序の最も卓越せる支持者諸君が我々の許に來つて云つた。若し伊太利が三國同盟を遵守すべきことを強ひられたならば、それは革命の時機である。若し其の革命が伊太利をして獨塊に支持を與ふることを止まらせるならば、其の革命は一個の愛國的革命たるに至らうと。』



プロレタリアの最後通牒にしては少し變なものだが、兎に角其の背後にある全革命的勢力は確かに政府を脅やかしたに相違ない。此の時党内に於て幹部反対派として不遇の位置にあつたチユラチは、七月二十六日次の如き聲明を發して自分の態度を明らかにしたが、此れは伊太利人一般の感情を表現したものととして各方面に多大の反響を與へ、益々社會黨の主張を堅くした。曰く、『私は院内團が現在に對しては勿論、未來に對しても中立提議に全部賛成であることを信ずるものである。其の理由は唯だにその戦争に對する根本的反対のみに基づくものでなく、外見だけに於ては塊洪國の攻勢、だが眞實に於ては塊太利と獨逸の攻勢、そして又塊太利よりは遙かに獨逸の攻勢に依つて卑劣にも罵られ、脅やかされた國民性の原則の考慮にも亦基づくものである。』我々の叫びが曠野に於ける叫びに此度は終らない可能性がある。それが可能であるといふ理由は、トリポリ戦争の苦しい経験が役に立つであらうからである。それは可能である。何んとなれば、我々の仲間の低脳をして、トリポリに我々の移民と文明を移し植えることが出来るといふ迷想をバツクリ飲み込ませることが可能であるとしても、我々の仲間の最も氣のいゝオメダイものにさえ、今我々の目の前にある怪しからん提議を飲み下させることは遙かに困難であるに違ひな

いからである。何となれば、我國の如き、此の塊太利の反対に逆らつて漸く國民の獨立を獲得した國が、塊太利の他の國民性を縊り殺さんとする魂膽に首絞繩の役目を勤めるといふが如きは、到底考へることは出来ないことだからである。私は繰返して云ふ。少くとも此のこと就いて、我々に助力を與ふることを惜しむが如き政黨は眞の政黨でない。』

かくて獨逸加擔反対は國を擧げての輿論となつた。殊に獨逸の社會民主黨がカイゼルの政策を是認して戦費を協賛したことは、伊太利社會黨の最も糺弾するところとなつた。カイゼルの手先なる獨逸社會民主黨は代議士ズウデクム *Suedekun* 外一名を伊太利に派遣して、伊太利社會黨の態度を緩和し、併せて國際政局を獨逸に有利に導かんと企てた。伊太利の社會黨は彼等を迎ふるに次の宣言を以つてした。

『我々社會主義者は、獨逸の使者の伊太利への派遣を以つて伊太利社會主義の品位と獨立に對する侵害と考へるものである。それは獨逸の社會民主黨が獨逸の侵畧政策を擁護することに依つて國際的社會黨の稱號に對する權威を失つてからは益々さうなのである。』

『中畧』



『けれども若し此の希望が無駄であるならば、我々は此の汚らはしき戦争が、此の戦争を惹き起した側——獨逸兩帝國の敗北に依つて終結に至る様にといふ我々の欲求を表示する。何となれば、獨逸兩帝國は、如何に解放の爲めの英雄的努力を試むべきかを示した民主的及び社會主義的勢力に依つて震撼されてゐる露西亞よりも以上に、歐羅巴の反動の爲めの壘壁を構成してゐるからである。若し獨逸兩帝國が戦争から勝ち誇つて現れるならば、それは其の最も野蠻なる表現に於ける軍事的専制政治の勝利、虐殺、荒廢、破壊、又あらゆる條約と權利と法律に反して征服する蠻人群の勝利を意味する。』

『又獨逸の社會黨は、彼等がこれを阻止する方法手段を知つてゐるといふ信頼を我々に與へない。彼等は過去に於いては唯だ有利なる勞働契約の實現と、彼等自身の國の政策には何等の影響を與ふることなくして、唯だ尠大なる選舉の結果を獲得することが出來たのみであつた。』

『獨逸帝國の敗北は、該帝國の封建的政治的制度を打破することに依つて、露西亞の専制主義から最近までそれが享樂してゐた援助を奪ひ、全歐羅巴の政策の目的を決定的に變更することに寄與して、獨逸の社會主義にも其の自發的無氣力から脱却し、それ自身を恢復する機會を與ふるに

違ひない。

『故に、最後に今日純粹の社會主義に浸潤されてゐる佛蘭西共和國の勝利、及び眞實のデモクラシーの繁榮してゐる英吉利の勝利は、一切の社會的獲得を容るゝ、そして平和を欲する一つの歐羅巴の政治的制度の勝利を意味し、又遂に解放されたる國家間の協約と、侵略の爲めに職業的に組織されたる蠻民群の代りに、防禦の爲めの國民義勇軍組織の代置に依つて強められたる國民性を意味し、此れは亦獨逸國民の解放をも實現するであらうと思はれる。』

『下略』。

ズーデクムの一行は斯くの如く至るところに於いて白眼視されたが、特にミラノに於ては公開の席上に於いて猛烈に獨逸及び獨逸社會民主黨の態度を難詰され、グーの音も出ず、ホー／＼の體で獨逸へ逃げ歸つたのであつた。

九月二十七日、ルガノに於て伊太利と瑞西の社會黨の代表が集まり、次の戦争に對する宣言を發表した。これは後のコオペンハアゲンの中立國社會黨の國際大會に關係があることを記憶して置かなければならぬ。



『現在の大破滅は列強の帝國主義的政策の結果であるが、其の帝國主義的政策は專制君主國にあつては王家の利害と同一のものである。』

『歐洲大戰は高級文化の爲めの鬭争でも、國民の自由の爲めの鬭争でもない。それは資本家階級の外國に於ける新市場の爲めの鬭争であると同時に、自國に於けるプロレタリアの革命的運動と社會民主主義を破壊せんとする犯罪的な企圖である。……』

『プロレタリアのインタナショナルの古い主義を高く掲げるとは、今日に於ては、戦争の恐るべき荒廢を免れた國々に住む社會主義者の義務であること今迄以上である。下記署名の伊太利及び瑞西社會黨の代表は、飽迄此の戦争の他國に波及することに對して抗争すること、此の混亂の渦中に他の國民を驅り込まんとするあらゆる試みを以つて勤勞民衆に對する犯罪、文明に對する恥辱として攻撃することを其の任務と信ずるものである。……』

『我々が作つてゐる基礎は、其の上に、戦争に未だ参加してはゐないけれども、其の影響には悩まされてゐる諸國民が、此の恐るべき屠殺に反對して結合することの出来る基礎である。それと同時に我々は中立國の社會黨に夫々の政府に對して、此の歐羅巴の國民の大量屠殺に急速なる終末を

告げしめる目的の下に、戦争中なる國々の政府に對し直ちに外交的交渉を開始することを求めんことを要求するものである。』

斯くて伊太利が獨塊側に加擔して大戰に参加することは、絶対に不可能になつたが、しかし此の大戦参加反對の裏に、孰れも獨塊の敗北と英佛の勝利を、專制對にする民主、軍閥に對する文治の勝利として希つてゐるといふことが一脈流れてゐることを見逃してはならない。茲に於て伊太利の支配階級と中産階級の間には、此の大戦を機會に積年の仇敵たる奧太利を伐つて、アドリア海の制海權を伊太利の手に收めんとする運動が起つて來た。

此の反塊氣運は忽ち社會黨内の野心家の敏速に感受するところとなつた。彼等は此の反塊熱と愛國熱に乗ぜんとした。『アヴァンチー!』の主筆として、猛烈に三國同盟を批難したムツソリニは其の一人であつた。彼は十月二十日の社會黨執行委員會に於いて次の如き提案をなして、これの通過を圖つた。

『以前から黨の態度となつて來た絶対的中立の公式は、其の後ヨリ複雑になり、ヨリ意外なる事件の支配下にある國際的情勢に照して見て、餘りに窮窶、餘りに獨斷的である。故に黨は事件を



のものがそれに基づいて行動すべき基礎を提供するまで、戦争の場合の黨の將來の戰術を決定することを避けるべきであらうと思ふ。』

黨の執行委員には一人もこれに賛成するものはなかつたので、ムツソリニは止むなく『アヴァンチー』の主筆を辭職した。間もなくミラノに於て社會主義者の大衆的會合が開かれたので、ムツソリニはこれに出席し、大いに反塊熱を鼓吹し、伊太利の協商側としての參戰を主張した。此の會合に於てはムツソリニに共鳴するものも少くなかつたが、遂に少數を以つて破れた。彼は間もなく『伊太利民衆』Popolo d'Italiaを發刊して、愛國的社會主義を主張し出したが、其の頃より彼は佛蘭西大使より運動費の供給を受けてゐるといふ噂が高くなつて來た。一九一七年彼は其の愛國的態度の爲め社會黨より除名された。

併し對塊宣戰を主張するものは社會主義者の間でもムツソリニ一人ではない。ピソラチ一派の改良黨は勿論早速これを主張し出したが、本黨側でも、元塊太利領であつた地方の社會黨領袖、一度は塊太利の國會へも選出されたことのあるバテイスチ Batischi の如きも其の一人である。そして亦デアンプリス、ラブリオラの如きサンデイカリスト代議士も、強く對塊宣戰を主張したの

であつた。改良黨の代議士で『ラツイノ』L'Asino 紙の主筆、ボデレッカは其の紙上に於いて、『協商國側の勝利は唯だに世界的軍備撤廢を助くるのみならず、それと同時に國民的意見の交換に對する途を開き、プロレタリアを社會的にも經濟的にも助けるに違ひない』と論じて、對塊宣戰に賛成するのは社會主義者の義務であるかの如く云ひ出した。

既にアナルコ・サンデイカリスムの道へ一步を踏み出した伊太利労働組合同盟 U S I は、デアンプリス等の態度を以て團體の主義と相違すると認め、これを除名した。デアンプリス等はパルマを中心に伊太利労働同盟 Unione italiana del lavoro を組織し、愛國的サンデイカリスムの運動を繼續したが、デアンプリスは後にファシスト労働組合の指導者となり、ラブリオラはジョリツチ内閣に入閣して、孰れもムツソリニの運動に至大の便宜を與へたことを忘れてはならない。しかしこれに依つて伊太利労働組合同盟 U S I はネオ・マルキシズムを完全に揚棄したといへるであらう。

社會黨は此の形勢に驚いて次の如き宣言を發して、黨員及び一般プロレタリアを警めた。

『社會黨の同志、伊太利の労働者よ。今や彼の憎むべき戦争が、文明歐羅巴の諸國民を互に相敵



對せしめた彼の日から既に二月以上の月日が経つた。一方此の恐るべき虐殺が繼續してゐる間に、ブルジュワ政府は或ひは其の使臣の覺書や論戰に依つて、或ひは其の大臣の演説に依つて、此の尨大なる鬭争の最初の責任を夫々の敵に負はせやうと焦慮してゐる。其の一切は虚偽であり作り話である。彼等は共通に責任があり、そして共通に其の責任に對して歴史の前に答へなければならぬ。獨逸軍の侵畧の暴行を忍ばねばならぬとされた、平和的な且つ英雄的な白耳義は問題の外に置くとして、此の戰禍に對する正確な責任の決定といふことは極めて詰らない問題である。戰爭に對する第一の、そして根本的な責任は、國家の競争に基礎を置く現在の資本主義制度に迄溯られなければならない。

『全列強の中で伊太利のみが此の廣大な鬭争の外に立ち、中立の態度を宣言することが出来た。政府の此の決定を實現するに際しては、今回の危機の其の當初より社會黨及びプロレタリアのつた斷乎たる態度が影響を及ぼしたのであつた。事實の問題として、三國同盟は、尙ほ外交的議定書の中に生氣なき存在を有するとはいへ、死滅したのである。中立の宣言は輿論の一致的協賛を得た。しかし乍ら數週間以前より、多くの追隨者の無い諸政黨及び其の他の傾向の者共が、政

府をして歐羅巴の火災に對する干渉に向はしめんとするアジテーションを行つてゐる。我々はリビヤの冒險に先立つたところの『心理的狀態』と全く同様な状態の起つてゐるのを見るのである。國民的力を集中した大學國一致内閣の絶對的必要が指摘された。昨日の同盟者に對する戰爭、従つて又獨逸に對する戰爭が要求されてゐる。

『社會黨が諸君に此の檄を發して諸君に委ねるのは徒事ではない。社會黨の代議士は伊太利の支配階級及び皇室がそれに對して責任ある策畧と無理想とで出来上つた、畸形な、矛盾した外交政策の結果である侵畧戰爭に對する軍事公債に決して賛成しないのである。』

しかし對境宣戰の風潮が政府及び支配階級の繰り糸に依つて煽られ、プロレタリアの陣營内に動搖が起つて來ると、直ぐ賭易いことは便宜主義者の擲頭である。御多分に洩れずチュラチの勢力は急に恢復し出した。彼の勢力の擲頭を挫くには實にマラテスタの巨腕を要したのであつた。

プロレタリア陣營内の動搖に直面して對策を確立する必要から、一九一五年二月ミラノに社會黨とサンデイカリストの共同大會が開かれた。此の大會に於いてチュラチは祖國と國民性を否定するエルヴェ主義者と參戰を主張する國民主義者の執れをも否定するといふ、時局に直面して何



の意味をもなさない、顧みて他をいふ曖昧極まる決議案を提出した。これに對してマラテスタは次の如き決議案を提出した。

『社會主義者團は、伊太利の社會主義プロレタリアが歐洲戰爭に對する伊太利の干涉に對して表示した反對を、積極的な、實際的な、斷乎たる行動に變更する必要を感じて、黨の執行委員會に對し、プロレタリアの他の指導團體と一致して注意深く、先驗的に如何なる手段をも除外せざる同一時的行動を準備する任務を委任する。』

此れは革命的總同盟罷業を意味するものであつた。そして投票の結果は百二十五票對百八十二票を以つてマラテスタ案の勝利に歸した。しかしマラテスタの身邊は危険にして、伊太利に止つてゐることは出来なかつた。彼は又倫敦に亡命して一九一九年迄其處に放浪をしてゐなければならなかつた。

伊太利の社會黨は革命的總同盟罷業を行ふことはしなかつたけれども、飽迄參戰には反對し續けた。ピソラチ等は之に反して、政府の參戰を支持し、遂にピソラチは入閣して政府の政策を助けることゝなつた。社會黨は政府の參戰に反對して、一九一七年の初夏勞働總聯合 C G L と共

同のプログラムを發して其の態度を明確にした。曰く。國際的には無併合、無賠償、民族自決、海洋の自由、一切の國家の即時且つ同時的軍備撤廢、經濟的牆壁の棄却、合法的國際聯邦の創立。國內的には共和政府、上院の廢止、性の區別なき普通選舉、發議權、レファレンダム、代議士召還、結社の無制限なる自由、高等警察の廢止、外交關係の議會批准、行政機能の地方分權、地方及び自治體の自治、政府事業の改善、産業的タイプに基づく執行機關の單純化、八時間勞働、最低賃銀、義務教育法の發布、共同組合的農業の促進、土地の社會化。

以上のプログラムを一讀する時、社會黨といふものが、伊太利の如き革命的精神の澎湃たる國に於てさへ、ブルジュワ左翼に過ぎないことを否定することは出来ない。我々は此の中に社會主義のシの字もないことを指摘して次章に移らう。

## ボルシエヴィキ

伊太利社會黨は、一九一五年のコオペンハーゲン會議に参加した。しかしこれ等のことはすべ



てインタナショナル篇で詳叙する方が適當と思ふから、此處には伊太利の運動に特に關係あること以外には述べないこととする。

社會黨の伊太利嚴正中立の運動は、伊太利の參戰によつて勢ひ平和運動と變ぜざるを得ない。しかるに一九一七年のカボレットに於ける伊太利軍の大敗は、甚しく伊太利國民の自尊心を刺激し、社會黨の平和運動は少なからず氣勢を挫かれるに至つた。ところが同年十一月の露西亞のボルシェヴィキ革命は、伊太利の社會黨の運動に非常なる氣勢を添ふる機會となつた。其の十二月の議會に於ては、社會黨の代議士モルガリは政府を攻撃して、すべからくレニンの平和基礎に基づき、直ちに單獨媾和を締結すべしと論じた。政府は形勢の險惡なるに驚き、同年十一月の黨の大會の開催を禁止したが、翌年の上半期に至るもこれを許さず、進んで黨内の急進派の頭目たるラザリ Constantino Lazzari (黨書記長)、セラチ Giacinto Serrati (『アヴァンチー』主筆)、ボンパツチ Nicola Bombacci 等を逮捕したる上、二年四月乃至三年六月の懲役に處した。社會黨側は民衆の示威運動を以つてこれに應じ、至るところに猛烈な衝突があつた。露西亞革命の報道は一般に失望と生活難に陥つて居た民衆に一道の希望を與へ、其の結果反抗が國內を支配し始め

た。政府は此の局面に應ずる爲め一方に大彈壓を加へると共に、他方に過大な約束をなして民心を收攬せんとした。一九一八年の春、改良黨即ち愛國的社會主義者は伊太利社會主義同盟を組織したが、これには當時十五万の組合員を擁せる愛國的サンデイカリストの團體、伊太利勞働同盟 U I L も參加した。

愈々休戦と事定るや、一九一八年十二月社會黨は宣言に依つて其態度を發表したが、それは甚だ革命的な調子を帯びてゐた。何となれば同年八月の大會に於て左翼が再び勝利を得たからであつた。彼等は公然ボルシェヴィキの追隨者であることを述べ、其の宣言から改良的な最小限度要求を省くこととした。何となれば大抵何時も此の最小限度要求が、社會黨の最大限度要求であるかの如くなつてしまひ、社會黨とブルジュワ黨との間に何の區別もなくなるからであつた。その宣言には『一、生産と交通の手段の社會化、即ち農民、水夫、鑛夫、勞働者に依つて直接運轉管理される土地、鑛山、鐵道、汽船。二、共同組合乃至市町代理者のみを通じての商品の分配。三、全世界社會主義プロレタリア國際共和國聯盟の實現による徴兵制度の廢止と、世界的軍備撤廢を目的として社會主義共和國及びプロレタリア獨裁政治の設立を目的とする』ことが述べられてあ



つた。我々は以下一九一九二〇年のボルシェヴィキ騒動を畧叙して見る。  
當時一概にボルシェヴィキの名の下に呼ばれてゐた運動には、大體次の四派があつたことを記憶しなければならぬ。

- 一、無政府主義者とサンデイカリスト（伊太利労働組合同盟 U S I）
- 二、モスコオと連絡ある共産黨（一九二〇年には黨員七方に達す）
- 三、社會黨中央派（『アヴァンチー！』は此の派の手中に在り）
- 四、社會黨右派（労働總聯合 C G L は大體此の派の指導に従ふ）

而して當時に於ける伊太利の組織労働者の各派に對する分布は如何。（一九二〇年の統計）

労働總聯合 C G L : : : : : 二、一五〇、〇〇〇

伊太利労働者聯合 Confederazione dei Lavoratori italiani 一、一八三、〇〇〇

伊太利労働組合同盟 U S I : : : : : 三五〇、〇〇〇

此の伊太利労働者聯合 C L I といふのは、基督教を奉ずる労働組合であつて、以前の加特力労働組合の後身である。加特力黨は大いに時勢に鑑みて政綱を刷新し、伊太利人民黨 Partito

popolare italiana に再組織されたのであつた。それは加特力といはんよりは基督教民主主義であつた。そして新政綱によつて農民を糾合し出したが、資本家も其の穩健なるを歓迎して財政的にも道徳的にも支持を與へたので、遂に非常に尨大な労働組合を組織し得るに至つた。しかしこれは反動勢力であつて、ボルシェヴィキ騒動に關係ないこと勿論である。

共産黨は別に労働組合を有しなかつた。そして労働總聯合 C G L と労働組合同盟 U S I の孰れかを乗取らんとしたが、遂に成功を見なかつた。

共同組合の數は一九二〇年には全國を通じて一万五千に達したといふ。

政府は戦時中人民の不平を押へて置く爲めに過大な約束をこれに對して與へたが、戦争が終つてもそれを實現することは出来なかつた。而して一方戦線より歸來した兵士は甚だしく生活に困難を感じたが、物價は昂騰して下落する模様がなかつたので、これ等の歸還兵で争議等に加はるものも少くなかつた。彼等は所謂戦争氣分に浸つて來たものであるから、暴力行爲等は屁とも思はぬ風習があつた。そこへ露西亞革命、獨逸革命のセンセイショナルな報道が來るのであるから革命熱は彌が上に昂まつたのは當然である。其の上政府はヴェルサイユに於ける媾和談判に、ウ



イルスン等を壓迫して自國に有利に形勢を轉回する爲め、種々國民を煽動して騒がせた嫌疑が少くなかつた。お天氣者グヌンチオのフューメ占領の如きも其の一例といふことが出来る。

一九一八年から一九一九年へ掛けては、先づ對露非干涉がプロレタリアの闘争の題目となつた。社會主義者は露西亞より撤兵要求をなし、水夫は露國に向ふ軍需品の積荷を拒絶した。それと共に政治犯の釋放要求の運動が盛んに行はれた。

一九一九年は其の初頭からストライキの頻發に見舞はれた。先づ三月ベルガモの労働者が罷業して工場を占領した。當時戦争は終つて、右すべきか左すべきかの岐路に立つてゐたムツソリニの如きは自から出張して此れの應援をした。初春政府の施設反對と經濟的要求貫徹の爲めにボロニヤ、チュリン等に於て二十四時間の總同盟罷業が行はれた。六月七月には食糧暴動が勃發した。これにもムツソリニは聲援を惜しまなかつた事實がある。七月二十一日の對露干涉反對の國際的總同盟罷業には伊太利も加はり、ミラノ、トリエスト等に於ては最も其の威力を發揮した。又ゼノア、フィレンツエ等に於てはソヴェイェットの建設さへも見、全國に亘つて二百四十餘の都市の産業が停止され、交通が遮斷され、充分に政府に對する威嚇の目的を達することが出来た。八月

には除隊兵が先頭に立つて、羅馬州に於て土地掠奪運動が始まつた。此れは貸主と賃借人との間の賃貸の争議に端を發したもので、數日の間に賃借人に占領された土地は七万四千エーカーに達した。しかし賃借人は地代を拂ふことは續けたのである。此の年の十一月の總選舉には社會黨は空前の大勝を博した。社會黨は一躍して百五十六の議席を得、第二黨となつた。改良黨は十六人を選出した。激減したのは憲法主義者の範圍に屬するもので（改良黨もこれに屬す）四百十の議席が二百三十九となり、加特力黨は伊太利人民黨の新装の下に百の議席を得るに至つた。共和黨は畧ほ何の變化も蒙らなかつた。政局の不安定以つて察すべきである。

政治犯釋放運動の結果、ラザリ、セラチ、ボンパツチ等も釋放され、マラテスタも十二月歸國するを得た。マラテスタの歸國は空前の盛事であつた。彼がミラノに入る日には、全市に總同盟罷業が行はれ、労働者は大示威運動をなして迎へた。彼はミラノに於て日刊新聞『ウマニタ・ノヴァ』*Umantà Nova* を發行し、又無政府主義同盟 *Unione anarchia* を組織し、伊太利労働組合同盟 *U S I* と緊密に連絡して、アナアキズムの運動を始めた。ウマニタ・ノヴァの發行部數は五万に達した。



社會黨は同年二月ベルンに開かれた第二インタナショナルの再組織大會には、ラザリとモルガリ Morgari を傍聴者として送つた。彼等は同大會に於いて、痛烈に第二インタナショナル加盟の社會黨の戦時中に於ける態度を罵倒し、席を蹴つてモスコオの第三インタナショナルに向つた。そして伊太利社會黨は第三インタナショナルに加はつた。しかしチュラチを始め多くの右翼の有力者は未だ黨に留つてゐたのであるから、黨の指導機關が共產派の手に落ちただけのことで、黨そのものは中々ボルシェヴィキ化しなかつたのは勿論のことである。一九一九年ボロニヤに於ける社會黨の大會に於いては、

- 一、チュラチ、トレヴェス、モデイグリアニ等の議會主義者、
- 二、マキシマリスト、即ちセラチ一派の共產黨にして議會行動を認むるもの、
- 三、非議會的共產黨 Communista abstentionista、ボルデイガ Bordiga が指導者であるもの、
- 四、ラザリ一派の統一派

の四派の存在することは顯らかであつた。同大會に於いては少數の差でセラチ一派（マキシマリスト）が勝つたが、代議士の大部分はチュラチ、トレヴェス派に屬するものであることを忘れて

はならない。故にレニンはボルデイガの極左翼的態度を攻撃しつゝも、次の如く云つてゐる。

『同志ボルデイガと其の一派は、ソヴェエツト権力とプロレタリアの獨裁を承認した黨の内部に止つて、そして代議士の儘で居り、以前から其の有害な且つ便宜主義的な政策を繼續してゐるチュラチ及び其の一派を攻撃することに於て正しい。勿論、これを忍ぶことに於てセラチと伊太利社會黨全體は重大なる害悪と危険性との原因となる誤謬を犯してゐるのである。……セラチが代議士チュラチを自家撞着だと云つて攻撃した時、彼は明白に誤つてゐる。反對に伊太利社會黨こそチュラチ及び其の一派の如き便宜主義的議會主義者を候補者に推薦することに於て自家撞着に陥つてゐるのである。』(レニン、左翼小兒病 N. Lenin: The infantile sickness of leftism in communism.)

故に伊太利に眞の共產黨（ボルシェヴィキ）の生れたのは、一九二二年一月の大會後のことである。況んや労働總聯合 C G L の如きは、其の幹部にダラゴナ Ludvico d'Aragona の如き有力な改良主義的指導者があつて、あらゆる努力を振つてボルシェヴィキ化を妨礙してゐたのであつた。



一九一九年の秋からは益々罷業頻發し、所謂ボルシェヴィキの脅威は尙々深刻化して來た。一九二〇年三月、ミラノのデアアナ劇場に無政府主義者が爆弾を仕掛け、其の結果二十人の死者と百人の負傷者を出した。有名な工場占領事件も此の年に起つたことである。以下此の事件を畧叙して見る。

此の年の夏、伊太利機械工聯合會は其の雇主協會に向つて要求を爲してゐたが、中々交渉の埒が明かないので、八月二十日よりサボタージュに入つた。資本案側はこれに對抗して八月三十日一齊にロック・アウトを食はせた。労働者は罷業破りの就業を妨碍する爲めに、工場の占領を開始し、八月三十一日より九月三日に至る迄の間に五十万の人間が運動を開始した。そして工場を主人無しに平常通りに運轉した。此の伊太利機械工聯合會は改良派に屬する組合であつたが、此の工場占領の事實が全國に知れ渡ると、労働者間に異常なるセンセーションを惹き起した。最後の革命的氣運が捲き起つた。

第三インタナショナルは八月にモスコオに於て大會を開いてゐたが、それはレニンの前掲の意見に於ても分る如く、チュラチ一派の除名を伊太利社會黨に向つて命令した。此の工場占領に

對しては、第三インタナショナルの書記長ジノヴィエフは伊太利のプロレタリアにメツセイジを發し、武装一揆とソヴィエツト設立の必要を慫慂した。尤もレニンはアンジェリカ・パラバノワ Angelica Barabanova が伊太利に革命が切迫したと告げた時、『伊太利には鐵も石炭も無い』といつて明らかに革命の可能性を否定する言辭を洩らしたといふ。パラバノワは長らく伊太利に在つて、伊太利の社會主義運動を牛耳つた婦人である。

アナキストとサンデイカリストも此の工場占領を機會として、大膽なる傳道を開始した。彼等は此の工場占領運動を單なる工場占領に終らしめてはならない。今一步前へ出て、××と×××制の廢止を目的として社會の全生産及び消費機關を労働者の手に收奪しなければならぬと云つた。

しかし此の機械工聯合會 F O I M、労働總聯合 C G L 及び社會黨の改良主義者は躊躇した。九月十一日改良主義者達は工場占領を中止することを決議した。労働總聯合の書記ドラゴナ（同時に社會黨の代議士である）は一九二二年九月ミラノに於て、當時を回想して次の如く演説したことがある。



『我々には多分ボルシェヴィキ狂亂の當時餘りに多く讓歩したことに對して責任がある。けれども我々は、我々が力の限り極端派を抑へてゐたことを知つてゐる。我々が彼等極端派の希望してゐた革命の勃發を阻止したことは我々の榮譽であり、我々の誇りである。そして我々が革命的破滅を阻止した名譽を荷ふた後、——その時ファシズムは到着したのだ。』と。

右の如く社會黨、労働總聯合、機械工聯合會はあらゆる努力を拂つて、労働者のアナキズム化、ボルシェヴィキ化を防止した。九月十一日の工場占領反對の決議は極めて少數の差で彼等の意見が通つたのであつたが、此の決議の此の運動全體に與へた影響は非常なものであつた。唯だに社會革命の道が閉ざされたのみではない、九月二十五日機械工の要求は遂に敗北したのであつた。

此れは伊太利に於ける全プロレタリア運動の凋落の端緒となつた。民衆は二年間に亘る革命的運動の後に、此の工場占領の失敗を見て失望の底に沈淪した。氣力を失つた。

支配階級は此の形勢を見通さなかつた。ファシストが活動し始めたのは此の時からである。十一月、政府は『ウマニタ・ノヴァ』の編輯員を、マラテスタを始めとして全部捕縛した。そし

てそれと關連して伊太利労働組合同盟 U S I の闘將全部をも逮捕した。漸く政府は氣力を恢復したのであつた。

社會黨は一九二二年一月レグホルンの大會に於て、モスコオの第三インタナショナル本部よりの命令に對して如何なる態度を執るべきかを議した。此の大會に於てセラチは頑強に自説を固守し、黨の一致を主張してモスコオの命令に服さなかつた。其の結果、モスコオの命を奉ずるボンパッチ一派はチュラチ・セラチの聯合軍に挾撃される立場に陥り、大敗した。茲に於てボンパッチ等は社會黨を脱して別に共產黨を組織したが、ボルデイガー一派の非議會派もこれに加はつた。此の時政府は政局不安定を理由として議會を解散し、一九二三年三月總選舉を行つた。總選舉の結果は社會黨に打撃を與へたが、それでも未だ第二黨の地位を去るには至らなかつた。

憲法主義諸黨 二七五

社會黨 一二二

人民黨(加特力) 一〇七

共產黨 一六



我々は此の邊で目を轉じてファシストの運動を見なければならぬ。

## ムツソリニ

ベニト・ムツソリニは一八八三年フォルク州のブレダビオに生れ、若くして小學教員となつたが、父より社會主義思想を注ぎ込まれた。一八九八年のミラノの總同盟罷業に關係して瑞西に亡命した。彼はバテイスチと共にトレントに於て『人民』Popolo といふ新聞を發行してゐたが、一九一一年の大赦令に依つて國へ歸ることが出來た。爾來彼は革命派の闘士として活躍し、ピソラチ一派の彈劾に力を用ひ、一九一二年『アヴァンチ!』の主筆となつた。彼が大戦後如何に變節したかは既に述べた。彼は當時デアンプリスの伊太利労働同盟UILと密接なる連絡を保つてゐた。其の關係から彼の周圍には愛國的な、元サンデイカリストの集まる者が多かつたが、其

の大抵は農業労働者の指導者であつた事は注意しなければならぬ。

故に大戦が終つた後、一九一九年三月始めて彼等の大會が開かれた時には、其の綱領は相當急進的なものであつたのであつた。此の大會に於て始めて戦闘團Fasci di combattimento が組織せられたのであるが、それは公然、各國民の國際的憲法會議の伊太利支部としての國民憲法會議の設立、伊太利共和制の公布、性的區別無き普通選舉を通じて行はるゝ人民の至上權、上院、貴族、及び兵役の義務の廢止、國際的軍備撤廢、裁判官の公選、株式組織による會社、銀行の解散及び取引所の廢止、私有財産の登記と制限、非生産的資本の沒收、農民に對して土地管掌の移讓、工業、交通、公共事業の労働者及び技術者組合への管掌移轉等を宣言したのであつた。ムツソリニは始め愛國的革命的社會黨と自稱してゐたが、後には何時の間にか其の社會主義を省き、愛國的革命黨と稱したことは人の好く知るところである。

彼は社會黨の八時間労働要求を見て、其の改良的なるを嘲り、かくの如きは労働者に對する裏切りであると激語した。そしてマラテスタが英國より歸國するや、『ボボロ・デ・イタリア』紙上に於て非常な稱讚を與へ、十二月三日マラテスタがマンチュアに於て爲した演説の如きは、其の全



部を紙上に掲載した。ファシ・デイ・コンパテイメントの運動は先づ農民の間に伸展した。それは前にも述べた如く、愛國的サンデイカリストは主に農民運動の指導者であつたことも一原因であるが、更に社會黨の勢力下にあつた農業労働者聯合會（労働總聯合 C G L 所屬）の政策が小農を無視したものであつたことも與つて力ある。此の農業労働者聯合會は全然小農の土地に對する渴望を理解せず、唯だ賃銀労働者の問題をのみ重視した。これに反してファシスト・サンデイカリストは大地主に迫つて土地を割讓せしむるなどして『小農を小農の階級に適應せざる團體の軛から解放した』のであつた。間もなくファシヨ運動の前に農業労働者聯合會は崩壊してしまつた。我々は次章に於いてファシヨ運動の反動化を研究して見やうと思ふ。

## ファシヨ運動

所謂ボルシェヴィキの狂亂に、政府、支配階級は唯だ手を束ねて巡查と軍隊とに取締りを委ねて置いた譯ではない。伊太利人民黨と密接に提携した伊太利労働者聯合 C L I は、至るところに

於て労働總聯合 C G L や、伊太利労働組合同盟 U S I と對抗した。政府、資本金、支配階級は此の伊太利労働者聯合 C L I に財政的、道德的、政治的便宜を與へた。しかし乍らそれは到底革命の潮流に抗することが出来る様には見えなかつた。

殊に工場占領事件は當時のジオリツチ内閣に非常な驚愕を與へた。此の賢明なる自由主義者は此れが革命的運動の凋落の端緒であるとは思はなかつた。そして支配階級の利益を擁護し得る團體を物色した。其の時『祖國』を信条とするムツソリニのファシヨ運動が目に入つた。此のジオリツチ内閣には元サンデイカリスト、アルチエロ・ラブリオラが大臣の椅子を占めて居たことに注意しなければならぬ。彼等はプロレタリアの革命的潮流を阻止するには、非合法的手段に訴へる以外に、も早や道はないと考へた。彼等は謂はゞ時機の觀測を誤つたのだ。彼等は下り坂に面したプロレタリア運動を撃破する爲めに、ファシヨ運動にあらゆる便宜を與へて利用せんとして、却つてファシヨ運動そのものに利用せられたのだ。

一九二〇年の半から末へ掛けて、ムツソリニと政府及び資本金階級並びに軍閥との間に完全なる諒解が成立したもので、如くである。其の頃よりムツソリニは彼の從來の社會黨を左翼の立場か



ら攻撃することを止めて、右翼の立場から攻撃することを始めた。彼と社会黨との相違は、それまでは唯だ祖國主義の問題だけに過ぎなかつたのが、今や政治、經濟、社會のあらゆる方面に於いて兩者は根本的に對立するものとなつて來た。それと同時に戰鬪團に資本家の子弟が群を成して入會し出した。又ジョリツチは陸軍首脳部にヒントを與へて、豫後備軍人を多數にファシヨ運動に入らしめ、その指導の任に當らせた。

しかし伊太利のプロレタリアが如何に意氣鎮沈したにせよ、唯だ此のファシヨ運動が合法的な活動しか出來ぬものであつたならば、容易にそれを壓倒することは出來なかつたに相違ない。が政府は警察と裁判所に命を傳へ、ファシストの犯す如何なる暴行をも默認する一方、社會主義者、勞働者側の試みた些少の對抗策にも嚴罰を課して假借しなかつた。ファシストは政府より鐵道パスを貰ひ、潤澤なる資金の供給を受け、警察と裁判所から無條件の保護を得、陸軍から武器、彈藥の供給を受け、指揮者として豫後備軍人を配置され、勞働運動の指導者を脅迫、監禁、暴行、殺害等あらゆる手段を以つて迫害し、勞働組合事務所を焼き拂ひ、組合員を死を以つて脅迫して脱退せしめ、社會主義、無政府主義等の機關新聞發行所を襲つてこれを破壊する等、兎に角言語

に絶する兇暴を逞しうした。かゝる暴行の最も行はれたのは一九二一—二二年の二年間であつた。そして彼等の暴行は天下周知の事實であるから、今更此處には緻密な記述は避けたいと思ふ。

要するにファシヨ運動はブルジュワジイがプロレタリアと對抗し、それを壓倒する爲めに、故らに作り出した運動であつた。しかるに此の運動の伸展するに連れて、始めは政府のヒントに依つて援助を與へて居た軍閥が、此れが彼等にとつて有力な手段となり得ることを發見した。此處に於いてファシヨ運動は一面に於いて革命運動破壊の具に使用せられると同時に、他面に於いて軍閥の、ブルジュワジイよりの政權奪取の具に供せられたものであることに着眼しなければならぬ。ムツソリニは軍閥の傀儡である。そしてそれが故にのみ、彼及び彼の運動は成功したのであつた。

ファシ・デイ・コンパテイメントは一九二一年の夏大會を開いた。そして其の際ファシスト勞働組合全國聯合 *Confederazione nazionale della corporazioni sindacali* が成立し、元革命派の勞働組合員 *Rosoni* が其の書記長の椅子に着いた。ファシストの勞働組合運動が農民の間に於いて優勢なことは既に述べた。勞働總聯合 *C.G.I.* に屬する農業勞働者聯合會は共同組合を背景と



するものであつたから、都市の工業労働者の労働組合闘志に富んでゐなかつた。故にそれはファシストの一撃の前に脆くも崩れてしまつたのであつた。都市の労働者を壓伏する爲めには、ファシストも大いに力戦しなければならなかつたことは勿論であつた。今日に於ても都市の労働者はファシスト政府が伊太利内部に包藏する最大の勁敵である。以下、ファシストの政權奪取迄を日記的に述べ、それから其の理論、施政を研究して見よう。

『一九二二年二月、ボノミ内閣辭職。ニコラやオルランド等内閣組織を企て、成らず、デオリツチ又失敗し、ファクタ内閣漸く成立す。三月、ファシストはフェイスユムの支配權を掌握す。七月ファクタ内閣瓦解に傾き、オルランド、ボノミ、メダ、ナヴ等相次で組閣を企て、成らず、八月ファクタ内閣の改造となる。總同盟罷工の計畫あり。次で反動來り、ファシストはゼノアのバラツオ、サン・ジオルジオや、ミラノのパラツオ、マリノを占領す。次で社會黨の機關紙『アヴァンチ!』新聞社を燒打す。そして到る處に秩序と勞働とを維持した。十月、ファシストはトレントの縣廳を占領す。同月二十四日、ナポリのファシスト、大會を開く。ムツソリニの綱領講演あり。三百のファシスト等ナポリの市中を行列して歩く。二十六日、ファシストは内閣に對して最後通

牒を發す。ファクタ内閣は辭表を提出す。ファシストは總動員令(黨員の)を全半島に發布す。ファクタ及び辭職大臣等は國民に對して宣言を發したれども効なく、戒嚴令を宣告す。二十八日、國王は其勅令に署名することを拒絶す。二十六、二十七兩日、既にファシストは羅馬に向つて進軍を始む。二十九日、伊太利國王はムツソリニに新内閣組織を命ず。三十日、勝ち誇つたムツソリニは羅馬に入り、直ちに新内閣の閣員表を閣下に奏す。共產黨が企てた總同盟罷工の叫びは反響を呼び起さなかつた。十一月十六日、ムツソリニは議會に於て宣言をなし、皇帝と新内閣とに全權を委ねられんことを要求した。上下兩院は共に之を承認した。』(石川三四郎『西洋社會運動史』)

羅馬への進軍はファシヨ運動の中最も華やかな場面であるが、これも軍閥の庇護の下に行はれたものであることを忘れてはならぬ。當時羅馬附近にあつたファシストは總數八千を超えなかつた。其の上其の武装といつても大した武装ではなく、行列はお祭りの時の雜踏に似て、秩序とか組織といふものは餘り見出されなかつた。故に若し軍隊にして出動したらんには、鎧袖一觸直ちに壊亂し去る程のものであつたのである。しかるに國王を首腦とする軍閥は、ブルジュワジイよ



り政權を奪はんが爲めに、戒嚴令に署名を拒絶し、一兵一銃たりともこれに對して動かさなかつた。ムツソリニが意氣揚々として羅馬へ入城したのは、決して彼及び彼の一黨の力でしたことはない。それは唯だ軍閥の傀儡として、軍閥の手厚い庇護の下にのみなし得たことであつたのだ。此の十月一―三日に社會黨は大會を開いて時局に對する政策を協議した。政策相近きブルジュワ政黨と提携して此の難局に處すべしといふ主張と、獨往邁進すべしといふ主張とが正面衝突した。票決の結果、提携派二万九千百十九票、非提携派三万一千百〇六票を以つて獨往邁進派の勝利に歸した。そこで提携派は脱黨して別に統一社會黨を組織した。そして勞働總聯合CGIは此の提携派と行動を共にした。ファシストが將に最後の賽を投げんとする時、此のプロレタリア側に起つた陣營の混亂が、益々プロレタリアの戰鬥力を減殺したことは勿論である。ムツソリニは政權を握るや、先づ自治體の獨立を徹底的に破壊した。何故ならば伊太利に於ける市町會の大多數は社會主義者の勢力下にあつたからである。即ち政權掌握より一九二五年に至る間に、伊太利全土に亘る九千の市町會の中、廢止されるもの七千に及んだ。そして其の殘餘は無期停止の處分を蒙つたのであつた。

## ファシズムの理論

一九二三年一月十九日、ファシスト勞働組合全國聯合CNCSの書記長ロソニは次の如き演説をなした。

『社會主義は人間の幸福は私有財産の廢止に依つて實現されるものだといふけれども、我がファシズムはかゝる幸福は、倍加されたる生産と産業の結果以外にはあり得ないといふ根本的な理論の上に其の基礎を置いてゐるのである。』

此の趣意は一九二二年十一月の全國聯合CNCSの大會の發した宣言の中によく敷衍されてゐる。

『勞働組合全國聯合の名の下に伊太利の全領域に亘つて、伊太利の國旗の下に、一切の階級及び肉體的知識的勞働の一切の範疇を構成する全市民を、性乃至宗教の區別なく結合するところの一團體が茲に作られた。』



『本聯合は、組合に基礎を置く社會は、一切の階級の一切の範疇の利害を平等の標準に於て保護し、それ等の間に、夫々の社會的機能を決定する經濟的及び法律的關係の網を設置するものであることを宣言する。』

『斯くて労働組合の組織は、労働階級が此の有機的形態を作り出した事實に關せず、も早や労働階級のみ特に獨特のものではない。故に此の形態は全體としての國家の一有機的部分となる。それが故に又これは國家そのものとなり、國民の一切の物質的、道徳的價値の最高の綜合となる。』

『本聯合は社會の階級はすべて平等に必要であると宣言する。何となればすべての階級の夫々は労働と生産の必要且つ合理的な分割によつて、それに指定せられたる一定の機能を果すからである。それ等の社會的機能が發達するに連れ、これ等の階級は強くなる。何となれば此れらの機能は經濟的發達に依つて決定せられ、そして決して階級の廢止といふことに達しないから——といふのは、階級の廢止といふことは労働と生産の領域に於ける活動の退歩と停止を意味するに違ひないからである。』

『本聯合は更に進んで歴史の能動的法則は、階級闘争、即ち社會的機能の對立と闘争にも、將た又

社會的機能の混同たる階級協調にも存しないことを宣言する。反對にそれは能力の闘争、換言すれば、高級階級の機能を果たすことの可能なる發達の段階に迄達した低級階級内の諸グループが、高級階級の義務なる機能を遂行する能力を失つた高級階級内の諸グループに對する闘争から成立してゐるのである。』

『本聯合は労働組合組織の根本的原理として、能力闘争の公式を宣言する。けれども市民の階級的組織乃至はグループが其の目的として社會的機能の破壊といふことを持つことを許されることは出来ない。故に國家全般に亘つて一切の階級とグループに影響を及ぼす總同盟罷業を許すことは不可能である。』

實に徹底したマルクスの階級闘争説の逆用、といふよりは寧ろ純化である。世の批評家がボルシェヴィスムとファシズムを同母の双生兒といふのは、一部分はかゝる主張にも基づくものである。

ムツソリニはこれに就て次の如く云つてゐる。

『ファシスト労働組合運動は若干のそれ自身の特徴と新奇さを持つてゐることに依つて、一般の



労働組合運動と相違するのである。労働者と使用者と技術者は一つの目的、唯一の目的——祖國の利益にあらゆることを従属させることに依つて、生産と繁榮の最大限を獲得せんとする目的を持つて、一個の調和的な全體を構成してゐるのである。此の觀念は階級闘争を不可避と考へるマルキシストの公式と相容れないものである。』

以上の如き主張に依つて、ファシスト労働組合はファシスト伊太利に於ける國家機關の一部である。前記の労働組合全國聯合 C N C S の十一月大會に於ては、他に次の如き決議をなしてゐるのである。

『ファシスト労働組合全國聯合の中央委員會は、労働問題の解決を任務とする補助的國家機關の機能の性質問題を論議したるが、茲に政府に對して次の法案の批准を求むることに決定した。』

『其の規則を國家主義的原則の上に置く、且つ其の活動が國家の必要と利害とに完全に一致してゐる労働組合組織の代表者のみ國家機關への参加を許容すること、』

『伊太利政府に参加せざる他の團體、乃至は伊太利政府の統制の及ばざる他の團體と、如何なる實際的な關係たりと雖も持つところの乃至は許すところの労働組合組織の代表者は、以上の國家機

關に参加し得ざること、

『一切の労働争議は全國ファシスト黨の権限ある基本部より任命されたる人物の主宰する特別委員會の議に附せらるべきこと。』

しかしファシストが労働組合の獨占權を主張するものでないことは、次のファシスト黨の最高會議の宣言に依つて明白である。黨内の多くは労働組合の獨占到賛成であつたらしいが、最高會議に於てはロソニとファリナツチ Farinacci の主張が通つたのだと云はれてゐる。

『ファシスト最高會議は労働組合組織の中に國民的ファシスト革命の一面を認めるものである。労働組合組織はそれの必要と規律に無條件に服従するものである。ファシスト最高會議は、其の第一回會議の決議に遵合して、如何なる労働組合の獨占到にも反對することを宣言する。しかりと雖も最高會議は廣汎なるプロバガンダとアジェーションの活動に依つて全労働者、技術者、雇主をファシズムの統制下に齎らすことを必要と考へるものである。何となれば、唯だ單一の規律と單一の信仰の下に於てのみ、國家の最高利益の爲めに一切の生産的要素の効果ある協働を獲得することが可能であるからである。』



『更にファシスト最高會議は、全ファシスト黨員がファシスト労働組合組織に屬し、其の管理と指導に活潑に參與すべきこと、並びに組織されたる全ファシストのグループ（鐵道労働者、郵便電信労働者等）がファシスト労働組合全國聯合に加盟すべきであることを宣言する。』

ファシヨ運動のも一つの特徴は中流階級の尊重である。ファシストが農民運動をなすに當つて小農に對する適宜の政策を掲げて成功したことは既に述べた。ロソニはこれに關して次の如く述べてゐる。

『中流階級は常に最大の犠牲を拂ひ、常に忠實であつた。何となれば彼等は自分勝手な理由に依つて未だ曾つて國家の利益に反した行動をしたことがないからである。彼等は社會に才能と文明を供給する階級である。國家的労働組合主義は精銳者の運動でなければならぬ。此の理由に依つて戦時中最も勇敢な士官を我々に供給した中流階級の中に、それは主なる支持を有するのである。』

我々は次にファシズムの實際を検討して見やう。

### ファシズムの實際

ファシストが未だ政權を握らない以前、彼等は社會主義を奉ずる労働組合本部を襲撃して焼き拂ひ、書類を燬却し、幹部を或ひは打擲し、或ひは虐殺し、或ひは追放に處して労働組合破壊作業を續けてゐたが、政權を握るや此の暴行を合法化し、未だ解散しない労働組合に對して解散を命じ、其の財産を沒收する權能を地方官憲に與へた。斯くて伊太利に於ては全く政府反對の労働者の組織運動は、政治的にも經濟的にも不可能にされたのであつた。我々は天下周知の事實を此處にクダクダしく述べることはしない。直ちに一九二六年四月三日の法律に就て述べて見よう。

此の法律は前掲の諸理論の實際化であるが、それによると伊太利は地域による區域に分たれ、此の區域内に於いては、全雇主、全被使傭人、全専門家（技術者、社員等即ちサラリーマン）階級は夫々の構成してゐる經濟的グループに對して一個の組合に依つて代表されるのである。國家に於ける法律的代表の機能は此の組合の獨占するところである。そして其の組合の代表は『國家



的忠誠の無限の保證』を與へられる。即ちファシストの信認を博するのである。そして此の法律に依つて認められた組合は、夫々の職業乃至産業の使用者、被使用者、サラリーマンを代表するのであつて、その組合に加盟してゐるものが全體の一刻でもそれは差し支えないのである。すべての使用者、被使用者、サラリーマンは此れに加盟してゐると論なく、彼等の經濟的グループの一定の組合費を組合に拂はねばならず、その組合費は使用者が其の賃銀、月給から差し引いて組合へ拂ひ込むのである。組合には會長乃至書記が存在するが、彼等は組合の指導者であり、代表者であり、統制權を持つてゐるのである。彼等は彼等が考へて『道徳的及び政治的見地から見望ましからざる人物』となすものを、抗告の權利を與へずして除名することが出来る。しかも此の會長や書記は必ずしも組合員が選ぶものとは限らない。それは組合の規約次第で如何でもいふことになつてゐるから、實際はファシスト黨の指導者に一任してしまつてゐるのが多い。組合の執行委員は選舉によるのであるが、その權限は會長乃至書記と共働するといふこと以外にはない。そして執行委員が會長乃至書記と一致しなければ、政府は組合を解散することが出来るばかりでなく、其の會長乃至書記が國家的忠誠を示すに於て缺けるところがあるならば、何時で

も政府はそれを直接に罷免し得るのである。之を要するにファシスト黨と完全に一致してゐるか、乃至はそれに加盟してゐなければ、如何なる組合も法律上の承認を得ることは出来ず、それより生ずる特權も享受出来ないのである。

扱て此の合法的組合の使用者と被使用者との契約は、組合加盟の有無を問はず其の地域の夫々の職業の一般に及ぼされるのである。罷業は勿論禁止されてゐて、それを犯す者は理由に依つて七年迄の懲役に處せられるのである。ロック・アウトも違法である。契約の履行に關する紛争、並びに新規に起る紛争は、すべて其の地域の抗訴院に於いて判決されるのであるが、判事の任務は此の法律に依つて『生産の繼續を確實にするといふ最高の必要』を心中に銘記して事件を處理するにあると定められてゐる。此の法律が議會に提出せられた時、其の報告の中に『社會は餘り高價でない價格に於て、換言すれば伊太利品に外國品と競争の出来る様にさせる價格に於て、商品が生産されることに利害關係を有してゐる』と述べられた。既に此の法律は適用せられて多くの處罰を蒙つたものがあるが、勿論それは全部労働者側である。

我々は若干デイ・フエクト De Facto 労働組合に就いて語らう。今述べたファシスト労働組合に



加盟することは「任意」であるから、合法的組合に加盟したくない使用者、被使用者、サラリーマンは共に別の組合に加盟することが出来るが、これがデイ・フェクト(事実上の)組合である。しかし此のデイ・フェクト組合は次の二つの條件を守らなければならない。即ち一、警察の要求に依り、役員及び組合員の氏名を尋ねられた時は速刻それに答へなければならぬ(一九二五年十一月の法律)。二、官憲の信頼に背いた場合、又は不法なる支出をなしたる場合、又は基金を組合員の利益に反して使用したる場合乃至労働者の経済的及び道徳的幸福以外の目的に使用したる場合は、地方官憲は該團體の事業を調査或ひは訊問することが出来る。地方官憲は該團體の決定を修正或ひは否認し、執行機關を解散して地方官憲の任命した代理者に其事業の管理をなさしめることが出来る(一九二四年一月の勅令)。故にデイ・フェクト組合は實際に於て不可能である。デイ・フェクト組合が解散せられた時は、其の所有財産は全部没収され、それと同じ経済的範疇に属するフアシスト組合に移譲されるのである。例へば建築共同組合が解散された場合、委員会に代つて事業を管理する政府は、何人であれ『望ましからざる』組合員を其の建築物から追ひ出すことが出来るのである(一九二五年五月の勅令)。

ムツソリニの政策は、生産の増加を圖つて外國と競争するといふ一語で盡きる。彼は一九二六年七月一日、使用者に對して労働時間を八時間より九時間に延長することを許したが、其の時延長された第九時間目の一時間の賃銀は、外國の競争に依つて最も脅やかされてゐる産業に於いては支拂ふ必要がないと宣言した。

フアシスト労働組合員の總數は幾何か? これに就いては殆んど確實な數字はないといつていい。一九二三年末に於いてルイジ・ヴィラニは百万以上はあるといふかと思へば、デミケリスは十月二十五日調査で百八十万といふ。同じデミケリスが翌年五月には百七十六万四千四百二十三人と發表してゐる。ロソニはコルゾノフとの對談に、一九二五年末には二百三十万と答へたといふ。しかるに彼は同じ頃モオニング・ポストの通信員には二百十九万六千六百〇六人と語り、佛蘭西人アンリ・ルカスには百五十万と語つてゐる。ヴィラニは、一九二六年四月に於ては二百十五万三百十人と發表してゐる。恐らく正確なことは何人にも分らないといふのが本當であらう。



## 其の後の社會運動

一九二四年四月のファシスト政府の大弾壓下に行はれた總選舉に於ては、次の如き結果が見られた。

ファシスト	………	三六四
統一社會黨、マキシマリスト(社會黨)、共產黨	………	六五
人民黨	………	四〇
ジョリツチ派民主黨	………	一七
社會民主黨	………	一一
憲法黨反對派	………	一二
共和黨	………	七
其他	………	九

共產黨は一九二四年には黨員一万二千(代議士十八人)ありと報告してゐる。社會黨(マキシマリスト)の代議士は二十二名、統一社會黨(チュラチ一派)の代議士は二十五名である。

同年六月、社會黨の幹事長マツテオチ Giacomo Matteotti は議會に於てムツソリニを攻撃した結果、ファシスト黨員の襲ふところとなり、十日自動車にて誘拐され、羅馬郊外に於て殺害せられた。ファシストの最高幹部二名が此の事件に係してゐることが暴露し、その逮捕を見たが彼等は此れムツソリニの指圖に依つて爲したものだと言明して政局は危機に瀕した。ムツソリニは周章狼狽、黒襖衣黨員を動員して之に對し、漸く政局を安定することが出来た。

アナキスト及びアナルコ・サンデイカリストの重要人物は殆んど國外に亡命し、パリを本部として運動をしてゐる。マラテスタは嚴重なる監視の下に羅馬に居る。一時は『思想と意志』*Pan-siero e Volontà* といふ月刊雑誌を出したが、今はそれも出て居らぬ。

社會黨(マキシマリスト)は第三インタナショナルより脱退し、そしてセラチは再び共產黨へ加盟した。統一社會黨は第二インタナショナルに屬してゐる。

ファシスト治下のプロレタリアは決して唯だオメク屈從してゐる譯ではない。一九二三年、



パルマの労働者は総罷業をなし、ミラノの鐵工、印刷工も大罷業を敢行し、一九二五年にはファシスト組合の決定に反抗して北部伊太利に於いて二十四時間同盟罷業が行はれた。労働總聯合 C G L の書記ダラゴナはこれに關して辭職した。一九二六年三月にはブレシアのファシスト組合の鐵工八千人が割増を要求して罷業したが、十三日に至るやロンバルディ地方の労働者は全部これに参加して總同盟罷業となり、罷業者の總數は、實に十二万乃至十三万に上つた。

ファシストはこれらに對しては勿論大彈壓を加へた。ファシスト治下に於ける伊太利プロレタリアの英雄的な闘争に就ては、筆者は他日又機會を見て詳細に述ぶることとする。(終)

## 伊太利篇 終

## 西班牙篇 『附、葡萄牙篇』



## 緒言

西班牙の社會運動史はアナキストの運動史である。社會黨は一九一二年に至つて漸く一人の代議士を國會に選出し得たに過ぎない程、それ程微力である。レエはこれに就いて一九〇八年次の如く書いてゐる。John Rae: *The contemporary socialism.*

『此のことは其の中央集權的政府を長い間すつかり嫌厭して來た、そして彼等自身の自治體的組織で一般に満足して來た西班牙人にとつては當然のことである。西班牙國民は其の最も卑賤な者と雖も、他の國民よりも遙かに、デモクラテイツクな希求の根底をなすところの個人的權威及び相互平等の感情に染み込まれてゐる。そして住民の中讀み書きの出來る者は誰でも公の會議で發言の出來る其の地方々々のコミューンに於て、彼等は長年の間彼等自身の仕事を協調と良結果とを以つてやつて行くことになれて來たのであつた。故に西班牙の革命的傳統は、常にコミューン自治に、中央集權的共和國よりも聯邦共和國に傾いて來たのである。カステラルも聯邦共和國は今直ちに



實行は出来ないと思ふが、國家の最も完全なる形式であると宣言した。そしてインタアナシヨナルが積極的な役割を演じた一八七三年の革命は、實にその建設を目的として起つたものであつたのだ。聯邦共和主義者はすべて社會主義者であるといふのではない。彼等の多くは農業労働者を自作農とすること、或ひは共有財産を其の間に分割することをさへも目的としてゐたのであつた。しかし非常に多くの共有財産の既に存在してゐる西班牙の如き國に於ては、他の一切の財産を共有財産とするといふことが、改革の手近な源泉として常に直ぐ眼に付くのである。』

米國の銀行家ヴァンダーリップは、一九一九年に於ける彼の西班牙印象を次の如く述べてゐる。  
Vanderlip: What happened to Europe.

『西班牙の工業は概してバルセロナとビルバオに限られてゐる。バルセロナは歴史的に騒々しい土地である。バルセロナを首府とするカタロニア州の住民は、一般の西班牙型とは人種的に異種の種族である。其の住民は自分等だけの言葉を話し、他の西班牙國民とは違ふ考へを持ち、違ふ行動をする。政治的にはバルセロナは、西班牙に對して、愛蘭が大英國に對して提する問題と畧ほ同じ問題を提してゐる。彼等の希求するところは少くとも限定された自治であるが、議會 Cortes

のこれに對する返答は何時も相變らずの嚴酷な壓迫的手段であつた。

『そこでカタロニアには他の諸州では發見されない不安定に對する政治的根底があるのである。しかし其處には亦政治的相違に根底を有する何ものよりも遙かに以上に興味があり、意味のある一つの社會的現象がある。バルセロナは鐵工業を除いて殆んどあらゆるものに對する西班牙の工業中心地であり、住民の大多數は賃銀労働者である。』

『カタロニア人の地方的特徴、彼等の獨立心、彼等の政府無視、彼等の進歩主義等の一切は、私にとつて私が未だ會つて接觸した中で最も脅迫的な、最も異常な、最も恐ろしい團體を逞いまゝに作り出したのであつた。此の労働者の住民はサンデイカリストに支配されて居り、そして私はバルセロナに於て始めてサンデイカリスムといふものが實際に於いて如何なるものであるかを知つたのである。』

『バルセロナが適例を示すやうに、サンデイカリスムは現在の社會秩序と妥協しやうとしない。それは其の希求と其の手段に於いてポルシェヴィキである。それは現在の資本主義的社會組織を承認することを拒み、そして資本主義的國家の壊滅の上に社會主義的國家を打ち樹てることの出



來る爲めに、現在の社會秩序を徹底的に顛覆せんと決心してゐる。

『それを成就する手段は、サンデイカ、或る意味に於て一般的勞働組合と呼ぶことが出来るかも知れないあらゆる職業の勞働者を包含するサンデイカを媒介とするものである。しかし勞働組合とは似ても似つかず、其の指導機關は完全なる神秘的な雲の中にかくされてゐる。誰が此のサンデイカリストの運動を指導してゐるのかは何人も知らない。そして私が此の「何人も」といふ時は、私はそれを文字通りに意味してゐるのである。サンデイカの組合員である勞働者も、局外者と同じ位何も知つてゐはしないのである。此の團體はモリ・マグワイヤ黨の秘密的性質と伊太利のマフィアの恐怖手段的性質とを亨けてゐるのである。多分其の背後の何處かに首脳部が乃至は委員會があるに違ひないからうが、しかし誰々が其の指導機關を構成してゐるのかは、此の團體の最も活潑な勞働者にさへも秘密にされてゐる。通信の方法はすべて二人のグループによつてなされる。それが何んであるにせよ、中央組織から始つて、各組合員は其の團體に於て他の二人の會員と直接の連絡を結んでゐると思はれる節がある。それから順次に其の一人々々は又他の別の二人の組合員と直接連絡し、そしてこれは算術級數的に何處までも行つてゐる。此の關連は政府の秘密探

偵に依つて十四層迄遡つて探られたが、尙ほ眞の指導者迄に達しなかつたのである。總同盟罷業は單なる一種の團體教練として、何の要求をも爲すことなく、罷業終熄の交渉をなし得る何人も出現することなくして行はれるのである。かゝる罷業は一日か乃至一週間續いて、そして勞働の停止の時と同様に且つ神秘的に再び就業される。此れ等の一切は世間に印象を與へ、團體を訓練する爲めに爲されるのである。』

此れは一九一九年に總人員八十萬に達した全國勞働聯合會 Confederacion nacional del Trabajo の描寫である。銀行家であつて、社會學者でないヴァンダアリツプにはボルシェヴィスムとアナルコ・サンデイカリスムの區別の分らないのも無理はないとして、彼の印象記は西班牙の勞働運動の性質を知る手引にはなる。

西班牙は大體農業國である。人口約三千萬の七割は農民であつて、加特力教の勢力が非常にあり、教會は國費を以つて維持されてゐる。國人中成人の五割以上は無教育で、大地主跋扈し、農民の生活は悲惨である。今西班牙の社會運動史の叙述に入る前に、若干運動に關係ある同國歴史を顧り見て置かう。



一八三三年フェルディナンド七世崩御するや、フェルディナンドに男子が無かつたので、遺子イサベラ内親王とフェルディナンドの弟ドン・カルロスとの間に王位継承の争ひが起つた。これが十九世紀中西班牙に止むことなかつたカルロス黨(ドン・カルロスを王位に即けんとする一味)の騒動の發端である。イサベラはドン・カルロスと對抗して自からの王位を守つたが、ドン・カルロスは西班牙北部の加特力に勢力あり、何かの機会があれば一揆を起して王位を奪はんとした。その中にドン・カルロスは死去したが、毫も紛亂は治らない。といふのはドン・カルロスの倅、同じくドン・カルロスが父の意を嗣いで王位を斷念せず、カルロス黨の推戴を受けたからであつた。しかるに一九六八年、イサベラの暴政に反抗して民衆が革命を起し、イサベラは佛蘭西へ蒙塵した。そこでブルジュワジイと支配階級は何人を國王に推戴すべきやを議したが、遂に一八七〇年十一月、議會は伊太利皇太子フンベルトの弟アマデオを推戴し、立憲君主國となつた。ところがアマデオに對しては國人が服さないのみか、支配階級も彼の自由主義には大分當惑し、カルロス黨、イサベラ黨いづれも跳梁したので、一八七三年アマデオは突如退位して伊太利へ歸つてしまつた。そこで共和制となつたが、同國には中央集權派共和主義者と聯邦派共和主義者とがあり、

後者はカントナリスト(地方自治主義者)と稱されてゐるが、彼等は前者及び後者中の妥協派の措置をを喜ばず、各地方に於いて暴動を起した。折しも西班牙に發達しつゝあつたインタアナシヨナルは、諸處に於てカントナリストと提携して運動し、其の中にはインタアナシヨナルが覇權を掌握したところもあつた。そこで内亂となつたが、結局は政府は軍隊の力で反對派を壓伏した。しかしこれは政府の無力、軍閥の實力を立證する結果となり、軍閥のクウ・デタに依つて共和政府は顛覆し、一八七四年の末、イサベラの子アルフォンゾ八世が歸國して王位に即いた。新王其の時年十三歳。これ現在の西班牙國王の父である。

〔筆者は西班牙語を知らず、そこで以下人名發音等はすべて英語讀とします。讀者これをよろしく寛恕して下さい。〕

## ムンツの運動

一八四二年頃、エスバルテロに依るバルセロナ砲撃の後のこと、同地のムンツ Muntz と呼ぶ



一紡績職工は、雇主に對する反抗の團體であると同時に、生産組合であるところの手織紡績職工の組合を作つた。この組合は老後勞働に堪えざるものに對する年金支給の施設を包含し、同時に貯蓄銀行をも經營してゐたのである。此の共同組合的勞働組合は聖パンクラスの言葉に従つて組織されたものであつて、昔の宗教的な共同組合 *cofrades* の佛を多分に持つて居た。カタロニアは西班牙に於て最も早く工業の發達したところであり、人氣又荒く束縛を厭ふ氣風のあるところであつたから、従つて小工業の最も早く影をひそめたところ、昔の宗教的な共同組合の最も早く消滅したところであつた。

ムンツの創立した組合は政治的事情の爲めに短命に終つた。何故なら一八四三年、其の會員が二千に達した時、プリム將軍がこれを禁止解散したからである。しかし此の運動は死滅し去つた譯ではない。

一八四八年になると隣國佛蘭西に革命が起つた。ルイ・ブラン、ブルドオン、コンシデランなど近世社會運動の先驅者が華々しい運動を始めた。此の影響は直ちにピレニイ山脈を起えて西班牙に波及した。進歩思想が湧き起つた。政府も此の形勢に正面から立ち向ふことを恐れた。社會主義

と共和主義は公然と唱へられるやうになつた。マドリッドに於てカモラ *Canora* が主筆となつて『經濟的改良』 *Reforma Economica*、及び『青年の反響』 *El eco de la juventud* が發行された。これ等は『同盟』 *Asociacion* といふ一つの雜誌に結合したが、讀者は二千を下らなかつた。

バルセロナは於てはムンツの起した運動が復活した。そして一八五四年の初頭、カタロニヤに於て紡績業が巨大な發達をなすや、此の組合の數は益々多くなり、同年此等は集まつて、職業組合同盟 *Union de Clases* を組織し、常置の執行機關を設ける迄に至つた。しかしこれ等は未だ秘密結社であつた様である。

翌年、總督ザパテロ將軍はこれを彈壓しやうとした。『この壓迫に對して勞働者は總同盟罷業の決心を固め、一八五五年七月二日、五万の勞働者は工場を捨て去つたのである。此の運動は殆んど全カタロニアに蔓延し、バルセロナにも波及した。サンス、イグラナダ、オイチに於ては、恰かも武裝的反逆の如く血塗れな闘争が惹起され、バルセロナの勞働者は其の長旗に『死の同盟』 *Asociacion morto* と書き付けた。情勢は政府にとつては非常に危険であつた。同時にバスク地方に於てカルロス黨の叛逆が新たに爆發するや、その危険は益々助長さるゝに至つた。そこでバ



ルセロナの知事は労働者に罷業の終結を勸告し、そして彼等の正當なる要求を政府は容れやうと約束した。』(ルドルフ・ロツカア『パンの爲めの闘争』)そこで労働者は十一日に罷業を打ち切り、約束を以て満足し、政府に團結の權利を要求する爲めに代表者をマドリッドに派遣した。けれども危機が去ると『彼等に與へられた約束は卑劣にも破棄され、カタルニア全土は軍隊の充満するところとなつたのである。多くの労働者は銃殺され、何百人となく牢獄に打ち込まれ、又はフィリッピン島へ流刑に處せられたのであつた。』(前掲書、新井松太郎譯)かくて労働運動は其のうぶ聲を擧げるや否や蹂躪されてしまつた。

### インタアナシヨナル

一八六八年九月、民衆の自由の叫びは益々大になり、遂にイサベラは退位せざるを得ざるに至つた。此の機に乗じてバクニンの友人、伊太利の代議士フアネリがインタアナシヨナルの支部を西班牙に作つたのであるが、此の以前からバクニンは西班牙に友人を有し、形勢を窺つて居たに

違ひない。既に彼は一八六六年七月十九日ヘルツェン Heizen とオガレフ Ogareff に宛てた手紙の中に、彼の社會主義的祕密結社の中に西班牙人の在ることを報じてゐる。(Dragomanoff: Correspondence de M. Bakounine) しかし今はそれが何人であつたかは知る由がない。

當時バクニンの影響を受け始めてゐた瑞西ジュネエヴのインタアナシヨナル支部は、此の革命に際して早速次の如き檄文を西班牙の労働者に對して發した。

『政治的平等のない自由、そして經濟的自由のない政治的平等は一つの囿りに過ぎない。數世紀に亘つて共和國の中に生活してゐる瑞西國民は、尙ほ單なる自由は労働者の生活状態を有効に變へないことを感じてゐる。……すべての個人が同様の權利を有すること、即ちすべての個人が過去の世代に依つて獲得された資本を平等に所有することに存するところの眞實の平等、此の各人に對するあらゆる權利の中の第一の絶對の權利、生存の權利を保證し得るところの唯一の平等、此の平等は、我々は敢ていふ、唯だ××××に依つてのみ獲得され得るのみである。』

『故に××××を決行せよ。……現在の社會の被廢嫡待遇者は、擁護すべき同一の立場を持つこと、相互に團結すべき必要を覺ることによつて、我々の壓制者の作り出した國境を超え、それ



を無視して歐羅巴及び亞米利加に國際労働者同盟を建設した。此の強力なる團體の目的とする所は、即ち労働の立場の特權に對する勝利、獨占資本及び國家によつて保證せられてゐる不公平な制度、相續財産に對する勝利である。相續財産權は、謂はば無政府的制度である。何となればそれは社會的無秩序の根源である生活條件の不平等を永久化し、發達せしむるものであるからである。『……西班牙の兄弟よ、團結して我々の事業に参加せよ。……將軍やブルジュワ民主主義者共に騙されるな。……諸君は特に民衆の獲得する改良といふものは何時でも民衆が奪ひ取つたものに過ぎないこと、且つ又如何なる國に於ても支配階級は決して自ら進んで讓歩はしないといふことを憶ひ出さなければならぬ……』

『労働者諸君、鐵は赤熱してゐる中にこれを打て……しからは諸君の革命は、世界に於けるすべての被壓迫者の解放の烽火となり、端緒となるのだ。』

これはペロン Peron が起草してバクニンが加筆したものだといふ。

一方西班牙に於ける形勢は如何といふに、此の九月革命に乗じてバルセロナ及び其の地方の労働者は多くの労働組合を組織し、それは聯合して労働組合聯合本部を設置した。その大會に於

ては、同聯合の目的は政治的には聯邦的、民主的共和主義であること、經濟的には労働者の經濟状態の改善にあることを明らかにした。又カタロニアの紡績工は、紡績産業の三部門に於て夫々組合を作つたが、それは更にカタロニア聯合會 *Federacion de las tres clases de Catalunya* を組織し、カタロニアに於ける紡績工七万の中六千人を團結せしめ、重要な團體となつたのである。

バクニンの友人で其の頃西班牙に行つたのはファネリ一人ではない。少くともエリイ・ルクリュエ *Elie Reclus* 及びアリスティド・レイ *Aristide Rey* の二人も確かに入國したのであつた。バクニンは當時社會主義的民主主義同盟を組織してインタナショナルに加盟し一方又それとは別に國際同胞同盟 *Fraternité internationale* を組織して居たが、此の三人は此の秘密結社に屬してゐたのであつた。しかるにエリイ・ルクリュエとレイとは、西班牙に於てファネリと方針を異にし、前者は當時西班牙に發達しつゝあつた社會主義的分子を團結せしむることよりも、寧ろ急進主義とブルジュワ社會主義の一派と提携をなしたのであつた。そしてバクニンによると、エスバルテロやプリム等との親睦の試みに手を貸す迄に至つたといふ。そこでバクニンは怒つて此の同胞同盟を解散してしまつたのであつた



大體西班牙の聯邦共和主義者の間にはブルドオンの影響を受けたものが少くなかつた。後に共和國の執政官となつたピ・イ・マルガル Pi y Margalle の如きは、有名なブルドオニアンであつて、彼の手になるブルドオンの著作の西班牙譯は非常に多いのである。又經濟學者デ・ラ・サグラ de la Sagra も立派な理論家であつた。インタアナショナルは此の一派に屬する人々の間に先づ受け容れられたのであるが、其の爲めにバクニン派の思想は極めて容易に理解されたのである。ファネリの傳道の果實は先づマドリッドに結んだ。彼は一八六八年十一月マドリッドに於て二十一名より成る組織者の團體を作ること成功したが、其の中にはモラゴ Thomas Gonzalez Morago とロレンソ Anselmo Lorenzo の二名が居たことを記憶しなければならぬ。前者は印版師であり、本名はトマス・ゴンザレツなのであるが、同姓同名の人があつたので、母方の姓モラゴをそれに附して名乗つて居たのである。後者は植字工であつた。ファネリは更に翌年五月八日、バルセロナに第二の中心を作つたが、其の先頭にはベリセエ兄弟が立つてゐた。同年九月一日、バルセロナに其の機關新聞『聯合』Federacion を發行した。主幹はファルガ・ベリセエ Rafael Farga-Pellicer であつた。

此のインタアナショナルの運動は直ちに勃興しつゝあつた労働運動に影響を與へた。一八六九年の末には百九十五の支部が成立し、組合員數は二万人に達した。そして運動はマジョルカ島のバルマに迄及び、其處で『社會正義』Justicia sociale が發行された。又アンドルシアの農民の間に於てもインタアナショナルは非常に歓迎された。一八六九年に西班牙の社會運動を視察したラヴレイは、親しく此のインタアナショナルの運動を目撃した人であるが、次の如く記してゐる。

*Le socialisme contemporain.*

『インタアナショナルの會合は概ね神を崇める然めに建てられた教會に於て催はされてゐた。其の説教壇から演説者が以前にそこで崇められてゐた一切のもの——神、宗教、僧侶、富豪を攻撃した。演説は最も熱烈に行はれた。しかし聽衆は黙つて聞いてゐる。多くの女が地面へ座つて、仕事をしたり、子供をあやし乍ら、一生懸命に其の説教を聞いてゐた。實にそれは九十三年（佛蘭西大革命のこと）の俤其のものであつた。』

一八七〇年四月四―六日に瑞西のインタアナショナルはシヨオ・ド・フォンに大會を開いた。が此の大會に於てはマルクス派のウティン Outline とバクニン派が衝突して、遂に瑞西のインタア



ナショナルの分裂を見、後のヘーグ大會分裂の前哨戦となつた。此の大會に對しては西班牙のサンティニオン Santion とファルガ・ペリセエとが連名で祝辭を送つたが、その意見は當時の西班牙のインタアナショナルの代表的意見であつたのだ。

『政府に當面しての労働者の態度に關しては、我々は幸にも西班牙の労働者が漸次に労働者が國家の仕事に参加することから何もかも絶對に期待することは出来ないといふこと、此の方法に依つて労働者の爲めに改善を獲得する爲めに捧けられた一切の努力と時間とは單に悲惨にも無益であるのみならず、其の上積極的に有害である、何故ならばかゝる試みは我々が甚だ遺憾にも佛蘭西、英吉利、獨逸、及び獨逸瑞西に於て見る如くに、唯だ貧乏せる我々の同僚の大多數をして迷路に走らしむるに過ぎないから、といふことを自覺して來てゐるのを確證し得るのを喜ぶものである。』

一八七〇年六月十九日、西班牙のインタアナショナルに屬する人々はバルセロナに大會を開いた。そして此の大會でインタアナショナル西班牙聯合會 *Federacion regional española de la asociacion internacional de los trabajadores* が成立し、前記のバルセロナの労働組合聯合本部は

此の新團體の一地方支部となることに決定した。そして此の新團體は政治的に聯邦共和主義を會の綱領に掲げることを抛棄し、各個人に其の政治的意見の自由を認めた。しかし此の新團體がバクニン主義の労働團體たることは明白であつた。此の大會の議長は佛蘭西の亡命者バステリカ Basteica が勤めた。本部はバルセロナに置かれたが、參加した團體はバルセロナ、トルトザ、グロシア、ヴァラドリッド、ルウス、タラゴナ、クゼレス、ヴァレンシヤ、セヴィラ、カディヅ、バルマ及びマドリッド等に散在してゐた。本部の聯合委員にはアンジェル・モラ Angel Mora (大工)、ボレル Enrique Borel (裁縫工)、ロレンソ (植字工)、モラゴ (印版工)、フランシスコ・モラ (靴工) が選ばれた。

かくてインタアナショナルは統一もとれ、運動も駸々として進捗し始めた。政府は恐怖して、其の夏インタアナショナルを壓迫し、其の首領を追窮した。フランシスコ・モラ、モラゴ、ロレンソは葡萄牙のリスボンに亡命し、ボレルは引退し、アンジェル・モラのみマドリッドに留まつて全國との連絡をとつた。葡萄牙へ亡命した連中は、同地にインタアナショナルの運動を起した。

此の際一言云つて置きたいことは、此の表面的なインタアナショナルの背後には社會主義的民



主々義同盟（西班牙語にては *Alianza de la democracia socialista*. 以後畧してアリアンザと呼ぶ）といふ秘密結社があつて、此の運動を指導してゐたことである。此れはフアネリがインタアナショナルの運動と同時に西班牙に輸入したものであるから、インタアナショナルの重要人物は大抵これに加盟してゐた。インタアナショナルはマルクス等の異議によつて、此のアリアンザを認めないこと、即ちアリアンザは解散されることになつてゐたのだから、西班牙でも表面的にはこれは消滅したが、裏面に於ては相變らず存続してゐたのである。ネットラウが後年瑞西ジュネエヴで発見したアリアンザの名簿には左の九名の西班牙人の名があるが、実際にはこれよりも遙かに多かつたに違ひないのである。

フアルガ・ペリセエ（バルセロナ）、ジョゼ・ペリセエ José L. Pellicer（同）、コオルドヴァ・イ・ロオ・ベツ Cordova y Lopez（マドリッド）、ルバウ José Rubau（同）、モラゴ（同）、セネガルタ Angel Cenegarta（同）、フランシスコ・モラ（同）、サンテイニヨン（バルセロナ）、ゴミス Celso Gomis（ジュネエヴ）。

其の會則は次の如きものである。

一、アリアンザはインタアナショナルの會員によりて組織され、インタアナショナルのプログラムの原則の宣傳と發展、勞働階級の直接及び即時の解放を實現すべき適當なる一切の手段の研究と實踐とを目的とする。

二、出来る限りの好結果を獲得する爲めと、團體の進歩を阻碍しない爲めに、アリアンザは極く秘密な團體とされる。

三、新會員の入會に際しては、既に會員たるものゝ推薦を俟つて、希望者の人物、事情等を精査する任務を帯びる委員會任命の手續を踏まなければならない。希望者は此の精査委員會の報告があつて後に、全會員の多數の賛成を経て入會出来るのである。

四、省畧。

五、アリアンザは地方的勞働者聯合が反動的乃至反革命的な道をとらない様に、それ等の内部に於いて出来るだけの勢力を獲得する。

六、七、省畧。

八、加盟したる會員の間に於ては完全なる共同一致が存在し、而して其の多數に依つて可決さ



れた決議は全會員に對して強制的でなければならぬ。そして全會員は一致的行動の前に、夫々の間に存することのある個人的裁量を常に犠牲にしなければならぬ。

九、會員の多數決によつて、理由を示さずしてアリアンザから會員を除名することが出来る。以下省畧。

モラゴ、フランシスコ・モラ、ロレンゾ等がリスボンにインタアナショナル運動を起した時、同時に此のアリアンザをも輸入したことは勿論である。

## 政府の壓迫

政府の彈壓政策の結果、公然と大會を開けない西班牙のインタアナショナルは、一八七一年九月九十七日、ヴァレンシアに於て初かに代表者の秘密集會を開いた。フランシスコ・モラや、ロレンゾ、モラゴ等も葡萄牙から歸つて來てこれに加はつた。これは將に開かれんとしてゐたインタアナショナルの倫敦大會に代表を送らなければならなかつた。ロレンゾが代表に選ばれて、會議

半ばにも拘はらず直ちに出發した。大會は次の如き宣言を發表した。

『共和制 *république* といふ言葉、羅典語の *res publica* は、其の眞の意味に於ては公共の事物、集團に屬する事物、即ち集團的所有を意味することを考慮し、

『又デモクラシイのいふ言葉は、個人的權利の自由なる行使を意味する *democrata* から出た言葉であつて、それは唯だアナキイに於てのみ、即ち其の機能の全然經濟的な労働者國家によりて代置せられる政治的、法律的國家の廢止に於てのみ存在し得ることを考慮し、

『ヴァレンシアに會合したインタアナショナル西班牙聯合會の代表者會議は、

『眞の聯邦的民主主義的共和制は、集團的所有、アナキイ、及び經濟的聯合、換言すれば自由なる農業及び工業労働者の組合の自由なる世界的聯合であることを……宣言する』

此の時選ばれた聯合委員は \*フランシスコ・モラ、ロレンゾ、アンジェル・モラ、\*イグレシアス Paulino Iglesias (後) Pablo Iglesias と稱す) \*メサ José Mesa \*パウリイ Hipolito Pauly \*ハンクス Victor Pagés \*カレジャ Innocent Calleja \*サアハンツ Valentin Saenz の九人であつた。此の委員會は非常に危機を包蔵してゐるものであつた。何となれば其の姓名に \*印のついて